

子どもの読書活動に関するアンケート調査

2015

南アルプス市子どもの読書活動推進協議会

★調査概要

この調査は、「子どもの読書活動推進事業」の一環として行なった平成16年度『学校調査2004』、平成22年度『子どもの読書活動に関するアンケート調査2010』に引き続き実施した。これは子どもの読書活動推進協議会において、前回の調査結果と比較し、市内の子どもの読書活動や読書環境の現状を把握するとともに、子どもの読書活動に影響を与える要因を明らかにすることを目的としている。

この調査の分析結果は、学校図書館や保育所、幼稚園、児童館等子どもの読書に関わる施設と公共図書館が連携して、子どもの読書環境づくりを地域ぐるみで推進するための参考とする。また、平成23年3月に策定した『ひろげよう子どものせかい—南アルプス市子どもの読書活動推進計画—(第2次)』に沿って、本市の子どもの読書活動の推進を図っているが、その見直しのためにも反映していく。

子どもたちが生涯にわたる読書習慣を身につけ、子ども自身が読書の楽しさを知り、心豊かに成長できる一助となるよう活用していきたい。

★調査方法

- ①児童生徒用…学校で学級ごとに担任が立ち会って一斉に実施
- ②保護者用…保育所及び学校から調査用紙を家庭に持ち帰り保護者が回答し、保育所及び学校に提出
保育所及び学校は、公共図書館で回収
- ③施設用(小中学校・高等学校)…用紙で依頼
- ④施設用(保育所・各園・児童館)…用紙で依頼、公共図書館で回収
- ⑤ブックスタート用 4ヶ月健診時…健診時に保護者に依頼
1歳6ヶ月健診時…問診表配布時にアンケート用紙を入れ当日回収

★調査期間

- ①～④平成27年7月1日から15日まで
- ⑤平成27年8月から11月まで

★調査対象

- ①児童生徒用
小学校4、5、6年生、中学校2年生
・小学校は、学年1クラスを調査対象とする。
・中学校は、学年3クラスを調査対象とする。
- ②保護者用
3歳児、小学校1、4年生、中学校2年生
・学年1クラスを調査対象とする。
- ③施設用(小学校・中学校・高等学校)
- ④施設用(保育所・各園・児童館)
- ⑤ブックスタート用
・4ヶ月健診児保護者
・1歳6ヶ月健診児保護者

回答状況①②

	小学4.5.6年生	中学2年生	3歳児保護者	小1保護者	小4保護者	中2保護者
調査数	1,235人	593人	410人	320人	387人	204人
回答者数	1,207人	556人	347人	300人	378人	169人
回答率	98%	94%	85%	94%	98%	83%

回答状況③④

	小学校	中学校	高校	保育所・各園	児童館
調査数	16校	8校	2校	21ヶ所	6ヶ所

回答状況⑤

	4ヶ月検診	1歳6ヶ月検診
実施回数	5回	5回
回答者数	103人	68人

<目次>

- ①子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 小学校
子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 中学校
- ②子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 3歳児保護者
子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 小1保護者
子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 小4保護者
子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 中2保護者
- ③市内読書施設に関するアンケート調査 (小学校)
市内読書施設に関するアンケート調査 (中学校)
市内読書施設に関するアンケート調査 (高等学校)
- ④市内読書施設に関するアンケート調査 (保育所・幼稚園)
市内読書施設に関するアンケート調査 (児童館)
- ⑤ブックスタートに関するアンケート調査 4ヶ月健診
ブックスタートに関するアンケート調査 1歳6ヶ月健診

子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 小学校

平成27年7月実施

対象 市内小学校 4. 5. 6学年

【八田・源・飯野・白根東・百田・芦安・若草・若草南・
小笠原・楡形北・楡形西・豊・落合・大明・南湖・子どもの村】

調査児童数 1,235人

回答者数 1,207人

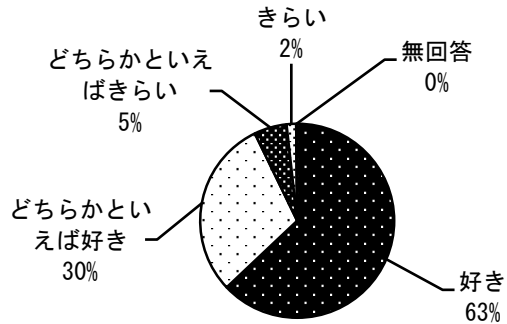
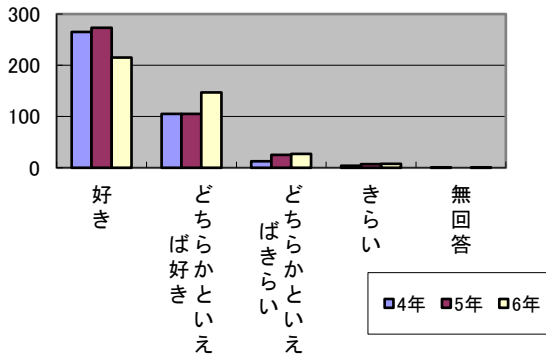
回答率 98%

※円グラフは全体の割合を表わしています
棒グラフは学年別の数値を表わしています

問1 あなたは、本を読むことが好きですか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

ア 好き
イ どちらかといえば好き
ウ どちらかといえばきらい
エ きらい
無回答
合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
265	68%	273	67%	215	54%	753	63%
105	27%	105	26%	147	37%	357	30%
13	3%	25	6%	27	7%	65	5%
4	1%	7	2%	8	2%	19	2%
1	0%	0	0%	1	0%	2	0%
388	100%	410	100%	398	100%	1,196	100%

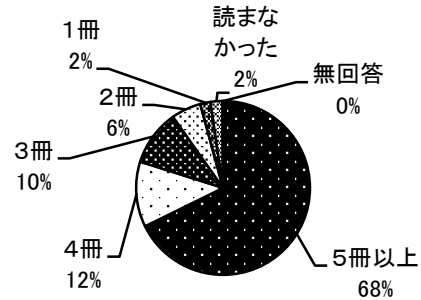
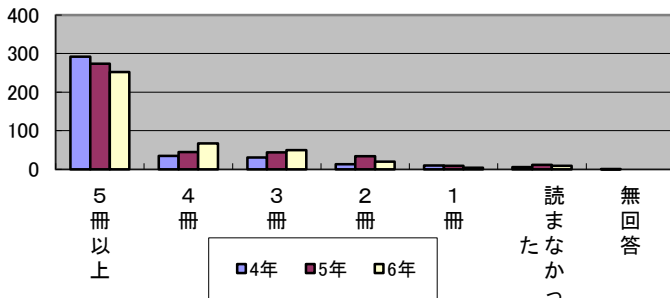


「好き」「どちらかといえば好き」をあわせて93%の児童が本を読むことが好きと答えている。この結果は5年前の調査と変わらない。しかし、細かく内容をみると「好き」と答えた児童の割合が5年前より4%増えている。本を読むことをより積極的に楽しむ児童が増えているのではないかとと思われる。一方で「きらい」「どちらかといえばきらい」という児童の割合も5年前と変わらず7%である。学年があがるごとに増えている傾向も同じである。絵本から児童書、それからYA文学、そして一般書へ成長していく過程で、どのように本を読むことの楽しさが伝えられるか、良い本を手渡していくことができるかとともに、読書をする時間の確保など環境づくりをどのようにしていくかなどが課題ではないかと思われる。

問2 あなたは、6月1ヶ月の間に、教科書、雑誌、マンガ以外の本を何冊読みましたか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア 5冊以上
- イ 4冊
- ウ 3冊
- エ 2冊
- オ 1冊
- カ 読まなかった
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
292	75%	274	66%	252	63%	818	68%
35	9%	45	11%	67	17%	147	12%
31	8%	44	11%	50	12%	125	10%
13	3%	34	8%	20	5%	67	6%
10	3%	9	2%	4	1%	23	2%
6	2%	12	3%	9	2%	27	2%
1	0%	0	0%	0	0%	1	0%
388	100%	418	100%	402	100%	1,208	100%

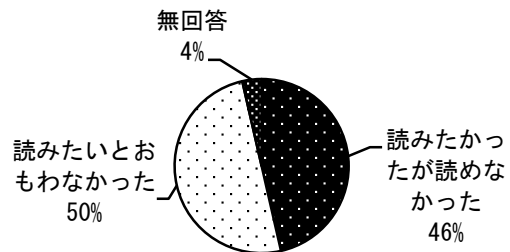
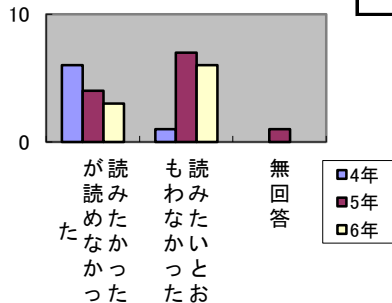


6月1ヶ月の間に1冊でも本を読んだと答えた児童が98%いた。5年前の調査でも96%と高い数字だったが、今回はさらに増えている。また、増加した内訳をみても5冊以上読んだ児童は前回よりも12%増えている。読書習慣が身につけている児童が増えている傾向にあるのではないかと推察される。「読まなかった」児童は、前回の調査では4%学年があがるごとに増えていたが、今回の調査では2%と数値が減っているだけでなく、学年があがっても割合の変化はそれほど無い。小学校では南アルプス市全校で朝読書が実施され、図書館の時間もある。しかし、そのような時間が確保されている環境の中でさえも、「読まなかった」児童がいる。このような児童たちに対して、時間確保以外の部分で、どうしたら読書に向かうか、読書に興味を持つことができるか、大人たちの働きかけや蔵書整備などの手立てを考えることが課題である。

問3 問2でカ「読まなかった」を選んだ人に聞きます。それはどうしてですか。どちらかの記号に○をつけてください。

- ア 読みたかったが読めなかった
- イ 読みたいとおもわなかった
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
6	86%	4	33%	3	33%	13	46%
1	14%	7	58%	6	67%	14	50%
0	0%	1	8%	0	0%	1	4%
7	100%	12	100%	9	100%	28	100%

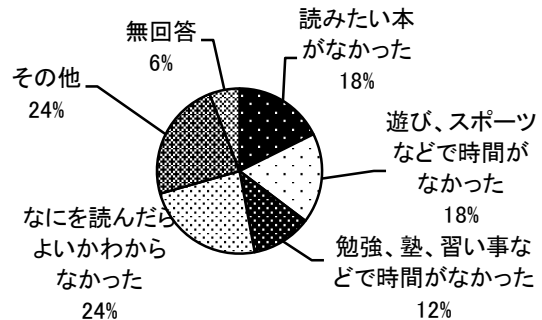
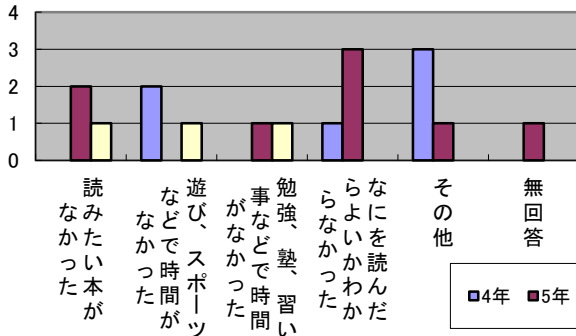


本を読まなかった理由として、「読みたかったが読めなかった」児童が前回の調査では26%だったのが今回は46%、「読みたいとおもわなかった」児童が前回73%だったのが今回は50%と変化している。前回も「読みたいとおもわなかった」児童のほうが多かったことは変わらないが、「読みたかった」気持ちのあった児童が増えているということは、読書に対して関心がある児童が増えていると思われる。読みたかった児童の『読めなかった』理由を分析して、読書ができるよう条件を整える必要がある。「読みたいとおもわなかった」児童は学年があがるにつれて増えている。その理由は問5で回答されているが、「ふだんから本を読まない」を理由としている児童が多い。学年があがるにつれ、読書への関心・習慣から離れてしまったり、苦手意識をもってしまっているのかもしれない。「本は楽しい」、「読んでみたい」と思えるような本を手渡すことができるかどうかが大変ではないかと思われる。

問4 問3でア「読みたかったが読めなかった」を選んだ人に聞きます。それはなぜですか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア 読みたい本がなかった
- イ 遊び、スポーツなどで時間がなかった
- ウ 勉強、塾、習い事などで時間がなかった
- エ なにを読んだらよいかわからなかった
- オ その他
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
0	0%	2	25%	1	33%	3	18%
2	33%	0	0%	1	33%	3	18%
0	0%	1	13%	1	33%	2	12%
1	17%	3	38%	0	0%	4	24%
3	50%	1	13%	0	0%	4	24%
0	0%	1	13%	0	0%	1	6%
6	100%	8	100%	3	100%	17	100%



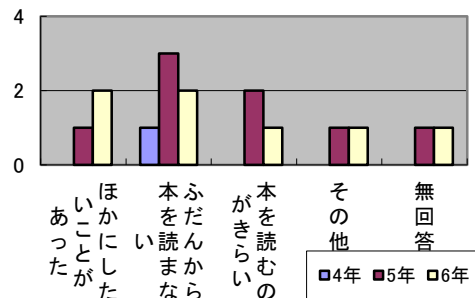
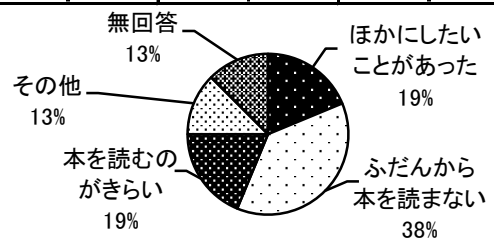
「読みたかったけれど読めなかった」児童の理由は、学年があがるにつれ傾向が入れ替わっている。4年生では「なにを読んだらよいかわからなかった」と「その他」と回答している児童が多いが、6年生では「読みたい本がなかった」「遊び、スポーツなどで時間がなかった」「勉強、塾、習い事などで時間がなかった」が多い。5年生はその中間で「なにを読んだらよいかわからなかった」と「勉強、塾、習い事などで時間がなかった」と回答した児童が多かった。学年があがるごとに、日常生活の忙しさが本を読むことができない理由になっている傾向がうかがえる。

「なにを読んだらよいかわからなかった」児童に対しては読み聞かせや、ブックトーク、お便りやブックリスト、フロアワークなどの読書案内を通じて本が手に取れるよう働きかける必要がある。また日常生活の忙しさを理由にしている児童には少しでも読書の時間がとれるよう、周りの大人も声かけをするなど協力して、環境を整える努力が必要と思われる。

問5 問3でイ「読みたいとおもわなかった」を選んだ人に聞きます。それはなぜですか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア ほかにしたいことがあった
- イ ふだんから本を読まない
- ウ 本を読むのがきらい
- エ その他
- 無回答
- 合計
- その他の意見
- ・小説がきらい

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
0	0%	1	13%	2	29%	3	19%
1	100%	3	38%	2	29%	6	38%
0	0%	2	25%	1	14%	3	19%
0	0%	1	13%	1	14%	2	13%
0	0%	1	13%	1	14%	2	13%
1	100%	8	100%	7	100%	16	100%



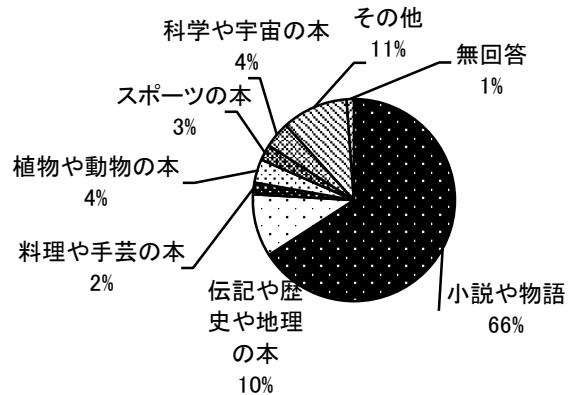
問3で「読みたいとおもわなかった」児童は4年生、5年生、6年生と学年があがるにつれて増えている。その理由として「ふだんから本を読まない」を理由としている児童が最も多く、「ほかにしたいことがあった」「本を読むのがきらい」が同じ割合で次に多い。学年があがるにつれ、そう答える児童が増えていることから、読書を楽しむことより他の娯楽への関心が高まるのかもしれない。また、読書が苦手であれば、読書の習慣から離れてしまうのかもしれない。本を読むのは楽しいと思えるような本を手渡すことや、大人が自ら読書する姿勢を見せることで読書の楽しさを伝えることが大事ではないかと思われる。

問6 あなたは、最近どんな本を読んでいますか。

- ア 小説や物語
- イ 伝記や歴史や地理の本
- ウ 料理や手芸の本
- エ 植物や動物の本
- オ スポーツの本
- カ 科学や宇宙の本
- キ その他
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
296	69%	302	64%	313	65%	911	66%
45	11%	47	10%	47	10%	139	10%
12	3%	6	1%	8	2%	26	2%
17	4%	21	4%	14	3%	52	4%
6	1%	12	3%	17	4%	35	3%
15	4%	22	5%	21	4%	58	4%
33	8%	53	11%	60	12%	146	11%
4	1%	11	2%	1	0%	16	1%
428	100%	474	100%	481	100%	1,383	100%

「小説や物語」がもっとも多く読まれていることは、前回の調査と同じ傾向である。しかし、一方で全学年で「伝記や歴史や地理の本」「科学や宇宙の本」の割合も前回より増え、「その他」が減っている。児童が関心をもつ分野の幅が広がっていることがうかがえる。



問7 あなたは、読みたい本をどのようにして用意しますか。
あてはまる記号すべてに○をつけてください。

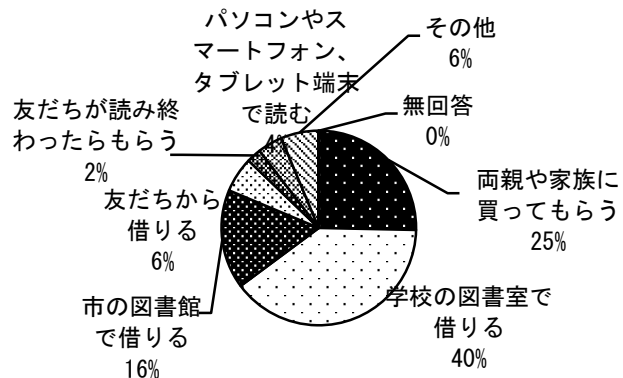
- ア 両親や家族に買ってもらう
- イ 学校の図書室で借りる
- ウ 市の図書館で借りる
- エ 友だちから借りる
- オ 友だちが読み終わったらもらう
- カ パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む
- キ その他
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
212	27%	226	26%	237	24%	675	25%
334	42%	362	41%	357	36%	1,053	40%
150	19%	154	18%	135	14%	439	16%
32	4%	56	6%	68	7%	156	6%
31	4%	15	2%	18	2%	64	2%
22	3%	34	4%	54	5%	110	4%
14	2%	25	3%	127	13%	166	6%
1	0%	1	0%	0	0%	2	0%
796	100%	873	100%	996	100%	2,665	100%

前回の調査と比べ数値の割合に変動はなく、「学校の図書室で借りる」がもっとも多かった。学校の図書室が身近で利用しやすいことは変わらないようである。今回の調査から「パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む」が選択肢に新設された。この選択肢に対して、全学年で利用していると答えた児童がおり、学年があがるにつれその割合が増えている。自分が読みたい読み物を用意する方法の選択肢が増え、また手軽にできるようになってきていると考えられる。

その他の主な意見

- ・自分で買う(32)
- ・兄弟姉妹、家族からもらう、借りる(5)
- ・家にある本を読む(2)
- ・親戚からもらう、借りる(2)
- ・立ち読み・ネットで買う・友達の家で読む



問8 あなたは、読む本をどのようにして選んでいますか。
 あてはまる記号すべてに○をしてください。

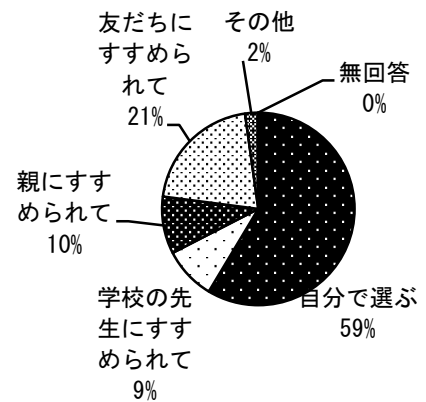
- ア 自分で選ぶ
- イ 学校の先生にすすめられて
- ウ 親にすすめられて
- エ 友だちにすすめられて
- オ その他
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
378	60%	402	61%	385	56%	1,165	59%
60	10%	49	7%	67	10%	176	9%
65	10%	70	11%	56	8%	191	10%
114	18%	130	20%	168	24%	412	21%
13	2%	12	2%	17	2%	42	2%
1	0%	1	0%	0	0%	2	0%
631	100%	664	100%	693	100%	1,988	100%

その他の主な意見

- ・兄弟姉妹、家族にすすめられて(12)
- ・テレビ・新聞の紹介(2)
- ・ネットで探す(2)
- ・おすすめの本、人気の本コーナーで選ぶ(2)

「自分で選ぶ」がことが最も多いことは前回と同様であるが、学校の先生・親・友だちにすすめられて選ぶ数値もそれぞれ増えている。自分で選ぶだけでなく、周りの人がどんな本を読んでいるか興味・関心を持つことで、読む分野を広げるきっかけになっているのではないかと考えられる。周囲の人から進められる中でも「友だちにすすめられて」が大人にすすめられるよりも数値が高い。成長とともに大人より、友だちとの関わりや影響が大きくなることがうかがえる。

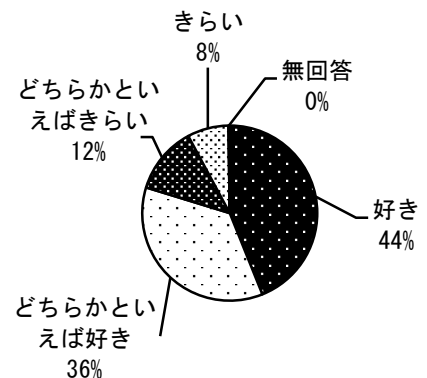


問9 あなたは、本を読んでもらうことが好きですか。(好きでしたか。)
 ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
206	49%	181	38%	144	32%	531	44%
114	28%	147	36%	172	41%	433	36%
45	14%	51	14%	54	16%	150	12%
21	9%	36	11%	35	10%	92	8%
1	0%	1	1%	1	1%	3	0%
387	100%	416	100%	406	100%	1,209	100%

本を読んでもらうことが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童が80%と多くを占め、前回の75%よりも増えている。一方で「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答える児童も、前回よりは少ない割合だがいる。高学年になるごとに増えるという傾向も同じである。自主的に本を読むことが良いと思う児童も成長に従って一定の割合でいると考えられる。



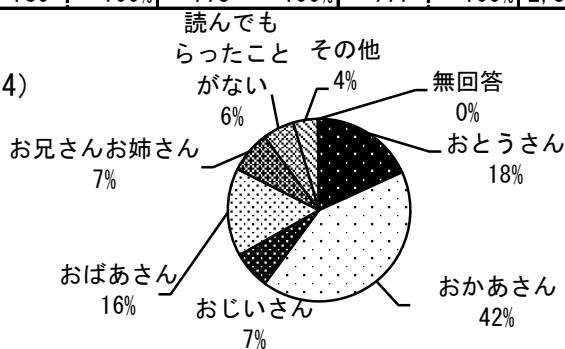
問10 あなたは、いままでに家族から本を読んでもらったことがありますか。
(ありましたか。) あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア おとうさん
 イ おかあさん
 ウ おじいさん
 エ おばあさん
 オ お兄さんお姉さん
 カ 読んでもらったことがない
 キ その他
 無回答
 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
148	19%	132	17%	144	19%	424	18%
317	41%	332	43%	328	42%	977	42%
51	7%	50	6%	55	7%	156	7%
111	14%	125	16%	127	16%	363	16%
68	9%	56	7%	49	6%	173	7%
37	5%	52	7%	42	5%	131	6%
45	6%	25	3%	31	4%	101	4%
3	0%	1	0%	1	0%	5	0%
780	100%	773	100%	777	100%	2,330	100%

その他の主な意見

- ・いとこ、親戚(28)
- ・先生(学校、図書館、保育所)(14)
- ・弟、妹(12)
- ・覚えていない(3)
- ・読み聞かせの人
- ・曾祖母



「おかあさん」から本を読んでもらっているという割合が一番多いことは、前回の調査と同じであるが、数値が若干増えている。「おとうさん」は1%減っているので、おとうさんも読み聞かせをとおして家族とふれあう機会を増やしてもらいたいと思う。

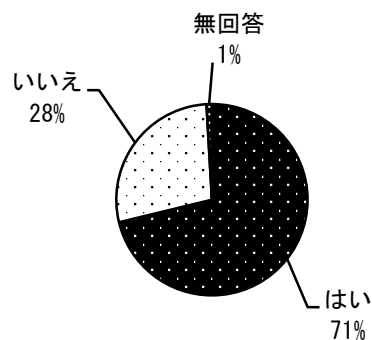
その他の回答には、いとこ・親戚・兄弟をはじめ、学校・図書館・保育所の先生や読み聞かせの人(ボランティア?)など様々な人があげられ、子どもたちがいろいろな機会に大人から読み聞かせの体験をしていることがわかる。一方で「読んでもらったことがない」という児童の割合が前回より若干増えている。まだ、自分で文章を読むことができない子どもたちにとって、耳からお話を聞き、楽しむ読書は、その後の一人読みのために大切な体験である。子どもたちのために、お話を楽しむ機会を増やしてほしいと思う。

問11 お家の人、本を読んでいますか。

- ア はい
 イ いいえ
 無回答
 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
288	75%	289	70%	279	70%	856	71%
91	24%	122	29%	122	30%	335	28%
7	2%	4	1%	0	0%	11	1%
386	100%	415	100%	401	100%	1,202	100%

今回のアンケートでは71%の児童が家の人、本を読んでいると答えている。前回は76%だったのに対して減っていた。保護者アンケートをみると、問6「あなた自身は、読書が好きですか?」の回答で、小1保護者以外の全ての保護者で「好き」「どちらかといえば好き」が減っていることと関係しているかもしれない。本を読むことが「どちらかという嫌い」「嫌い」と答えた保護者の理由は「文章を読むことが苦手」というものも多いが、その他の答えの中に「時間がない」というものもあり、大人が忙しく、子どもに読書をする姿を見せることができない状況にあることもうかがえる。

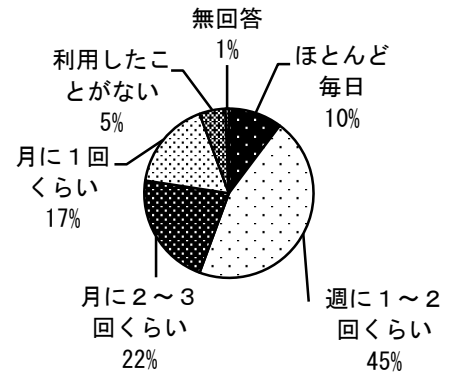


問12 授業時間のほかに学校の図書室をどのくらい利用しますか。
ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア ほとんど毎日
- イ 週に1～2回くらい
- ウ 月に2～3回くらい
- エ 月に1回くらい
- オ 利用したことがない
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
43	11%	62	15%	19	5%	124	10%
190	49%	172	42%	186	46%	548	45%
72	18%	80	19%	111	28%	263	22%
62	16%	68	16%	75	19%	205	17%
20	5%	28	7%	12	3%	60	5%
4	1%	4	1%	0	0%	8	1%
391	100%	414	100%	403	100%	1,208	100%

前回の調査に比べ、「ほとんど毎日」という児童が2%減り、「週に1～2回くらい」「月2回～3回くらい」「月に1回くらい」が増えている。「ほとんど毎日」利用している児童が減っているのは、一概には言えないが、児童の学校生活が忙しく、休み時間なども学年行事・係り活動・補習などに追われているのかもしれない。
しかし、一方で前回調査に比べ、「利用したことがない」児童は3%減っている。特に6年生では前回が8%だったものが3%になっている。読書離れが心配される年齢でこの結果は、これまでの読書指導や調べ学習などでの図書館利用の成果があらわれていること、図書室の環境が児童にとって利用したい魅力ある場所になっていることなど、これまでの取り組みのあらわれではないかと考えられる。



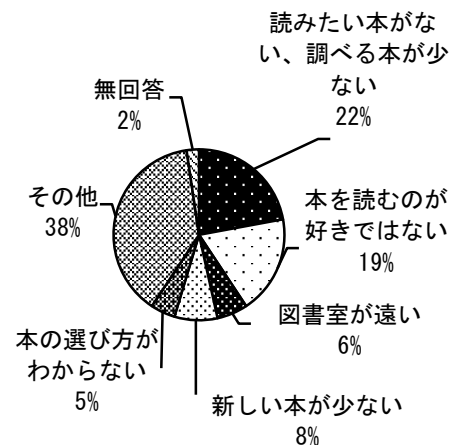
問13 問12でオ「利用したことがない」を選んだ人に聞きます。利用しない理由は何ですか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア 読みたい本がない、調べる本が少ない
- イ 本を読むのが好きではない
- ウ 図書室が遠い
- エ 新しい本が少ない
- オ 本の選び方がわからない
- カ その他
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
8	24%	8	21%	3	21%	19	22%
6	18%	5	13%	5	36%	16	19%
3	9%	2	5%	0	0%	5	6%
3	9%	4	11%	0	0%	7	8%
3	9%	0	0%	1	7%	4	5%
10	29%	18	47%	5	36%	33	38%
1	3%	1	3%	0	0%	2	2%
34	100%	38	100%	14	100%	86	100%

- その他の主な意見
- ・遊びたいから(4)
 - ・時間がない(3)
 - ・読み終わらない(2)
 - ・借りるのが面倒(2)

「利用したことがない」理由として、図書室に所蔵されている本に関わる選択肢「読みたい本がない、調べる本が少ない」が最も多く選ばれている。同じく所蔵に関わる選択肢の「新しい本が少ない」とあわせると、30%になり前回の調査でもこの2つの選択肢はもっとも多く選ばれた回答である。しかし前回が22%だったことに比べると7%多くなっている。また、「本を読むのが好きではない」も前回より4%多く選択され、「選び方がわからない」は若干減っているが、あまり変わらない割合である。本を読むのが好きではない児童がどの本を選んでよいかかわらず、図書室に来て読みたい本がない、とあきらめてしまっているのかもしれない。「その他」の回答に「遊びたい」「時間がない」などもあり、児童が図書室へ行くことができるような時間の余裕も大切なのではないだろうか。



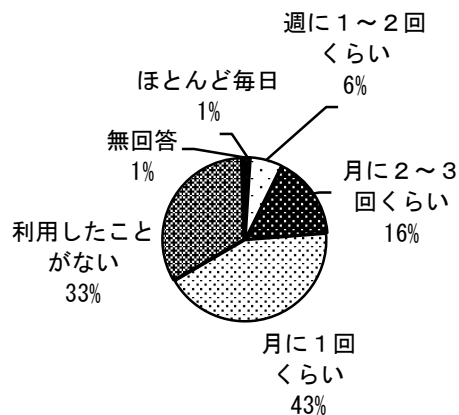
問14 あなたは、市の図書館をどのくらい利用しますか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア ほとんど毎日
- イ 週に1～2回くらい
- ウ 月に2～3回くらい
- エ 月に1回くらい
- オ 利用したことがない
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
11	3%	1	0%	0	0%	12	1%
28	7%	26	6%	21	5%	75	6%
66	17%	75	19%	55	14%	196	16%
142	37%	168	42%	201	50%	511	43%
136	35%	131	32%	125	31%	392	33%
3	1%	3	1%	0	0%	6	1%
386	100%	404	100%	402	100%	1,192	100%

市の図書館を「利用したことがない」と回答している割合が、前回の28%から33%と増えている。また、全体の利用率についても下がっている。

「利用したことがない」理由は問15で回答されているが、もっとも多いのは「時間がない」と「家や学校の図書室に読みたい本がある」ことである。また、問17の「市の図書館にこうしてほしいと思うこと」では「家の近くに図書館がほしい」がもっとも多い。これらの回答と問7の「読みたい本をどのように用意するか」、問12の「学校図書室をどれくらい利用するか」の回答と合わせて考えると、児童にとっては身近にあり、すぐ要望を伝えることができる学校の図書室を利用することが多く、また利用しやすいのではないかと考えられる。



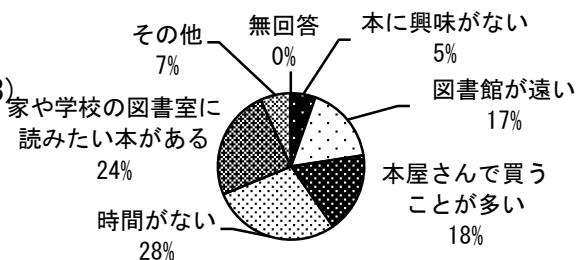
問15 問14でオ「利用したことがない」を選んだ人に聞きます。利用しない理由は何ですか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア 本に興味がない
- イ 図書館が遠い
- ウ 本屋さんで買うことが多い
- エ 時間がない
- オ 家や学校の図書室に読みたい本がある
- カ その他
- 無回答
- 合計

4年		5年		6年		合計	
数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
5	2%	19	9%	11	5%	35	5%
39	18%	38	17%	34	16%	111	17%
28	13%	47	21%	40	19%	115	18%
64	30%	56	25%	64	30%	184	28%
59	28%	44	20%	55	25%	158	24%
15	7%	16	7%	12	6%	43	7%
1	0%	0	0%	0	0%	1	0%
211	100%	220	100%	216	100%	647	100%

その他の主な意見

- ・ 図書館の場所や借り方がわからない(10)
- ・ スポーツ・習い事で行く時間がない(5)
- ・ 他の図書館(田富・県立・甲府)に行く(3)
- ・ 借りたい本があまりない(3)
- ・ 連れて行ってくれない(2)
- ・ 図書館に行くのが面倒(2)



問14でも触れたが、「利用したことがない」理由として、「時間がない」と「家や学校の図書室に読みたい本がある」ことが最も多くあげられている。問17の「市の図書館にこうしてほしいと思うこと」では「家の近くに図書館がほしい」がもっとも多く回答されている。市立図書館を利用したことがない理由として他に、「図書館が遠い」「その他」の意見で「図書館の場所や借り方がわからない」もある。これらの回答と問7の「読みたい本をどのように用意するか」、問12の「学校図書室をどれくらい利用するか」の回答と合わせて考えると、市立図書館は「自分だけでは行くところができない場所」「利用の仕方がわからない場所」と認識されていることも考えられる。そのため、児童は身近な学校の図書室を中心に利用するのもかもしれない。

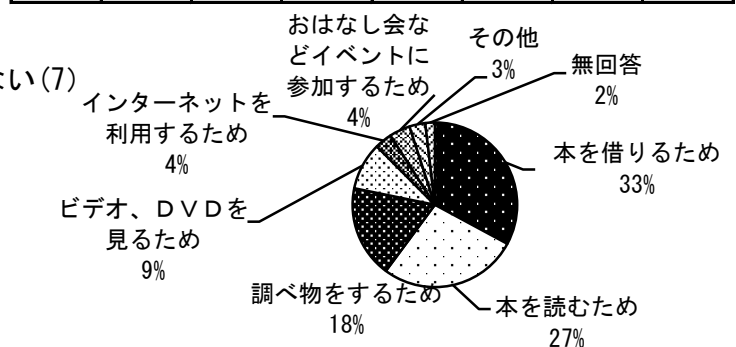
図書館への移動手段として保護者の協力が必要であり、そのためには保護者の図書館利用に対する関心を高める働きかけが必要になってくると思われる。

問16 市の図書館に行くのは何のためですか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

	4年		5年		6年		合計	
	数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
ア 本を借りるため	252	36%	272	34%	371	30%	895	33%
イ 本を読むため	214	31%	225	28%	304	25%	743	27%
ウ 調べ物をするため	98	14%	149	18%	245	20%	492	18%
エ ビデオ、DVDを見るため	53	8%	71	9%	130	11%	254	9%
オ インターネットを利用するため	13	2%	15	2%	64	5%	92	3%
カ おはなし会などイベントに参加するため	37	5%	36	4%	38	3%	111	4%
キ その他	8	1%	21	3%	56	5%	85	3%
無回答	23	3%	17	2%	11	1%	51	2%
合計	698	100%	806	100%	1,219	100%	2,723	100%

その他の主な意見

- ・勉強するため(10)
- ・行っていない・行ったことがない(7)
- ・ビデオ、DVDを借りる(3)
- ・家族について行く(3)
- ・涼むため(2)



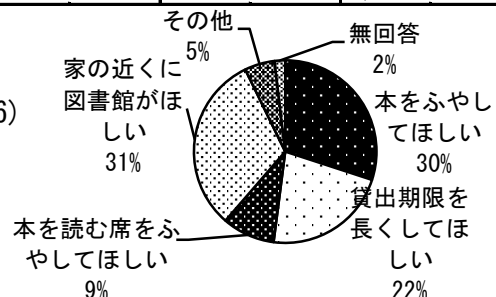
市の図書館を利用する目的についての回答は、「本を借りるため」「本を読むため」が合わせて60%になっている。前回より2%増えていることから、多くの子どもにとって市の図書館が、読書を楽しむ場としてより定着し、利用されていることがわかる。学年があがるにつれて、「調べ物をするため」の回答が増えている傾向も前回と同様である。小学生のころから生活の中で困ったこと、知りたいことを解決する場として、図書館を利用して育つことで、大人になってからも図書館を生活の一部として利用する下地となるのではないだろうか。「ビデオ、DVDを見るため」「インターネットを利用するため」と回答した児童は、それぞれ前回よりわずかながら少なくなっている。家庭でのビデオ・DVDの視聴環境、インターネット環境が充実してきているのではないかと思われる。また、「おはなし会やイベントに参加するため」と回答している児童も前回より減少している。図書館には読書以外にも様々な利用方法があることのPRが、これからも大切ではないかと思われる。

問17 市の図書館にこうしてほしいと思うことはなんですか。ひとつえらんで記号に○をしてください。

	4年		5年		6年		合計	
	数値	割合	数値	割合	数値	割合	数値	割合
ア 本をふやしてほしい	100	24%	141	32%	142	33%	383	30%
イ 貸出期限を長くしてほしい	97	24%	86	20%	98	23%	281	22%
ウ 本を読む席をふやしてほしい	32	8%	44	10%	43	10%	119	9%
エ 家の近くに図書館がほしい	148	36%	135	31%	118	28%	401	31%
オ その他	29	7%	19	4%	20	5%	68	5%
無回答	5	1%	12	3%	7	2%	24	2%
合計	411	100%	437	100%	428	100%	1,276	100%

その他の主な意見

- ・そのまま良い、ありません(9)
- ・本の場所(新刊・怖い本)を分かりやすくしてほしい(6)
- ・DVDの種類を増やして欲しい
- ・ドリンクバーがほしい、自販場所にアイスがほしい
- ・もっと広くしてほしい(DVDコーナーなど)
- ・面白い本やマンガを増やして欲しい
- ・イベントを増やして欲しい



「本をふやしてほしい」「家の近くに図書館がほしい」が最も多い回答だったことは前回と同じである。一方で「貸出期限を長くしてほしい」「本を読む席をふやしてほしい」という回答も増えている。児童にとって理想の図書館は、徒歩や自転車で行くことができ、たくさんの本の中からお気に入りの本を総選り、十分な時間をかけて読むことができる場所なのだろう。全てに応えることは難しいが、少しでも希望がかなうよう、これからもできることから取り組んでいくことが大切ではないかと思われる。

問18 あなたは、どうすればみんながもっと本を読むようになるとおもいますか。

主な意見

◎自分自身に関すること

- ・おすすめの本を紹介する、声をかける(106)
- ・本のおもしろさや楽しさ、大切さを伝える・知る(25)
- ・自分が好きな本やシリーズを見つける(23)
- ・図書館に行って本を借りる、さそう(18)
- ・友達におすすめの本を紹介してもらう(12)
- ・本を読む時間をつくる、増やす(8)
- ・自分で目標を立てる(4)
- ・自分で本を読む習慣をつける(3)
- ・読みたい本をリクエストする(2)
- ・おはなし会に参加する

◎家庭に関すること

- ・身近なところ、目につくところに本を置く(4)
- ・家族に本を紹介する、本の話をする、家族で読む(5)
- ・家族と一緒に図書館に行く
- ・本とふれあう機会を作る

◎学校に関すること

- ・学校で読む時間(読書タイムなど)を増やす、みんなで楽しく読む(16)
- ・本を読むきっかけを作ってあげる(4)
- ・教室に本をおく、増やす(3)
- ・図書委員会がみんなに働きかける、下級生への読み聞かせ(2)
- ・図書の時間以外にも図書館を利用する
- ・休み時間を長くする

◎図書館に関すること

- ・おもしろい本・人気の本を増やす(95)
- ・本に関するイベントを増やす(スタンプラリー・ゲーム等)(44)
- ・読み聞かせやおはなし会を増やす(41)
- ・ポスターやプリント、ポップでおもしろい本をPRする(38)
- ・いろいろな種類の本を置く(32)
- ・新しい本や雑誌を出す、増やす(23)
- ・おすすめの本や人気の本コーナーを作る(21)
- ・簡単な本、読みやすい本を増やす(16)
- ・本を読んだ人にしおり等のプレゼントや特典がつく(15)
- ・みんなが好きな本、読みたい本を聞く(アンケート・リクエスト)(14)
- ・マンガをおく、増やす(14)
- ・貸出期限・貸出冊数を増やす(11)
- ・本の中のことを教えて興味をもたせる(7)
- ・新聞や電波、放送などで呼びかける(7)
- ・みんなが行きたくなる楽しい図書館にする(5)
- ・市の図書館でランキングを出す、冊数を競う(3)
- ・DVDやビデオ、CDをもっと増やす(2)
- ・原作本がある映画上映会をする
- ・市や学校の図書館以外でもおはなし会をする(児童館など)

◎行政に関すること

- ・図書館の数を増やす(14)
- ・図書館を広くする、席を増やす、貸出窓口を増やす(8)
- ・道路とかに看板を置く(2)
- ・ゆるきゃらを募集して作る(2)
- ・図書館に子どもが楽しめるスペースを作る(2)
- ・図書館の中にドリンクやランチなどが売っているお店がほしい(2)
- ・車で本の貸出ができる移動図書館をつくる
- ・公共図書館のように学校にも本を探すパソコンがほしい
- ・「本の日」をつくる

◎その他

- ・おもしろい内容の本をつくる(3)
- ・表紙をおもしろくする

子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 中学校

平成27年7月実施

学校名 市内中学校 2学年

【八田・巨摩・御勅使・芦安・若草・櫛形・甲西・子どもの村】

調査生徒数 593人

回答者数 556人

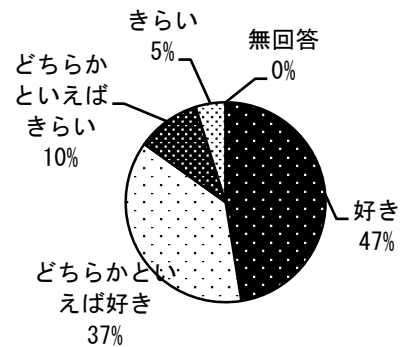
回答率 94%

問1 あなたは、本を読むことが好きですか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえばきらい
- エ きらい
- 無回答
- 合計

264	47%
208	37%
57	10%
27	5%
0	0%
556	100%

84%が、読書を「好き」「どちらかといえば好き」と答えている。前回の調査と比べ、はっきりと「好き」と答えている生徒が4%増えている。一方、15%が「どちらかといえばきらい」「きらい」と答えている。前回と比べ5%低くなっているが、小学生の7%と比べると倍の数値である。中学生になると、学習や部活動、行事の取り組みなど、本とふれあう時間が少なくなり、自ら進んでその時間を確保することが必要になる。そこで、読書量の格差が生じてしまうと考えられる。心身ともに大きな成長期である中学生を、読書へと誘う環境を整備していく必要があるのではないか。



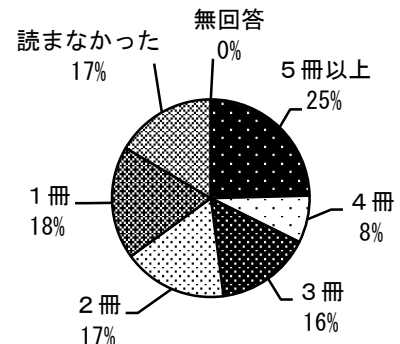
問2 あなたは、6月1ヶ月の間に、教科書、雑誌、マンガ以外の本を何冊読みましたか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア 5冊以上
- イ 4冊
- ウ 3冊
- エ 2冊
- オ 1冊
- カ 読まなかった
- 無回答
- 合計

数値	割合
137	25%
43	8%
87	16%
95	17%
103	18%
92	17%
0	0%
557	100%

前回の調査と比べ「5冊以上」読む生徒が8%増えている。中学生になると休み時間や放課後の時間も部活動を始め様々な活動がある中で、多くの生徒が読書をしている結果は喜ばしい。朝読書の定着がこの結果の大きな要因となっているのではないだろうか。

一方、小学生に比べ、「読まなかった」生徒の数値が17%と高くなっているといった現実もある。早い段階で読む者と読まない者の差を縮める為にも、読書の時間を確保し、読書習慣を身に付けることが重要だと思われる。

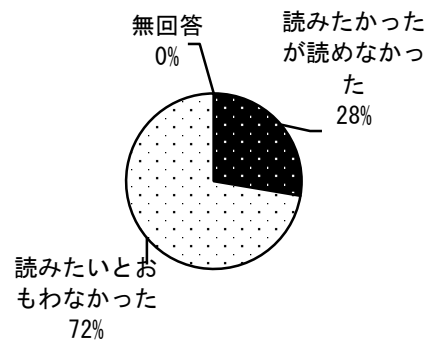


問3 問2で「読まなかった」を選んだ人に聞きます。それはどうしてですか。どちらかの記号に○をつけてください。

- ア 読みたかったが読めなかった
- イ 読みたいとおもわなかった
- 無回答
- 合計

数値	割合
26	28%
68	72%
0	0%
94	100%

「読まなかった」人の72%が「読みたいと思わなかった」と答えている。前回よりやや減少しているものの、半数以上を占めている。中学生になると、多忙さからか読書離れをしてしまう生徒もいる。読む本もステップアップしページ数も増えていくなかで、『本を楽しむ』には、まず『読む力』を小学生の頃から、こつこつと身につけることが必要ではないだろうか。また、学校の中でも、読書集会や一斉読書など、本にふれあう機会を少しでも多く持つことが大切だと思われる。また、「読みたかったが読めなかった」人の割合は28%と前回と比べ10%高くなっている。時間に追われる中学生に対し、どのように読書を推進していくのが課題ではないだろうか。

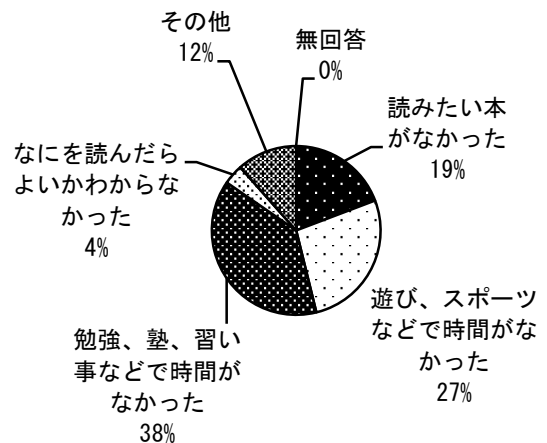


問4 問3でア「読みたかったが読めなかった」を選んだ人に聞きます。それはなぜですか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア 読みたい本がなかった
- イ 遊び、スポーツなどで時間がなかった
- ウ 勉強、塾、習い事などで時間がなかった
- エ なにを読んだらよいかわからなかった
- オ その他
- 無回答
- 合計

数値	割合
5	19%
7	27%
10	38%
1	4%
3	12%
0	0%
26	100%

「遊び、スポーツ」や「勉強や塾、習い事などで読む時間がない」と答える生徒が過半数いる。この数字は前回と変わらない。学校から帰ってからも、塾や習い事と忙しい中で、学校での朝読書は大変貴重な時間だといえる。それと同時に、遊びや勉強の合間をぬってでも読書の時間を楽しむ生徒もいる。時間をどのように使うか、その中に少しでも読書の時間を取り入れるのかは、個々の興味関心によるものも大きいのではないだろうか。その興味関心を読書へ引き寄せるためにも、本の紹介や図書室の掲示など工夫が必要だろう。同時に「読みたい本がなかった」19%「なにを読んだらよいかわからなかった」4%と回答している生徒に対しても、本の薦め方を工夫し、本との架け橋になっていくことが重要ではないかと考える。

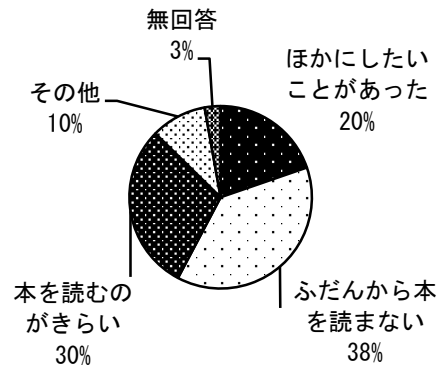


問5 問3でイ「読みたいとおもわなかった」を選んだ人に聞きます。それはなぜですか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア ほかにしたいことがあった
- イ ふだんから本を読まない
- ウ 本を読むのがきらい
- エ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・マンガの方がいい(2)
 - ・興味ある本がなかった
 - ・目がわるくなるので
 - ・必要がない

数値	割合
14	20%
27	38%
21	30%
7	10%
2	3%
71	100%

「ふだんから本を読まない」「本を読むのがきらい」という答えが68%と前回より8%上回った。どの時点で「本を読むのがきらい」になってしまうのか。読書にも段階があり、その段階を踏みながら、本の楽しさを味わうという経験が乏しいのだと感じる。こういった読書体験を幼少から培うことが、小学校、中学校と本を読む習慣に繋がっていくのではないだろうか。また、「ほかにしたいことがあった」と答える20%の人にも、読書を『楽しい』『面白い』と感じる体験をしてもらう事が重要であると思われる。

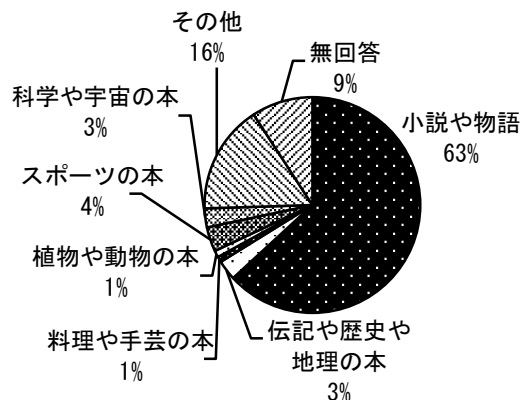


問6 あなたは、最近どんな本を読んでいますか。

- ア 小説や物語
- イ 伝記や歴史や地理の本
- ウ 料理や手芸の本
- エ 植物や動物の本
- オ スポーツの本
- カ 科学や宇宙の本
- キ その他
- 無回答
- 合計

数値	割合
379	63%
18	3%
5	1%
6	1%
22	4%
17	3%
98	16%
55	9%
600	100%

63%の生徒が「小説や物語」を読んでおり、前回の結果とほぼ同数である。また小学校の調査ともほぼ同じ割合だった。中学生になると「伝記や歴史や地理の本」の割合が減り、その分「スポーツの本」が増えている。それでも、全体を見ると、「小説や物語」以外の分野は全て一桁である。中学生という脳も体も柔軟な時期に、様々な分野の本を手に取り視野を広げていくことが大切だと思われる。文学以外の資料にも目を向けるよう、図書館でのテーマ展示や本の紹介などの働きかけが必要だと考える。

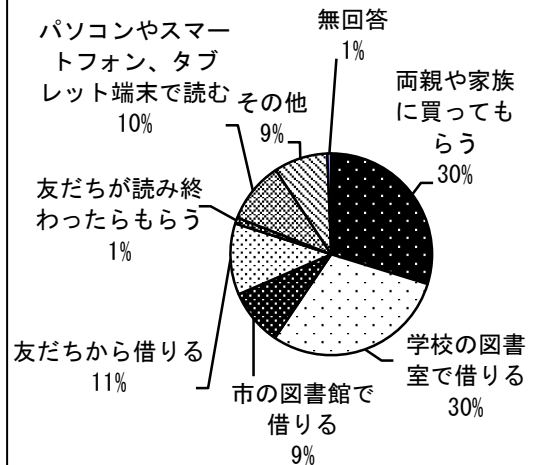


問7 あなたは、読みたい本をどのようにして用意しますか。
 あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア 両親や家族に買ってもらう
- イ 学校の図書室で借りる
- ウ 市の図書館で借りる
- エ 友だちから借りる
- オ 友だちが読み終わったらもらう
- カ パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む
- キ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・自分で買う(71)
 - ・家の本を読む
 - ・兄に借りる(2)
 - ・学級文庫

数値	割合
331	30%
330	30%
101	9%
127	11%
11	1%
109	10%
96	9%
7	1%
1,112	100%

「両親や家族に買ってもらう」「学校の図書室で借りる」と回答している生徒がほぼ同数いる。多くの家庭で子どもに本を読ませたいという心情がうかがえる。また「学校の図書室で借りる」という生徒も多数おり、図書室の資料の充実、蔵書構成など、その質に対しても求められる。「友だちから借りる」10%以上の生徒が回答している。気のあう仲間が『面白い』と話す本には興味を持つのだろう。学校で本を通して友だちとコミュニケーションをとる場面も多く見られる。今回、項目に追加した「パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む」に1割の生徒があてはまると答えている点にも注目したい。書籍を手元に置かず端末で本を読む電子化の波が、中学生にも拡がりつつあるのではないか。

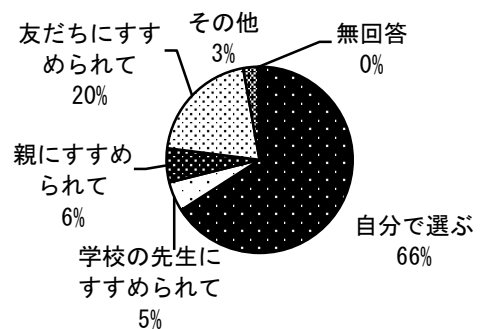


問8 あなたは、読む本をどのようにして選んでいますか。
 あてはまる記号すべてに○をしてください。

- ア 自分で選ぶ
- イ 学校の先生にすすめられて
- ウ 親にすすめられて
- エ 友だちにすすめられて
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・何となく・適当に(6)
 - ・ネットで調べる(2)
 - ・話題の本(3)
 - ・兄弟にすすめられて(2)

数値	割合
536	66%
42	5%
48	6%
164	20%
21	3%
2	0%
813	100%

「自分で選ぶ」が66%と一番高い割合で、次に「友だちにすすめられて」20%の生徒が回答している。それ以外の数字を見ても、前回の調査とほぼ変化していない。中学生になると、自分の興味関心があるものを自分で選ぶという傾向が強くなっている。しかしそれと同時に、仲の良い友だちや信頼している先生、両親などから薦められた本にも手を伸ばしている。年齢にあった本を偏りなく紹介していくことが望まれる。

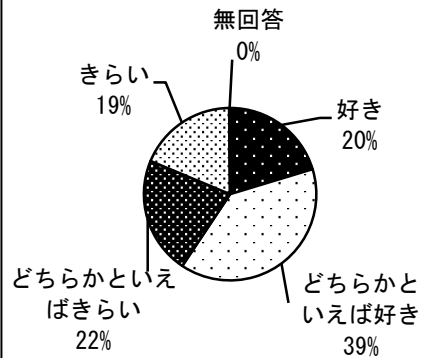


問9 あなたは、本を読んでもらうことが好きですか。(好きでしたか。)
ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえばきらい
- エ きらい
- 無回答
- 合計

数値	割合
113	20%
217	39%
122	22%
103	19%
1	0%
556	100%

小学校の調査では、「好き」「どちらかといえば好き」が80%だったのに対し、中学校では59%と減少している。中学生になると、人から読み聞かせてもらう機会は自然と減っていく。ただ聞いている事が苦痛、人に読んでもらう楽しさを知らないという生徒もいると思われるが、自分自身の意思や判断に基づいて行動するといった主体性が読書に関しても表れているのではないだろうか。幼少の頃から読み聞かせをしてもらっていた生徒は、その楽しさを記憶しているように思われる。「きらい」と答える生徒を減少させる為にも、耳から入ることばの響きや、朗読を聴きながら情景を思い浮かべるなどの楽しさを味わう機会をつくることも大切だと考える。

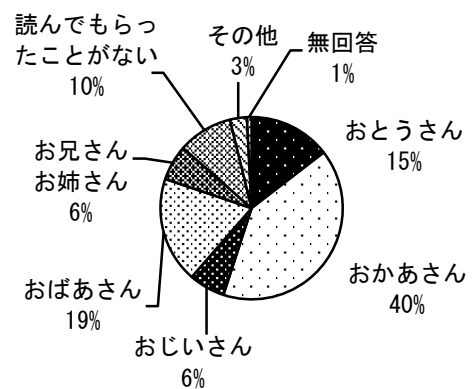


問10 あなたは、いままでに家族から本を読んでもらったことがありますか。(ありましたか。) あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア おとうさん
- イ おかあさん
- ウ おじいさん
- エ おばあさん
- オ お兄さんお姉さん
- カ 読んでもらったことがない
- キ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・覚えていない、忘れた(12)
 - ・親戚(6) ・近所の人
 - ・妹・弟(5) ・友達のお母さん

数値	割合
141	15%
392	40%
62	6%
182	19%
61	6%
94	10%
29	3%
8	1%
969	100%

多くの生徒が両親ばかりでなく、おじいさんやおばあさん、兄弟からも本を読んでもらっていることがわかる。それぞれの家庭で本を読んでもらえる家族がいる事は、大変喜ばしいことである。一方で、1割の生徒が「読んでもらったことがない」と回答しており、前回の調査と同数の割合であった。現在では小学校での親子読書だけでなく、中学校でも家読の推進をしている。共働きの家庭が多い現代、子どもに本を読み聞かせる時間、子どもと一緒に本を読む時間はとても大切なふれあいの時間であると思われる。小学校でも中学校でも、家読のPRをしていくながら、「読んでもらったことがない」という生徒がさらに減少していくことを期待したい。

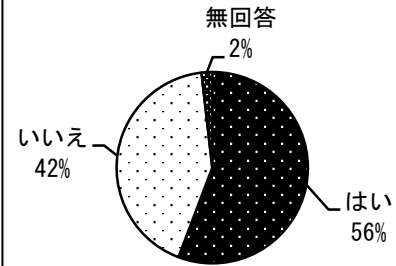


問11 お家の人は、本を読んでいますか。

- ア はい
- イ いいえ
- 無回答
- 合計

数値	割合
310	56%
236	42%
10	2%
556	100%

「家の人が本を読んでいる」と半数以上の生徒が答えている。日常生活の中で、家族という一番身近な人が読書をする姿は、子どもに大きく影響していくと思われる。また、子どもの手の届くところに本がある家も恵まれた読書環境といえるのではないか。そういった大人の読書に対する姿勢が大切になってくる。山梨県でも「しなやかな心の育成プロジェクト」の中で、家読推進運動に取り組んでいる。家の中で少しの時間でも、家族と1冊の本を読み交流することは、子どもの心を豊かにする大きな要素となるのではないかと考える。

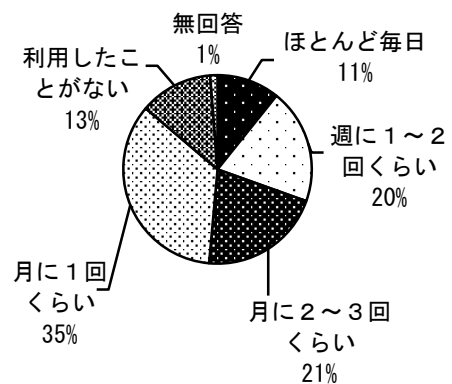


問12 授業時間のほかに学校の図書室をどのくらい利用しますか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア ほとんど毎日
- イ 週に1～2回くらい
- ウ 月に2～3回くらい
- エ 月に1回くらい
- オ 利用したことがない
- 無回答
- 合計

数値	割合
60	11%
110	20%
117	21%
194	35%
70	13%
7	1%
558	100%

中学校でも11%の生徒が「ほとんど毎日」図書室を利用していると答えている。前回の調査と比較し、若干ではあるが数値が高くなっていることは喜ばしい。また87%の生徒が月に何回かは図書室を利用していると答えている。これは、様々な読書活動の成果といえるのではないだろうか。一方で「利用したことがない」という生徒が13%いる。前回より数字が低くなっているものの、図書室に足が向かない生徒がいる現実があると考え。学校図書館は、そういった生徒の傾向と対策を考察しながら、日々の取り組みの中で工夫をしていくことが求められる。

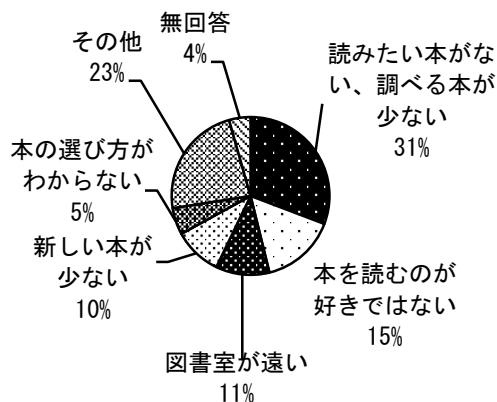


問13 問12でオ「利用したことがない」を選んだ人に聞きます。利用しない理由はなんですか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア 読みたい本がない、調べる本が少ない
- イ 本を読むのが好きではない
- ウ 図書室が遠い
- エ 新しい本が少ない
- オ 本の選び方がわからない
- カ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・行く時間がない(3)
 - ・読みたい本は買う、自分で用意(3)
 - ・読書よりやりたいことがある
 - ・学級文庫を読む

数値	割合
28	31%
14	15%
10	11%
9	10%
5	5%
21	23%
4	4%
91	100%

利用しない理由に、31%の生徒が「読みたい本が少ない、調べる本が少ない」と答えている。また、「新しい本が少ない」が10%と、蔵書に対して魅力を感じていない生徒が多い。「図書室が遠い」11%については、施設の配置などは簡単に変えることはできないが、心理的に図書室がいつも身近にあると感じてもらえるような運営が必要である。また、資料の面でも、蔵書の見直しや資料の充実、調べ方や本の選び方についてのアドバイス等、図書室に行けば知りたいことが分かるということ認識してもらう事が重要だと考える。「本を読むのが好きではない」と答えている生徒に対しても、構えず気軽に立ち寄ることができる図書室の雰囲気づくりが望まれる。

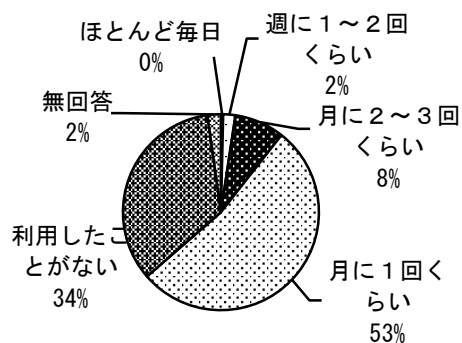


問14 あなたは、市の図書館をどのくらい利用しますか。ひとつえらんで記号に○をつけてください。

- ア ほとんど毎日
- イ 週に1~2回くらい
- ウ 月に2~3回くらい
- エ 月に1回くらい
- オ 利用したことがない
- 無回答
- 合計

数値	割合
2	0%
11	2%
45	8%
290	53%
187	34%
12	2%
547	100%

項目の「ほとんど毎日」から「月に1回くらい」まで、市の図書館を利用している生徒が63%いる。その理由として、各中学校区内に図書館が設置されている要因も大きいと考える。一方で「利用したことがない」と34%が回答している。前回のアンケートに比べると2倍の数字になっている。その結果からも中学生の生活にますますゆとりがなくなっている様子もうかがえる。図書館が中学生にとっても癒し、憩いの場となるよう、さらに充実したサービスが必要だと考える。また、生涯にわたって図書館を利用してもらえるような市民を育てていくことが求められる。

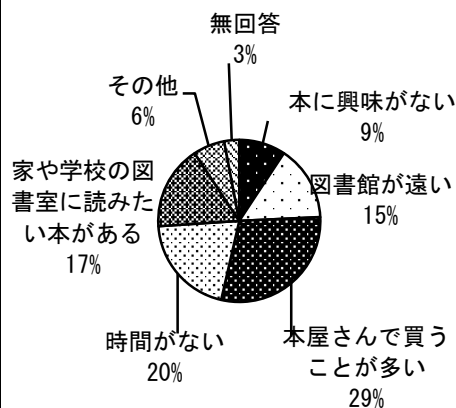


問15 問14でオ「利用したことがない」を選んだ人に聞きます。利用しない理由はなんですか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア 本に興味がない
 - イ 図書館が遠い
 - ウ 本屋さんで買うことが多い
 - エ 時間がない
 - オ 家や学校の図書室に読みたい本がある
 - カ その他
- 無回答
合計
その他の主な意見
- ・面倒(5) ・忙しい
 - ・そこまで読みたいと思わない(3)
 - ・学校の図書館で十分(2)

数値	割合
31	9%
50	15%
98	29%
68	20%
56	17%
21	6%
10	3%
334	100%

「本屋さんで買うことが多い」と答えている生徒が29%と一番高い。図書館で読みたい本を借りるだけでなく、気に入った本を購入している生徒が大勢いることは喜ばしい。次に「家や学校の図書室に読みたい本がある」と17%が答えている。家に本があり、子どもが読みたい時に手元に本があるという環境であることや、学校の図書室の蔵書が充実していることもうかがえる。「時間がない」や「本に興味がない」と答えている生徒に対しては、少しでも本に関心を持ってもらえるよう、市の図書館だよりを学校にも掲示したり、図書館サービスを紹介したりと様々なアプローチが必要である。また「図書館が遠い」と15%の生徒が答えているが、市の図書館設置場所を見ても自転車で行ける区域に設置されている。気軽に立ち寄ることができる施設として図書館をさらに活用してもらいたい。

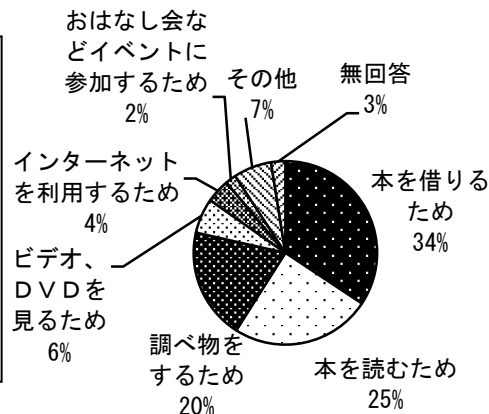


問16 市の図書館に行くのは何のためですか。あてはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア 本を借りるため
 - イ 本を読むため
 - ウ 調べ物をするため
 - エ ビデオ、DVDを見るため
 - オ インターネットを利用するため
 - カ おはなし会などイベントに参加するため
 - キ その他
- 無回答
合計
その他の主な意見
- ・勉強(33) ・涼みに行く(2)
 - ・行かない(5) ・友達の付き添い
 - ・待ち合わせ場所(2)

数値	割合
328	34%
236	25%
187	20%
59	6%
40	4%
18	2%
64	7%
24	3%
956	100%

「本を借りるため」「本を読むため」「調べ物をするため」の順に回答している生徒が多い。それら以外にも「ビデオ、DVDを見るため」「インターネットを利用するため」その他にある「勉強」など、それぞれが図書館の多様な利用の仕方を理解していることがわかる。また、「おはなし会などイベントに参加するため」と回答した生徒も少ないながらもいる。市の図書館も中学生が足を運びたくなるようなイベントの企画などをさらに充実させ、学校図書館と連携しながら発信していくことが望まれる。

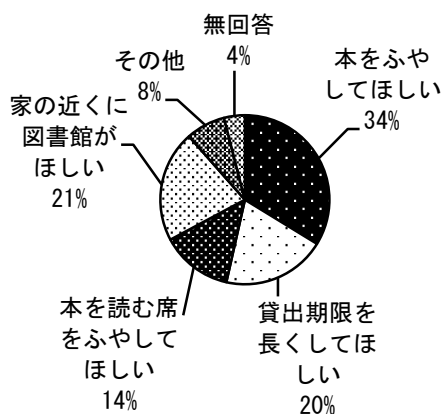


問17 市の図書館にこうしてほしいと思うことはなんですか。
ひとつえらんで記号に○をしてください。

- ア 本をふやしてほしい
- イ 貸出期限を長くしてほしい
- ウ 本を読む席をふやしてほしい
- エ 家の近くに図書館がほしい
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・新しい本・面白い本を増やしてほしい(2)
 - ・マンガを増やしてほしい(2)
 - ・市の中心に大きな図書館をつかってほしい
 - ・インターネットの設備をもっとほしい
 - ・学習席を増やしてほしい
 - ・中高生向けの本を増やしてほしい

数値	割合
220	34%
129	20%
89	14%
139	21%
49	8%
26	4%
652	100%

「本をふやしてほしい」と34%の生徒が回答している。市内、県内の図書館にはネットワークがあり、それぞれの区域内の図書館に読みたい資料がなくても、検索し借り受けることが可能である。「貸出期限を長くしてほしい」の20%については、中学生になり長編の読み物など、時間を見つけながら読み進めていく中で期限が短く感じる事が考えられる。最寄の図書館だけでなく、市内の図書館を活用するためにも、中学生が図書館サービスを知る機会を設けるなど、市の図書館をさらに身近に感じてもらうような働きかけが必要だと考える。



問18 あなたは、どうすればみんながもっと本を読むようになるとおもいますか。

主な意見

- ◎自分自身に関する事
 - ・おすすめ本の紹介をする (53)
 - ・本のおもしろさ、楽しさ、すばらしさを伝える、知る (30)
 - ・自分に合った本、好きな本や作家を見つける (10)
 - ・本を読む時間をつくる (9)
 - ・薄い本、読みやすそうな本から読む (4)
 - ・無理に読まなくてもいい、読む気がしない (4)
 - ・きっかけをつくる
 - ・図書館に何回か行ってみる
- ◎家庭に関する事
 - ・読み聞かせをたくさんする (8)
 - ・読書の習慣をつける (7)
 - ・本を身近に置く (3)
 - ・家庭でもう少し本を買うようにする
- ◎学校に関する事
 - ・図書の日や全体で読書する時間を増やす (32)
 - ・学校で図書室に行く回数や本を借りる冊数のきまりをつくる (5)
 - ・朗読会を増やす (2)
 - ・ルールをきびしくしない
 - ・読書感想文のコンクールなどを積極的に行なう。
- ◎図書館(学校・公共)に関する事
 - ・おもしろい本を増やす、作る (54)
 - ・本の種類を多くする (32)
 - ・図書館や本の宣伝をする(インターネット・テレビ等も) (28)
 - ・ポスターやチラシ、POP等展示物を工夫する (14)
 - ・本の楽しさを知る、身近に感じるイベントをする (13)
 - ・マンガやノベライズ本を増やす (10)

- ・読みたい本や人気の本を図書館にそろえる (9)
- ・新刊を増やす (6)
- ・読みたい本や、気になる本の種類をアンケートする (4)
- ・簡単に読める本を作る、増やす (7)
- ・図書館を魅力的にする、雰囲気をもたらしやすくする (3)
- ・たくさん借りたらプレゼントや特典がつく (4)
- ・貸し出し期限を長くする (2)
- ・読後に感想を書き、他の人も見られるようにする (2)
- ・少しだけ内容を教える
- ◎行政に関すること
 - ・図書館の数を増やす (9)
 - ・図書館を広くする、席を増やす、環境整備 (7)
 - ・本を無料でプレゼントする
 - ・「本を読む日」を作る
 - ・インターネットで借りられるようにする (電子書籍化)
- ◎その他
 - ・親しみやすくする為にドラマ化・映画化をする (2)
 - ・表紙をインパクトあるものにする (2)
 - ・国語の教科書にもっと興味を持てるような内容の本を載せる

子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 3歳児保護者

平成27年7月実施

対象 市内保育所・幼稚園 3歳児保護者

【八田・巨摩・白根東・百田・白根・若草・たちばな・十日市場
・楡形中央・楡形北・楡形西・豊・さくらんぼ・落合・大明・ポッポの家
・南湖・小笠原・みだい・バンビバイリンガル・マコト愛児園】

調査保護者数 410人

回答者数 347人 (うち父10人/うち母325人/その他1人/無回答11人)

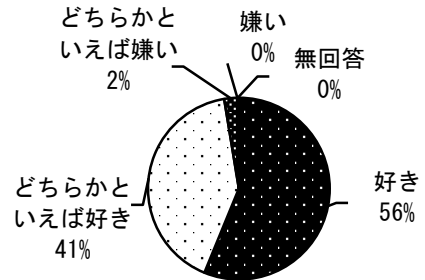
回答率 85%

問1 あなたのお子さんは、本（読書）が好きだと思いますか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
195	56%
143	41%
8	2%
0	0%
1	0%
347	100%

「好き」「どちらかといえば好き」という答えが97%であり、前回の調査の96%よりわずかながら増加した。内訳をみても「好き」が前回の調査の50%から6%増加しており、非常に好ましい結果である。
多くの家庭で、子どもが本を好きになる環境づくりがなされていることがうかがえる。

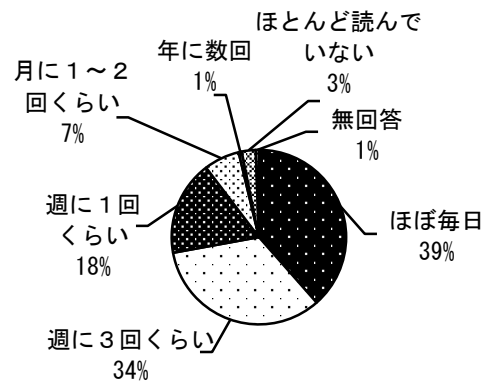


問2 あなたのお子さんは、教科書、雑誌、マンガ以外の本をどのくらい読んでいますか。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1~2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んでいない
- 無回答
- 合計

数値	割合
134	39%
117	34%
61	18%
23	7%
2	1%
9	3%
2	1%
348	100%

週1回以上読んでいるという答えが91%であり、前回の調査の86%より、5%増加した。
内訳をみても「ほぼ毎日」読む割合が前回の調査の34%から39%へと増加しており、好ましい結果である。
問1の、本が「好き」が増加していることから考えても、本が「好き」なことが、毎日読む習慣につながっていることがうかがえる。

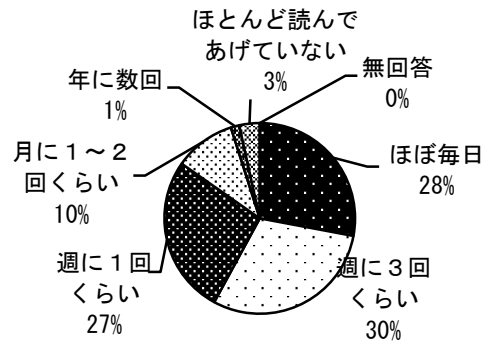


問3 ご家庭では、お子さんに本をどのくらい読んであげていますか。(いましたか。) あてはまる記号に○をつけてください。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1~2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んであげていない
- 無回答
- 合計

数値	割合
97	28%
104	30%
93	27%
36	10%
5	1%
12	3%
0	0%
347	100%

週1回以上本を読んであげている家庭が85%であり、家庭のなかで子どもに本を読んであげる習慣がついていることがうかがえる。ただし、内訳を前回の調査と比べてみると、「週3回くらい」が35%から30%に減少、「週1回くらい」が22%から27%に増加していることから、社会情勢等の変化で保護者が5年前に比べ忙しくなっている様子がうかがえる。

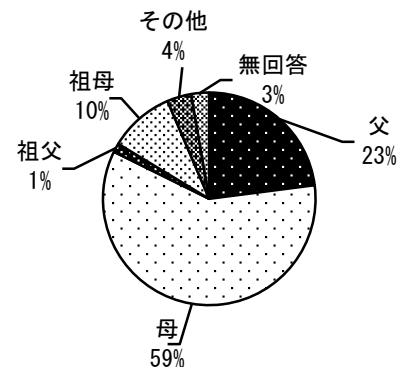


問4 それは、主にどなたが、お子さんに本を読んであげていますか。(いましたか。) あてはまる記号にすべて○をつけてください。

- ア 父
- イ 母
- ウ 祖父
- エ 祖母
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・姉(9)
 - ・兄(2)
 - ・先生
 - ・曾祖母

数値	割合
118	23%
305	59%
7	1%
51	10%
19	4%
14	3%
514	100%

両親が読んであげる家庭が82%で、前回の調査と変化がなかった。内訳も、「母」59%「父」23%と前回の調査と変化がなかった。いつの時代も両親を中心に、本を読んであげていることがわかる。その他の意見から、祖父母・兄弟等が本を読んであげている様子もみられ、家庭全体で子どもの読書に取り組んでいることがうかがえる。それぞれの家庭に合わせた方法を見つけて、読み聞かせを継続してほしい。

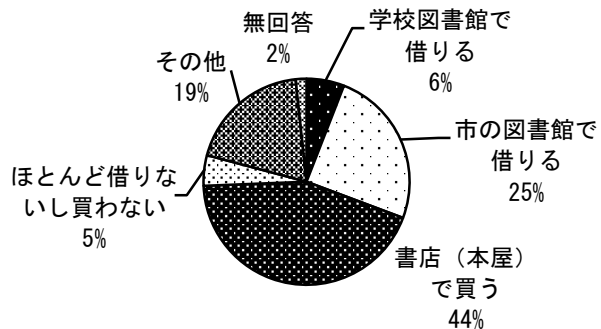


問5 あなたは、お子さんの本をどのようにして用意しますか。
一番多い方法に○をつけてください。

- ア 学校図書館で借りる
- イ 市の図書館で借りる
- ウ 書店（本屋）で買う
- エ ほとんど借りないし買わない
- その他
- 無回答
- 合計

数値	割合
21	6%
88	25%
155	44%
17	5%
68	19%
6	2%
355	100%

- その他の主な意見
- ・もらう(親戚、知人等)(13)
 - ・家にある(13)
 - ・保育園で借りる(8)
 - ・通信講座についてくる(8)
 - ・保育園で購入(8)
 - ・毎月購入(5)
 - ・購入(2)
 - ・本屋で読む
 - ・図書館で借りる



前回の調査と同様、75%の家庭で本を借りたり購入したりしている。内訳をみると、「図書館で借りる」が27%から31%へ増加しており、少しずつではあるが、学校・市立図書館ともに利用される機会が増えていることがうかがえる。

「ほとんど借りないし買わない」は前回の調査と同様で5%と変化がなかった。これからも、「ブックスタート」等あらゆる機会をとおして、乳幼児期から本を身近に置く習慣をつけることが大切であると思われる。

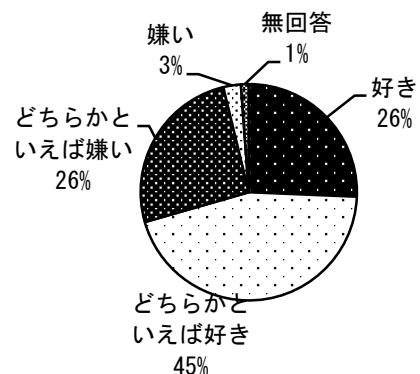
問6 あなた自身は、読書が好きですか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
88	26%
154	45%
88	26%
9	3%
4	1%
343	100%

71%が「好き」「どちらかといえば好き」と答えている。一方29%が「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えている。前回の調査より「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた人が5%増えていることが残念だ。

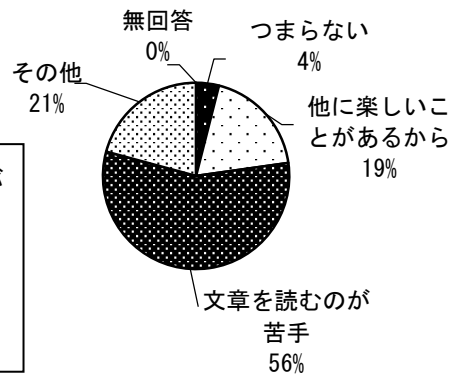
保護者の読書に対する姿勢が、乳幼児期の子どもに大きな影響をあたえることを考えても、保護者層への図書館からの積極的な働きかけが必要だと思われる。



問7 問6でウ「どちらかといえば嫌い」、エ「嫌い」を選んだ人にお伺いします。その理由は何ですか。

- ア つまらない
- イ 他に楽しいことがあるから
- ウ 文章を読むのが苦手
- エ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・時間が無い(10)
 - ・読みたい本が無い(2)
 - ・疲れる
 - ・飽きた
 - ・面倒
 - ・小さい頃から読まなかった

数値	割合
4	4%
19	19%
57	56%
21	21%
0	0%
101	100%

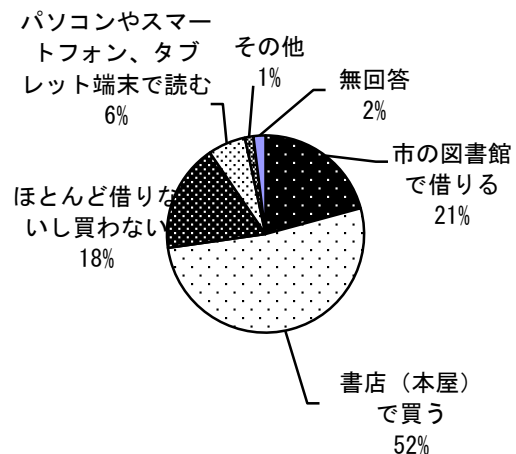


「文章を読むのが苦手」が56%、「他に楽しいことがあるから」が19%と前回の調査とほぼ同じ結果であった。情報を得る方法が多様化する中で、まず興味の対象を読書に向けてもらい、苦手意識をなくしてもらうことが大切だと思われる。

問8 あなたは、ご自分が読む本をどのようにして用意しますか。一番多い方法に○をつけてください。

- ア 市の図書館で借りる
- イ 書店（本屋）で買う
- ウ ほとんど借りないし買わない
- エ パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・家族から借りる(3)
 - ・知人から借りる
 - ・購入

数値	割合
74	21%
185	52%
63	18%
22	6%
5	1%
7	2%
356	100%



「市の図書館で借りる」が21%であり、前回の調査より3%増加した。一方「書店（本屋）で買う」は前回の調査の62%から52%へと、10%も大幅に減少したことは、書店の数が減少していることが影響していると思われる。また、今回のアンケートから新たに設けられた「パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む」が6%であった。今後、読書のあり方が多様化していくことも視野に入れ、時代に合わせた本の提供方法を検討する必要があるのではないだろうか。

問9 あなたは、市の図書館をどのくらい利用しますか。

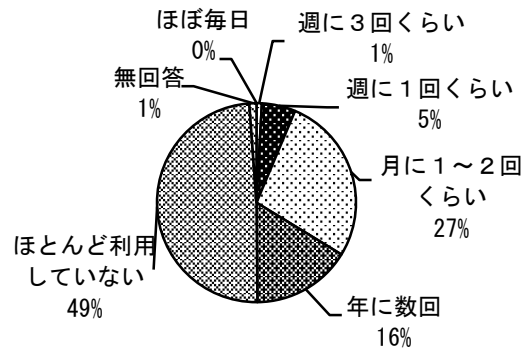
- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど利用していない
- 無回答
- 合計

数値	割合
0	0%
3	1%
19	5%
95	27%
56	16%
170	49%
4	1%
347	100%

月に1回以上、市立図書館を利用する人が33%であり、前回の調査の31%からわずかではあるが増加した。

また、「年に数回」図書館を利用する人が16%いるが、この利用者層を、月1回以上利用する常連層へと増加させるためには、図書館からの積極的な働きかけが必要だと思われる。

一方「ほとんど利用しない」人が49%であり、全体の半数近くを占めている。「ブックスタート」「親子プレイルーム」などあらゆる機会をとおして図書館への最初の一步を促していくことが大切だと思われる。

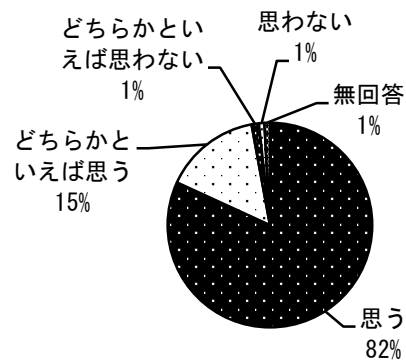


問10 あなたは、本を読むことが大切だと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかといえば思う
- ウ どちらかといえば思わない
- エ 思わない
- 無回答
- 合計

数値	割合
284	82%
53	15%
4	1%
3	1%
3	1%
347	100%

「思う」「どちらかといえば思う」が97%であり、ほとんどの保護者が、本を読むことの大切さを認識している。このような親の意識を、いかに子どもの読書へと反映させていくかが大きな課題だと思われる。



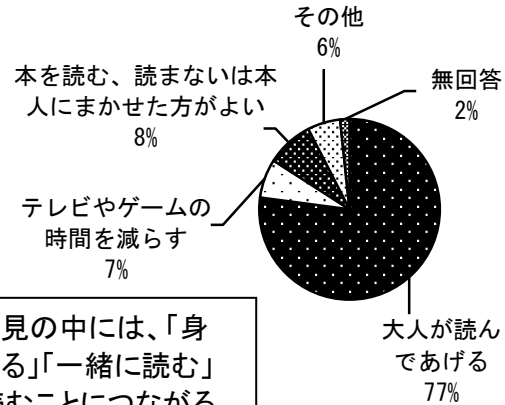
問11 あなたのお子さんが、どうすれば本を読むようになると思いますか。

- ア 大人が読んであげる
 イ テレビやゲームの時間を減らす
 ウ 本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい
 エ その他
 無回答
 合計

数値	割合
276	77%
25	7%
30	8%
21	6%
6	2%
358	100%

その他の主な意見

- ・身近に本のある環境を作る (8)
- ・大人が読んでいる姿を見せる (6)
- ・一緒に読む (4)
- ・興味のあるものからはじめる (2)
- ・図書館に行く
- ・本の楽しさを伝える
- ・一緒に選ぶ



「大人が読んであげる」が77%、また、その他の主な意見の中には、「身近に本のある環境を作る」「大人が読んでいる姿を見せる」「一緒に読む」等が多くあり、保護者は読み聞かせが、子どもが本を読むことにつながることを認識している。

保護者のこのような意識のなかで、子どもが家庭の中で日常的に読書の習慣をつけ、自主的に読書を行うことができるようになることが望まれる。

問12 子どもの読書活動をすすめるために、あなたはどんなことをしたらよいとおもいますか。

主な意見

◎家庭にかかわること

- ・読み聞かせをする、一緒に読む (136)
- ・本に接する読書環境を作る (87)
- ・大人が読書をする姿を見せたり、本に関心を持つ (37)
- ・子どもが興味のある本をすすめたり、たくさん本にふれさせる (34)
- ・図書館で本を借りたり、おはなし会等のイベントに参加 (33)
- ・家族で本を読む時間を作ったり、読んだ本の感想を聞く (26)
- ・本屋さんに連れて行く、定期的に購入する (15)

◎保育所にかかわること

- ・読書の時間を作ったり、先生が読みきかせをする (8)
- ・保育所や市などからお勧めの本の一覧表を配布する (2)
- ・図書館を利用する、または図書館側が招待する
- ・図書室の設置

◎図書館（公共）に関すること

- ・小さな子どもは図書館で騒いでしまうので、子供用の施設を別で作ってほしい (4)
- ・図書館の読み聞かせ（おはなし会）のPR (2)
- ・お勧めの本（年齢にあった）の紹介、一覧表の配布 (2)
- ・おはなし会が毎週ありいきやすい
- ・図書館以外でも借りられるようにする（移動図書館）

◎行政にかかわること

- ・お勧めの本を毎年作る
- ・仕事の時間に制限がある
- ・幼児図書コーナーの充実

◎その他

- ・無理に進めない (5)
- ・いつもと違った本を見せる (2)
- ・本を題材にした観劇などの開催
- ・それぞれの好みにあったアプローチ
- ・おもしろい本と出会う
- ・少しずつ好きにさせる
- ・課外活動の中でたくさん本にふれる
- ・大人の時間、心の余裕が必要
- ・習慣として定着させる
- ・読む以前に話を聞くを繰り返す

子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 小1保護者

平成27年7月実施

対象 市内小学校 1学年保護者
 【八田・源・飯野・白根東・百田・芦安・若草・若草南・
 小笠原・櫛形北・櫛形西・豊・落合・大明・南湖】

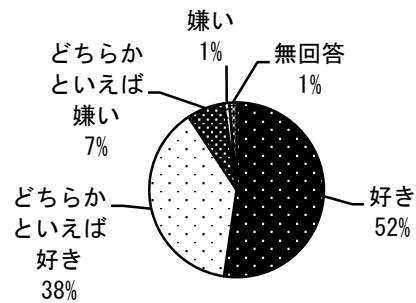
調査保護者数 320人
 回答者数 300人 (うち父10人/うち母251人/その他3人/無回答36人)
 回答率 94%

問1 あなたのお子さんは、本（読書）が好きだと思いますか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
158	52%
116	38%
21	7%
3	1%
4	1%
302	100%

前回とほぼ同じく「好き」「どちらかといえば好き」をあわせると90%で、保護者のほとんどが自分の子どもは本が好きと回答していることは大変喜ばしい結果である。家庭内で日常的に子どもが本と好ましい関係を築いている様子がうかがえる。「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の保護者は、今は読書以外に興味に向いているとわかっているのだろう。読書に興味を持ったときに楽しめるような環境が整っていることが大切であると考え。

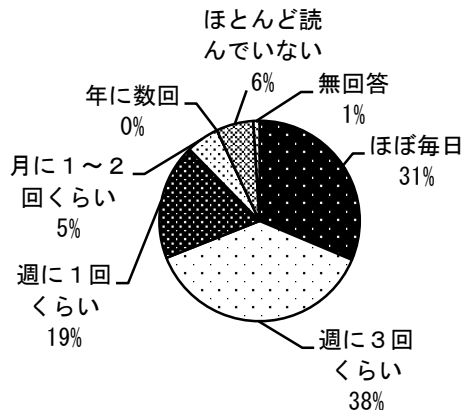


問2 あなたのお子さんは、教科書、雑誌、マンガ以外の本をどのくらい読んでいますか。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1~2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んでいない
- 無回答
- 合計

数値	割合
94	31%
113	38%
56	19%
16	5%
0	0%
18	6%
3	1%
300	100%

前回とほぼ同じく週に1回以上本を読んでいる家庭が88%あった。小学生になり、学校図書館等から本を借りることもできる環境になり、読書している様子がうかがえる。しかし、ほとんど読んでいないと答える保護者も6%いる。学校など別の場所では読んでいるが、家庭内では読んでいない様子がうかがえる。小学校1年生で「ほとんど読んでいない」というのは、幼児期の読書環境が関連してくるのではないかと考えられる。家庭内で本を読む環境づくりを整えるためにも『家読』をすすめていきたい。

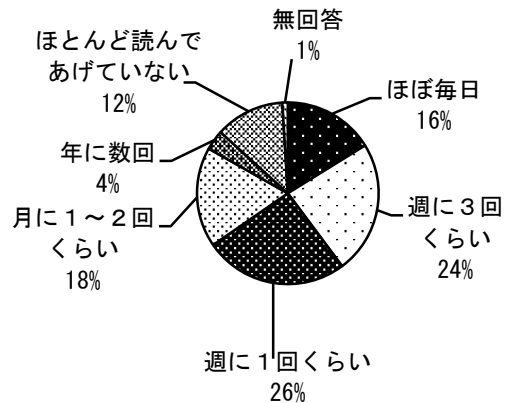


問3 ご家庭では、お子さんに本をどのくらい読んであげていますか。（いましたか。）
あてはまる記号に○をつけてください。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んであげていない
- 無回答
- 合計

数値	割合
50	16%
73	24%
79	26%
55	18%
11	4%
38	12%
3	1%
309	100%

家庭での読み聞かせを行っている親が多く、その大切さを理解していることがうかがえる。読み聞かせが子どもとのふれあいの一つになってことは、大変ほほえましい結果である。
一方、「ほとんど読んであげていない」という家庭が前回に比べ増えているのは残念である。あわただしい生活が感じられるが、低学年のうちには幼児期と同じように読み聞かせをして欲しい。問10の回答では、本を読むことの大切さは感じているので、読み聞かせの良さを更に伝えていくことが必要であると考え。

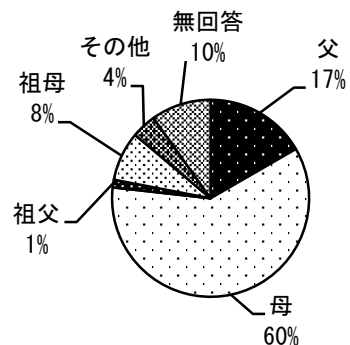


問4 それは、主にどなたが、お子さんに本を読んであげていますか。（いましたか。）
あてはまる記号にすべて○をつけてください。

- ア 父
- イ 母
- ウ 祖父
- エ 祖母
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・ 姉 (10)
 - ・ 兄 (6)
 - ・ 弟
 - ・ 職員

数値	割合
66	17%
238	60%
5	1%
32	8%
16	4%
39	10%
396	100%

前回同様子どもにとっていちばん身近な大人である両親が読み聞かせをしている家庭が77%ある。また、祖父母にも読んでもらっていることもわかる。家族みんなで読み聞かせに関わっていることは喜ばしいことである。父母を比較すると、母が60%に対し父は17%である。父親も読み聞かせをとおして子どもと接する機会を多くつくってほしい。

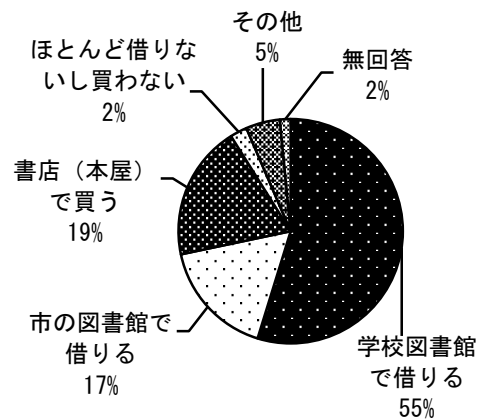


問5 あなたは、お子さんの本をどのようにして用意しますか。
一番多い方法に○をつけてください。

- ア 学校図書館で借りる
- イ 市の図書館で借りる
- ウ 書店（本屋）で買う
- エ ほとんど借りないし買わない
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・ 家にある（6）
 - ・ もらう（親戚、知人等）（3）
 - ・ 保育園で購入（3）
 - ・ 購入（2）
 - ・ 図書館で借りる

数値	割合
178	55%
55	17%
63	19%
8	2%
16	5%
5	2%
325	100%

「学校図書館で借りる」「市の図書館で借りる」など図書館を活用していると答えた保護者が72%あるのは喜ばしい結果である。小学校では図書の時間など学校図書館を利用する時間が確保されているため、利用が増えていると考える。学校の図書館を利用することで、公共図書館へも親しみを感じて欲しい。わずかではあるが、「ほとんど借りないし買わない」という家庭があり心配である。家庭の中に本が無い状況が考えられ、保護者が子どもと本との出会いの大切さを理解することが必要だと考える。

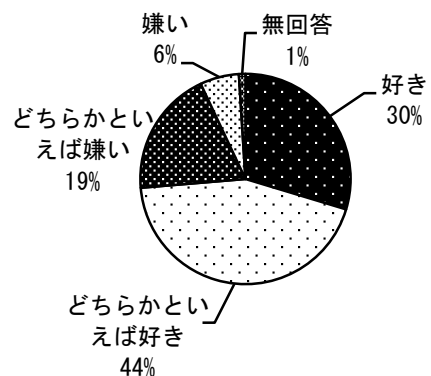


問6 あなた自身は、読書が好きですか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
89	30%
132	44%
58	19%
18	6%
3	1%
300	100%

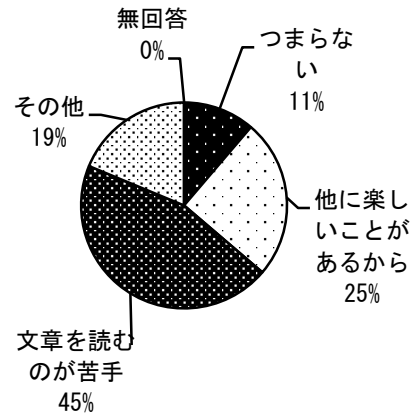
前回と同じく74%の保護者が「好き」「どちらかといえば好き」と答えている。身近にいる大人の姿が家庭での読書環境に反映していると考えられる。「どちらかといえば嫌い」「嫌い」も25%いるが、問10では読書の大切さをほとんどの保護者が理解していることがわかる。きっかけがあれば改善されることが予想できるので、そのための手立てを考える必要があるのではないかと考える。



問7 問6でウ「どちらかといえば嫌い」、エ「嫌い」を選んだ人にお伺いします。その理由は何ですか。

- ア つまらない
- イ 他に楽しいことがあるから
- ウ 文章を読むのが苦手
- エ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・時間が無い (9)
 - ・疲れる
 - ・漢字が読めない

数値	割合
9	11%
20	25%
36	45%
15	19%
0	0%
80	100%

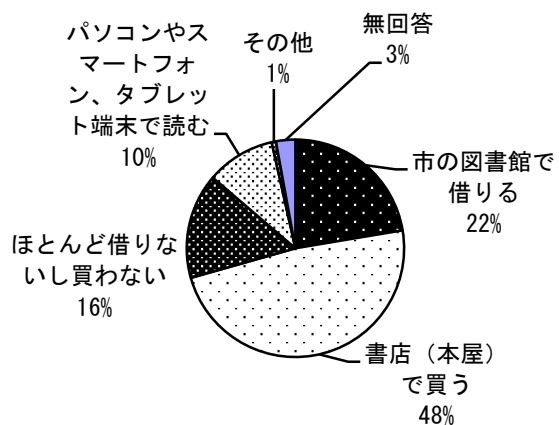


前回に比べ「他に楽しいことがあるから」「文書を読むのが苦手」が減少し、かわりに「つまらない」が増加している。読書する事自体は嫌いではないが、楽しく感じられないと本を読む事から遠ざかってしまうのではないかと考えられる。読書の楽しさを体感してもらう必要性を感じる。生活スタイルが変わっていく中、多くの選択肢から読書を選んでもらえるよう、苦手意識がとれるような手立てを考えていくことが必要である。

問8 あなたは、ご自分が読む本をどのようにして用意しますか。一番多い方法に○をつけてください。

- ア 市の図書館で借りる
- イ 書店（本屋）で買う
- ウ ほとんど借りないし買わない
- エ パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・読めていない
 - ・購入

数値	割合
70	22%
151	48%
49	16%
32	10%
2	1%
9	3%
313	100%



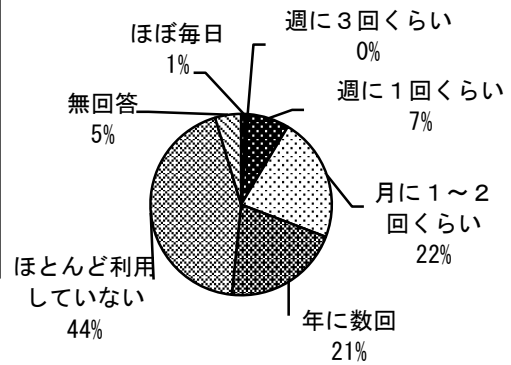
自分の本は購入する人が多い。子どもと違い趣味や趣向も決まり、さらに実用書などずっと手元に置いて活用する本が多くなるためと推察する。また、1割の人がネット環境の中で読書している。今後、更に利便性が高まればその活用は多くなる事が考えられる。「ほとんど借りないし買わない」という回答が16%あるのは、本を読むことから離れてしまっているのではないかと懸念する。本を手に取りれる環境をどう提供していくかが課題である。

問9 あなたは、市の図書館をどのくらい利用しますか。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど利用していない
- 無回答
- 合計

数値	割合
3	1%
1	0%
22	7%
67	22%
63	21%
132	44%
14	5%
302	100%

ほぼ半数の保護者が市の図書館を利用している。しかし、「ほとんど利用していない」という保護者も44%と多い。勤めている人が多い世代のため仕方がないのかもしれないが、問8の回答にあったタブレット等を活用しているためとも考えられる。タブレット等では体験できない図書館のサービスを充実させていく必要がある。

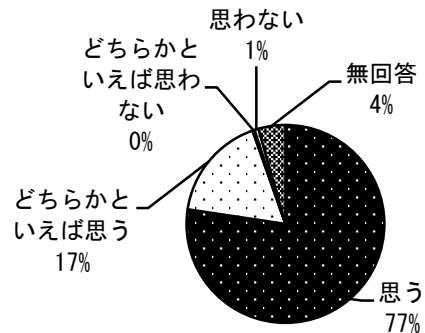


問10 あなたは、本を読むことが大切だと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかといえば思う
- ウ どちらかといえば思わない
- エ 思わない
- 無回答
- 合計

数値	割合
229	77%
51	17%
1	0%
2	1%
13	4%
296	100%

「思う」「どちらかといえば思う」を合わせると、ほとんどの保護者が読書の大切さを感じているので、それをどのように子どもの読書に反映させていくかが重要になっていく。保護者自身も時間を生み出し、子ども達と一緒に本を読み楽しさを共有する事が大切であると考えられる。



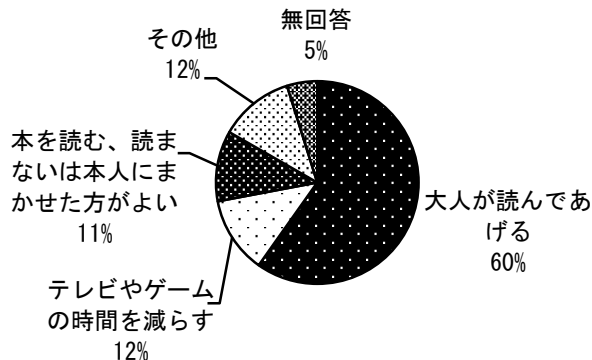
問11 あなたのお子さんが、どうすれば本を読むようになると思いますか。

- ア 大人が読んであげる
 イ テレビやゲームの時間を減らす
 ウ 本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい
 エ その他
 無回答
 合計

数値	割合
186	60%
38	12%
35	11%
37	12%
15	5%
311	100%

その他の主な意見

- ・興味のあるものからはじめる (7)
- ・本の楽しさを伝える (4)
- ・一緒に読む (3)
- ・身近に本のある環境をつくる (3)
- ・図書館に行く (2)
- ・読む時間を作る (2)
- ・声を掛ける
- ・一緒に選ぶ
- ・喜ぶ仕掛けをつくる
- ・わからない



「大人が読んであげる」という回答が6割あり一番多かった。読み聞かせの有用性や大切さを理解している人が多い。「本を読む、読まないは本人にまかせたほうがよい」という意見が11%いるが、小1の段階で本人にまかせてしまうのは、まだ早いように感じる。小学校という新しい環境の中、読書に親むきっかけもつくりやすい時期だと考える。低学年のうち、身近にいる大人たちが読み聞かせなどで子どもに本の楽しさを知らせることが大切だと考える。

問12 子どもの読書活動をすすめるために、あなたはどんなことをしたらよいとおもいますか。

主な意見

- ◎家庭に関すること
 - ・一緒に読む (42)
 - ・読み聞かせをする (35)
 - ・本が身近にある環境を作る (21)
 - ・本を読む時間、ふれる時間を作る (18)
 - ・図書館や本屋に行く (12)
 - ・本を読んでいる姿をみせる (3)
 - ・興味を持った本を選ぶ
 - ・すすんで読んだらほめる
- ◎学校に関すること
 - ・朝に読書をする時間をもった方がよい (6)
 - ・学校図書室の充実
 - ・学校で対応してくれているから特に口だししたくない
- ◎図書館（学校、公共）に関すること
 - ・図書室や図書館が楽しいと思える場所づくりをする (2)
 - ・市のブックスタートで4ヶ月頃に本を頂いた事は本当に良いスタートになった
 - ・図書館の工作イベントやおはなし会がもっとあると良い
 - ・一年生を機になど、自分のカードを作ることも、意欲、楽しみにつながる
 - ・図書館に行くのが生活の中に自然と入ってくれば特別な事ではなくなる
 - ・学校や市の図書館の内容が充実したらいい
 - ・平日の図書館がもう少し遅い時間までやっけてもらえたらもっと利用できる
- ◎その他
 - ・読み聞かせをする (5)
 - ・本の楽しさ、おもしろさを伝える (4)
 - ・学校や地域に協力してもらって本にふれる機会を増やしてほしい (2)
 - ・わかりません (2)
 - ・特にうながさない (2)
 - ・子供自身に興味のある分野の本を選ばせる

子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 小4 保護者

平成27年7月実施

対象 市内小学校 4学年保護者
 【八田・源・飯野・白根東・百田・芦安・若草・若草南・
 小笠原・櫛形北・櫛形西・豊・落合・大明・南湖】

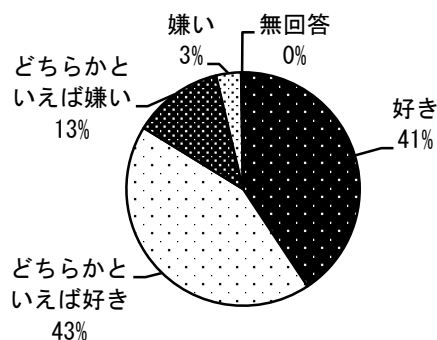
調査保護者数 387人
 回答者数 378人 (うち父22人/うち母318人/その他4人/無回答31人)
 回答率 98%

問1 あなたのお子さんは、本（読書）が好きだと思いますか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
153	41%
162	43%
47	13%
13	3%
1	0%
376	100%

84%の保護者が「好き」「どちらかといえば好き」と答えていることは大変喜ばしい結果である。また前は17%だった「どちらかといえば嫌い」が13%に減少していることも良い傾向だと考える。小4の時期は読書の内容が『絵本』のような短い物語からページ数の多い『物語』へと移行する学年でもある。今までは読み聞かせをしてもらったりしていたが、『一人読み』を好んだり、好きなジャンルも決まってくる。また反対に読書への興味も変化する時期でもある。日頃から読書について親子で話し合ったり、家庭の読書環境を整えたりすることが大切だと考える。

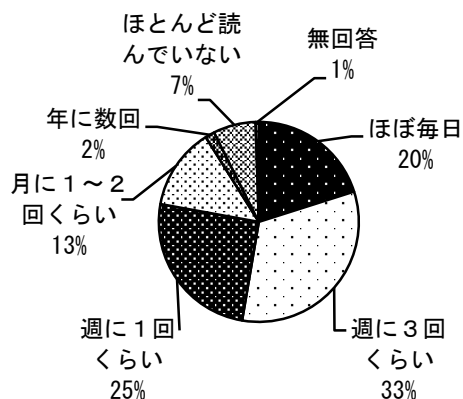


問2 あなたのお子さんは、教科書、雑誌、マンガ以外の本をどのくらい読んでいますか。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んでいない
- 無回答
- 合計

数値	割合
79	20%
128	33%
99	25%
52	13%
6	2%
27	7%
2	1%
393	100%

前は73%だった「ほぼ毎日」「週に3回くらい」「週に1回くらい」の割合が78%に増加している。子ども達が家庭でよく読書をしている姿を、保護者もよく見ているのではないか。また「ほとんど読んでいない」が前回に比べて減少している。家庭でも読書環境が整い、県が推進する『家読』も浸透しているのではないかと考える。「ほとんど読んでいない」も前回より減少しているが7%ある。このような家庭に読書の大切さを知ってもらうことが重要である。学校でも家庭と連携して、読書の大切さを伝えていくことが本を読まない子どもをへらす手立てにつながるのではないかと考える。

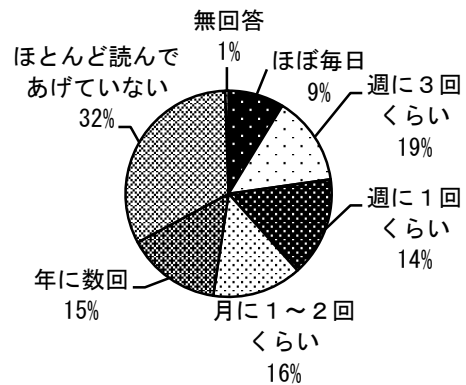


問3 ご家庭では、お子さんに本をどのくらい読んであげていますか。(いましたか。) あてはまる記号に○をつけてください。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んであげていない
- 無回答
- 合計

数値	割合
33	9%
53	14%
59	16%
53	14%
56	15%
122	32%
2	1%
378	100%

前回と比べると、「ほぼ毎日」「週に3回くらい」「週に1回くらい」の合計の割合が46%から39%に減少している。逆に、「年に数回」「ほとんど読んであげていない」の割合が40%から47%に増加している結果が出た。これは保護者が日々忙しい環境であるという、今の時代の背景も影響しているのではないか。親子のコミュニケーションの一つとして親子で本を読む時間を意識してつくってほしい。

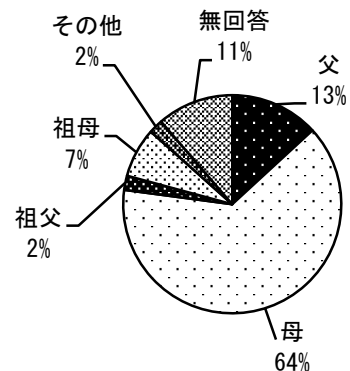


問4 それは、主にどなたが、お子さんに本を読んであげていますか。(いましたか。) あてはまる記号にすべて○をつけてください。

- ア 父
- イ 母
- ウ 祖父
- エ 祖母
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・ 姉 (3)
 - ・ 姉妹
 - ・ 読んでない

数値	割合
50	13%
243	64%
8	2%
28	7%
8	2%
43	11%
380	100%

母親の割合が64%と前回と同じ数値であった。いつの時代も母親が本を読んであげていることがわかる。父親、祖母の割合が前回と比べると減少したが、祖父の割合が1%増加している。読み聞かせの割合は両親の関わりが多いが、祖父母を含め、家族全体で子どもの読書に取り組んでいることがわかる。読み聞かせに決まりはないので、それぞれの家庭にあった方法を見つけて、楽しい環境で読み聞かせを継続してほしい。

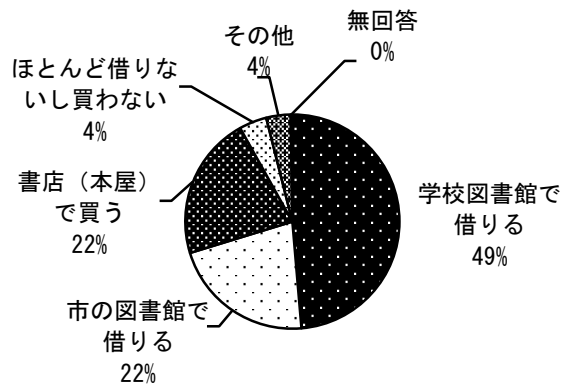


問5 あなたは、お子さんの本をどのようにして用意しますか。
一番多い方法に○をつけてください。

- ア 学校図書館で借りる
- イ 市の図書館で借りる
- ウ 書店（本屋）で買う
- エ ほとんど借りないし買わない
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・ 家にあるもの（3）
 - ・ 幼稚園で購入（月刊本）
 - ・ 私が子供のころ買ってもらった本
 - ・ 弟が保育園から配られる絵本を読ませている
 - ・ プレゼントなど
 - ・ 配本サービスで本が届く

数値	割合
198	49%
88	22%
88	22%
17	4%
15	4%
1	0%
407	100%

「学校図書館で借りる」「市の図書館で借りる」の合計が前回と同じ割合であった。小1の保護者の調査でもほぼ同じ結果が出ている。小学校は図書の時間が確保されており、学校図書館の利用が日常化されていることが大きく影響されていると考える。また、「ほとんど借りないし買わない」の割合も前回と同じ結果だった。小4はまだ読書が身近な環境であるのに、この結果は残念である。ゲームやスポーツなどの趣味の多様化が始まる時期としても、この時期から本を読まないのは今後が心配だと考える。保護者が意識をして読書の時間をつくることや、家族を巻き込んだ読書環境づくりが大切であると考えます。

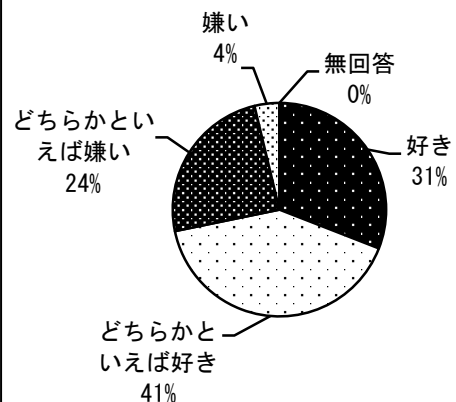


問6 あなた自身は、読書が好きですか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
115	31%
152	41%
91	24%
14	4%
0	0%
372	100%

前回と比べると、「好き」「どちらかといえば好き」が75%から72%に減少している結果になった。しかし7割以上の保護者が読書が好きであると考えているのでこの結果は喜ばしいことである。読書をしている保護者の姿は、子どもにも反映される傾向があると思うので、日々忙しい保護者も意識して読書をする時間をつくり、子どもや自分と向かい合ってほしい。「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の割合は前回と同じ割合であった。このような保護者は読書の楽しさを体験できれば本に目を向けられると思う。市立図書館も話題の本などの情報発信をしながら、読書のきっかけづくりをより推進していく必要がある。

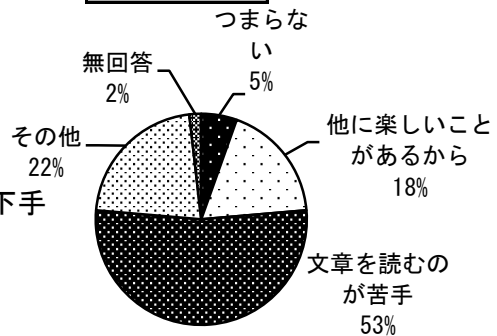


問7 問6でウ「どちらかといえば嫌い」、エ「嫌い」を選んだ人にお伺いします。その理由は何ですか。

- ア つまらない
- イ 他に楽しいことがあるから
- ウ 文章を読むのが苦手
- エ その他
- 無回答
- 合計

- その他の主な意見
- ・ 時間がない (9)
 - ・ 目が疲れる、視力が低下したため苦痛 (2)
 - ・ 読み始めても読みきれない
 - ・ 本の選び方がわからない
 - ・ 短いものならよい
 - ・ 読みたい本はあるが読む時間をつくるのが下手
 - ・ 特になし

数値	割合
6	5%
20	18%
58	53%
24	22%
2	2%
110	100%



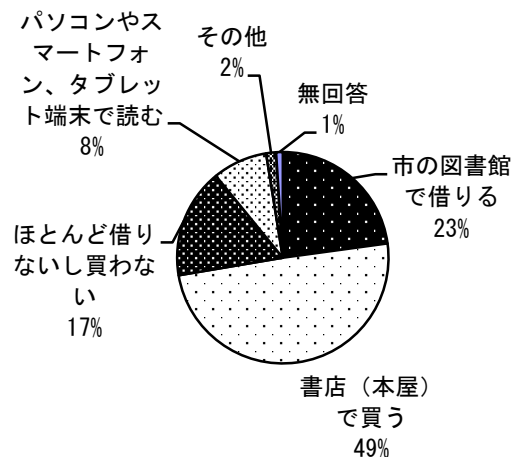
前回より「文章を読むのが苦手」は47%から53%に増加している。「つまらない」「他に楽しいことがあるから」は27%から23%に減少している。本の楽しさは、体験した人しかわからず、良さを体験できなかった保護者は自分の子どもに伝えることができないと考える。読書のきっかけづくりは、話題の本や子どもが読んでいる本と一緒に読むことから始められる。まずは、保護者自身が本の楽しさを体験できるように本に目を向けてほしい。

問8 あなたは、ご自分が読む本をどのようにして用意しますか。一番多い方法に○をつけてください。

- ア 市の図書館で借りる
- イ 書店（本屋）で買う
- ウ ほとんど借りないし買わない
- エ パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む
- オ その他
- 無回答
- 合計

- その他の主な意見
- ・ 頂く
 - ・ 妻が読み終えた本を読む
 - ・ 友人に借りる
 - ・ 中国の本

数値	割合
90	23%
195	49%
66	17%
33	8%
6	2%
4	1%
394	100%



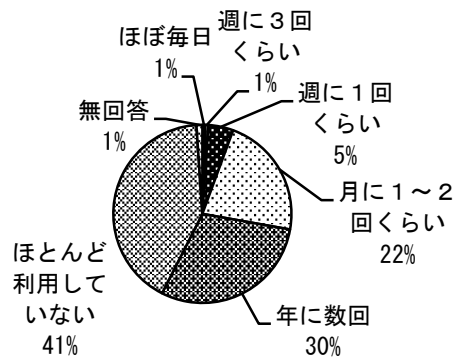
エの「パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む」は今回の調査から新しく加えた設問である。8%の保護者が電子媒体を利用していることがわかる。「市の図書館で借りる」は前回より26%から23%に減少し、「書店（本屋）で買う」も58%から49%に減少している。時代の背景もあり、ここ数年、電子図書が身近に普及していることや、本を手に入れる手段が多様化していることの表れと考える。利便性から、紙媒体が減少していくことを危惧するが、紙媒体と電子媒体の両方のよさを再確認し、共存していく手立てを考えることが必要であると思われる。

問9 あなたは、市の図書館をどのくらい利用しますか。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど利用していない
- 無回答
- 合計

数値	割合
2	1%
2	1%
17	5%
83	22%
111	30%
155	41%
4	1%
374	100%

前回と比べ、「ほとんど利用していない」が37%から41%に増加している。問8の結果をみてもわかるが、本を手に入れる手段が多様化していることも影響していると思われる。現在の市立図書館利用者は固定化していると思われるので、乳幼児の親子など、新規登録者を増加させることで、生涯にわたる図書館利用につながるように、市立図書館からの働きかけを今後も続けていくことが大切だと考える。

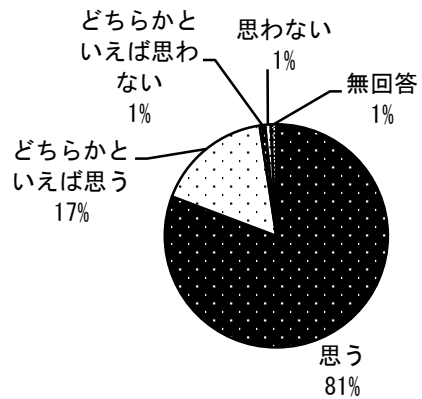


問10 あなたは、本を読むことが大切だと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかといえば思う
- ウ どちらかといえば思わない
- エ 思わない
- 無回答
- 合計

数値	割合
302	81%
63	17%
3	1%
3	1%
3	1%
374	100%

前回に比べ、「思う」が79%から81%に増加している。多くの保護者は読書は大切であることを認識している。しかし、思ってもなかなか読書にどういう良さがあるのか体験ができず、日々の忙しさに流されて、本と向き合う事ができないまま時間が過ぎているのではないかと考える。また、親の姿をみている子どもも同じように過ごしてしまうのではないかと考える。問7でもふれたが、まずは保護者が読書の良さを体験することが大切だと考える。今ある興味に、読書を加えれば保護者の視野もさらにひらけると思うので、市立図書館からもあらゆる機会を通じて読書の大切さを働きかけていきたいと考える。



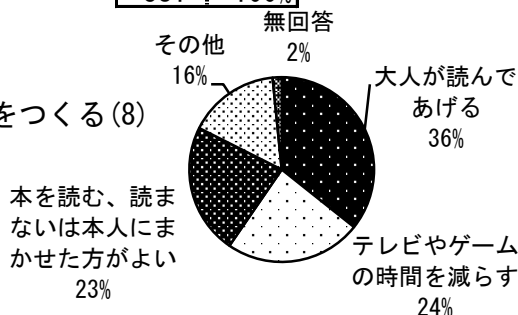
問11 あなたのお子さんが、どうすれば本を読むようになると思いますか。

- ア 大人が読んであげる
 イ テレビやゲームの時間を減らす
 ウ 本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい
 エ その他
 無回答
 合計

数値	割合
136	36%
91	24%
87	23%
61	16%
6	2%
381	100%

その他の主な意見

- ・本を読む時間を増やす、つくる(22)
- ・本に興味を持たせる、楽しさを教える(15)
- ・常に身近に本があるようにする、読む環境をつくる(8)
- ・大人が読書に誘う、声かけをする(4)
- ・図書館や本屋へ行く(3)
- ・一緒に読みたい本を見つける(3)
- ・小さい頃から本と接する
- ・大人の時間に余裕があれば



前回と比べて、「大人が読んであげる」が36%と変わらず、「テレビやゲームの時間を減らす」も23%から24%ということで、ほぼ同じ結果だった。逆に、「本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい」が前回の19%から23%に増加している。小4では、もう本人まかせでも大丈夫だと考えている保護者がいる結果である。「その他」の意見にもあるが、保護者も子どもにどうすれば本を読んでもらえるかと、様々な意見をもっているが、趣味の幅が広がるこの時期の子ども達へ、読書をすすめるきっかけづくりは難しいのであろうか。読書習慣がついている子どもには、引き続き親子で読書を家族で共有してほしいが、本より別の趣味に時間を費やす子どもには、家庭や学校を巻き込んだの取り組みなど、本が身近にある環境づくりの工夫が必要ではないかと考える。

問12 子どもの読書活動をすすめるために、あなたはどんなことをしたらよいとおもいますか。

主な意見

◎家庭に関すること

- ・読書の環境づくり、身近に本があるようにする(150)
- ・読み聞かせをする・一緒に読む(59)
- ・親子で図書館や本屋へ行く(46)
- ・大人も一緒に読む、大人が読んでいる姿を見せる(31)
- ・テレビやゲームの時間を減らす(15)
- ・子どもの興味のあるものを読ませる、本を購入する(5)
- ・学校で対応してくれているから特に口だししたくない
- ・読書していることほめる

◎学校に関わること

- ・読書や音読、読み聞かせの時間を増やす(9)
- ・感動した本やおもしろかった本など、みんなに紹介する機会をつくる
- ・読書をする時間を学校の行事にする
- ・友だちどうし(クラス)で読み聞かせする
- ・読書をする事はとても役に立つので子ども達に講師を招いて講演をする
- ・読むきっかけとして宿題で出す
- ・感想文を書くために読むはなくす

◎図書館(学校、公共)に関すること

- ・市の図書館を週に一度で良いので遅くまで開いて欲しい
- ・本のデリバリーみたいなのがあれば便利だと思う
- ・本の内容や種類がわかると子どもも読みたい本を探しやすい
- ・学校の読書週間など今後も引き続きお願いしたい
- ・おすすめの本や楽しい本などを子どもたちに紹介してほしい
- ・インターネットで申請し、返却も保育所や学校に子どもを通じて届けるだけなら

◎行政にかかわること

- ・図書館の数を増やしてほしい

◎その他

- ・自ら読みたいと思わなきゃ意味がない、まわりがすすめたりしなくてもいい(5)
- ・文章の少ない絵本から少しずつ文章の多い本に変えていく(3)
- ・強制的にしないと読まない
- ・毎日本を読みすぎているので逆に目を悪くしそう
- ・得ることが楽しいおもしろいと感じることが必要
- ・まずは本人に本を好きになる
- ・読書の大切さを伝える

子どもの読書活動に関するアンケート調査集計 中2保護者

平成27年7月実施

対象 市内中学校 第2学年保護者
【八田・巨摩・御勅使・芦安・若草・櫛形・甲西】

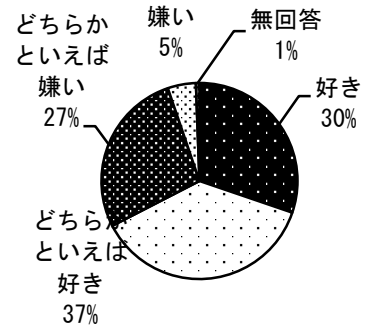
調査保護者数 204人
回答者数 169人 (うち父13人/うち母145人/無回答11人)
回答率 83%

問1 あなたのお子さんは、本（読書）が好きだと思いますか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
52	30%
64	37%
47	27%
8	5%
1	1%
172	100%

生徒の47%が本を読むのが好きと答えているのに対して、自分の子どもが本を読むのが好きと答えている保護者は30%である。中学生ともなると、親は子どもが本を読んでいる姿を見ることが少なく、また親自身もますます忙しくなっていることがうかがえる。忙しい毎日の中、少しでも読書について親子で語り合う機会がほしい。小学校のころより本を読む習慣が薄らぎ、読書離れが進んでくるこの時期こそ、親の読書に対する姿勢が生徒の読書意欲につながるのではないかと考えられる。

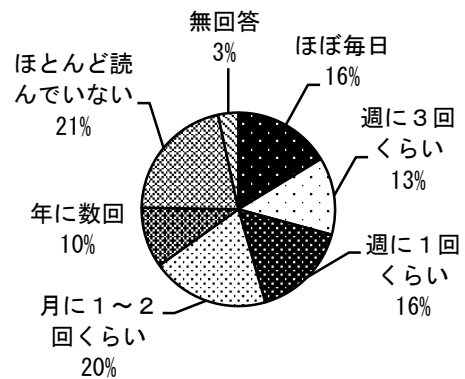


問2 あなたのお子さんは、教科書、雑誌、マンガ以外の本をどのくらい読んでいますか。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1~2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んでいない
- 無回答
- 合計

数値	割合
29	16%
23	13%
29	16%
35	20%
18	10%
38	21%
6	3%
178	100%

「ほぼ毎日」読んでいるという生徒が16%いる。また週1回以上読んでいる生徒は45%で、前回46%とほぼ同じ結果となっている。生徒が忙しい中学校生活のなかで45%の生徒が、家庭でも読んでいる姿もうかがえたことは、嬉しい結果である。「年に数回」「ほとんど読んでいない」と答える保護者が31%で、前回の37%と比べると、わずかだが減っている。家庭では読んでいなくても、学校では読んでいるということも考えられるが、親子で共通の話題づくりとして読書を取り入れるなどPRしていくことも必要である。

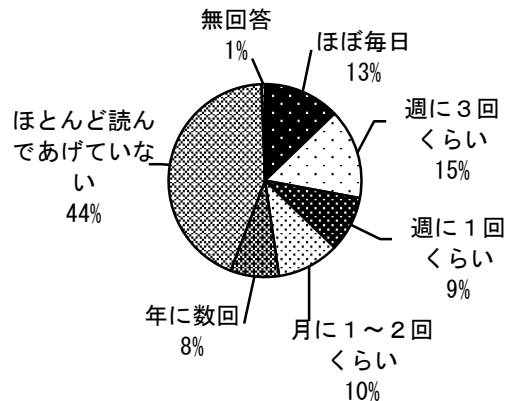


問3 ご家庭では、お子さんに本をどのくらい読んであげていますか。(いましたか。) あてはまる記号に○をつけてください。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど読んであげていない
- 無回答
- 合計

数値	割合
22	13%
26	15%
16	9%
18	10%
14	8%
75	44%
1	1%
172	100%

ほぼ毎日読んであげた家庭が13%で前回よりわずかに減ってはいるが、親の読書に対する関心を見ることが出来る。いかに子どもの成長に読書が大切であるかという考えが浸透してきている。一方で、「年に数回」と「ほとんど読んであげていない」という家庭が52%で前回より増えている。子どもの年齢が上がるにつれて家庭生活のなかでの余裕がなくなる傾向がより増しているように感じる。小さいころは読んであげていたが、今はほとんど読んであげていないという家庭もあるだろう。忙しい中学校生活ではあるが、親子で一緒に読書することの楽しさを伝えていきたい。

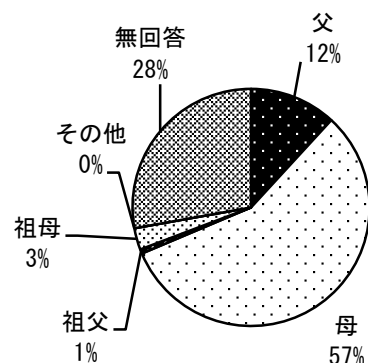


問4 それは、主にどなたが、お子さんに本を読んであげていますか。(いましたか。) あてはまる記号にすべて○をつけてください。

- ア 父
- イ 母
- ウ 祖父
- エ 祖母
- オ その他
- 無回答
- 合計

数値	割合
20	12%
96	57%
1	1%
5	3%
0	0%
47	28%
169	100%

母親が57%、父親が12%と答えている。父親の参加は前回の10%よりわずかに増えているが、もう少しほしいところである。成長するにしたがって、父親とのかかわりが、子どもの読書の広がりや親子のふれあいへと結びつくと考える。少数だが祖父母もかかわってくれているのは、家族で読書に親しんでいる様子がかえ喜ばしい結果である。「無回答」が28%いるのは、子どもが小さい頃の記憶が薄れているせいなのか気になる。

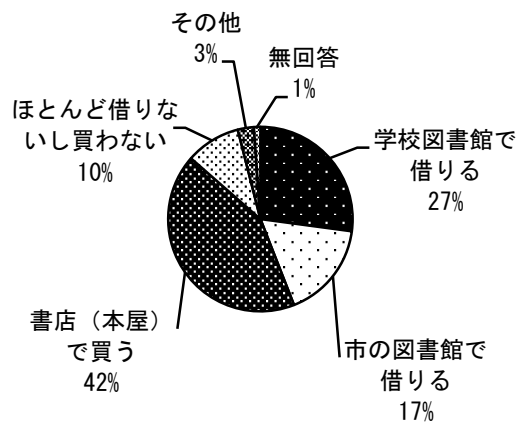


問5 あなたは、お子さんの本をどのようにして用意しますか。
一番多い方法に○をつけてください。

- ア 学校図書館で借りる
- イ 市の図書館で借りる
- ウ 書店（本屋）で買う
- エ ほとんど借りないし買わない
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・いただいた(2)
 - ・自分の読んだ本を子どもにすすめる
 - ・通信販売
 - ・ブッククラブ・フリーペーパーや付録の本

数値	割合
48	27%
30	17%
75	42%
17	10%
5	3%
2	1%
177	100%

学校図書館や市の図書館で借りるという家庭が前回の48%から44%に減った。一方「書店で買う」という家庭は35%から42%に増えた。中学生ともなると自分の興味関心のある本を見つけて購入するという傾向が見えてくるが、幅広い分野の本に接し、手にとってもらうためにも、保護者が子どもと一緒に図書館を利用することをすすめたい。学校図書館が一番身近な図書館として、また市立図書館は、学習や生活に役立つ魅力ある資料を揃えている図書館としてPRしていく必要がある。

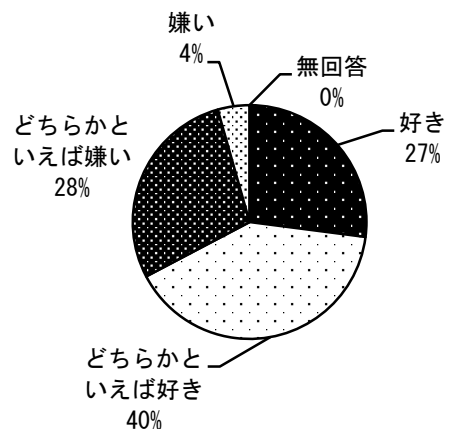


問6 あなた自身は、読書が好きですか。

- ア 好き
- イ どちらかといえば好き
- ウ どちらかといえば嫌い
- エ 嫌い
- 無回答
- 合計

数値	割合
43	27%
64	40%
45	28%
7	4%
0	0%
159	100%

前回と比べると、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた保護者が70%から67%に減り、「嫌い」「どちらかといえば嫌い」という保護者が30%から32%に増えた。「好き」と答えた保護者が多いことは喜ばしいことだが、前回より「嫌い」と答えた保護者が増えたのは残念な結果である。家庭で身近にいる大人が読書を楽しむ姿を見せることは、子どもが本を好きになる環境として大切な要素である。親の読書に対する姿勢が子どもに大きく影響するので、親世代にも読書の大切さを伝えていく必要がある。

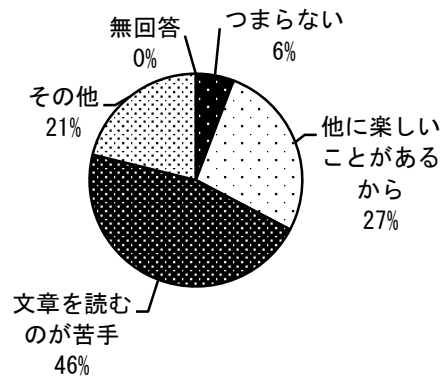


問7 問6でウ「どちらかといえば嫌い」、エ「嫌い」を選んだ人にお伺いします。その理由は何ですか。

- ア つまらない
- イ 他に楽しいことがあるから
- ウ 文章を読むのが苦手
- エ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・読む時間がない(6)
 - ・目が疲れてしまう(2)
 - ・興味のある本は読む
 - ・本を読む気にならない(2)

数値	割合
3	6%
14	27%
24	46%
11	21%
0	0%
52	100%

「文章を読むことが苦手」という保護者が46%であった。確かに文章を読むのが苦手だと思っていると読みたくない。文章がわかりやすい本を子どもと一緒に読むことから始めて、読書のおもしろさを体験してほしい。その他の意見で「興味のある本は読む」という意見があった。小説でなくとも、気軽に楽しめる本にふれるのもよいと思う。「他に楽しいことがあるから」と答えた保護者は27%であった。保護者の姿勢が子どもの読書に反映するので、親子で同じ本を読んで感想を話し合うなどして、読書の楽しさを味わってほしい。

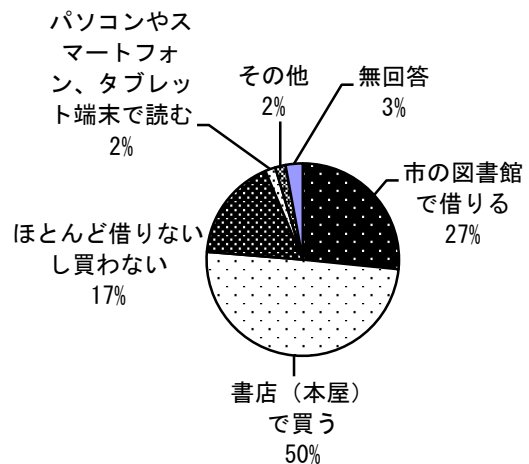


問8 あなたは、ご自分が読む本をどのようにして用意しますか。一番多い方法に○をつけてください。

- ア 市の図書館で借りる
- イ 書店（本屋）で買う
- ウ ほとんど借りないし買わない
- エ パソコンやスマートフォン、タブレット端末で読む
- オ その他
- 無回答
- 合計
- その他の主な意見
 - ・おもしろいと教えてくれた本を借りて読む
 - ・子どもに学校から借りてもらう

数値	割合
46	27%
86	50%
30	17%
3	2%
3	2%
5	3%
173	100%

問5と併せて考えると、子どもの本は、図書館で借りることが多いが、自分の本は書店で買うと答えた人が多い。しかし、前回の結果と比べると「図書館で借りる」が18%から27%に増え、「書店で買う」が63%から50%に下がった。「書店で買う」が13%減少しているのは、書店の数が減っていることが影響していると思われる。「ほとんど借りないし買わない」という人には、図書館を身近に感じられるようなPRを工夫し、図書館の利用を推進していく必要がある。

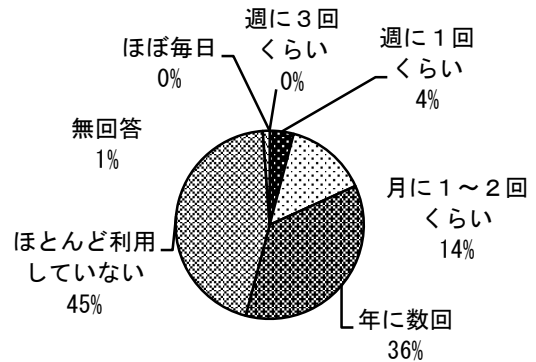


問9 あなたは、市の図書館をどのくらい利用しますか。

- ア ほぼ毎日
- イ 週に3回くらい
- ウ 週に1回くらい
- エ 月に1～2回くらい
- オ 年に数回
- カ ほとんど利用していない
- 無回答
- 合計

数値	割合
0	0%
0	0%
7	4%
24	14%
61	36%
76	45%
2	1%
170	100%

月に1～2回以上利用している人は前回の21%から14%に減った。また、「年に数回」という人が36%、「ほとんど利用していない」という人が45%である。約半数の人が、ほとんど利用していないということになる。問8で「市の図書館で借りる」が27%であったが、利用頻度は非常に少ないといえる。これらの人たちが図書館を利用してみよと思うようなPRや事業を工夫し、中学生の親世代の利用者の拡大を図っていくことが大切である。

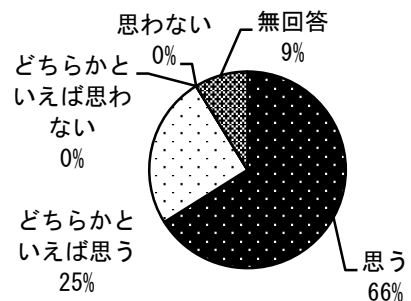


問10 あなたは、本を読むことが大切だと思いますか。

- ア 思う
- イ どちらかといえば思う
- ウ どちらかといえば思わない
- エ 思わない
- 無回答
- 合計

数値	割合
113	66%
43	25%
0	0%
0	0%
15	9%
171	100%

「思う」「どちらかといえば思う」が91%と、ほとんど人が本を読むことの大切さを認識していることはとても心強い。それをいかにして子どもに反映させて家庭での子どもの読書に結び付けていくかを考える必要がある。保護者自身も子どもたちと一緒に本を読み、読書の楽しさを親子で共有することが大切であると考えます。



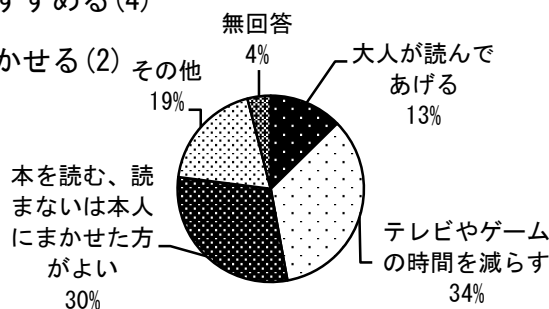
問11 あなたのお子さんが、どうすれば本を読むようになると思いますか。

- ア 大人が読んであげる
 イ テレビやゲームの時間を減らす
 ウ 本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい
 エ その他
 無回答
 合計

数値	割合
22	13%
60	34%
52	30%
33	19%
7	4%
174	100%

その他の主な意見

- ・本を読む時間を作る(5)
- ・いつでも本が読める環境にする(4)
- ・自分が読んだ本や興味が持てそうな本をすすめる(4)
- ・親が読書している姿を見せる(2)
- ・本に興味を持たせる、読む楽しさに気づかせる(2)
- ・一緒に読む(2)
- ・携帯を使う時間を減らす
- ・テレビやゲームが無くす
- ・余程おもしろい本でない限り無理
- ・興味のある漫画本しか読まない



幼いうちは「大人が読んであげる」ことが子どもが本を読むために有効な手段と考えられているようだが、中学2年生では13%と割合は低くなっている。逆に年齢があがるにつれて「本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい」の割合が30%と高くなっている。読書に関することが、小学校中学年あたりから親の手を離れてしまうのだとしたら、幼い頃に本の楽しさを伝え、本に親しむ環境をつくるのがとても大切なのではないだろうか。親子のふれあいづくりのひとつとして、子どもが今興味があることや読んでいる本などを共有することも必要である。また「テレビやゲームの時間を減らす」が34%あり、その他の意見でも「携帯を使う時間を減らす」という意見が出ている。中学生では、スマホや携帯が子どもたちの間でも持たれ、いわゆる「スマホ世代」なる生活環境の変化の影響が、家での時間の使い方にも関係してきていると考えられる。

問12 子どもの読書活動をすすめるために、あなたはどんなことをしたらよいとおもいますか。

主な意見

◎家庭に関わること

- ・家族みんなで読書をする、親が本を読む姿を見せる、本の話をする(21)
- ・読書する環境をつくる(20)
- ・好きそうな本を紹介したり、一緒に書店へ行く(9)
- ・自分自身が家で読書の時間を決め、毎日少しずつでも習慣にする(6)
- ・本を読む楽しさをまず知ること(6)
- ・家に本をたくさん置く、身近に本がおき自然に手に取るようにする(2)
- ・小さい時からの読み聞かせ(2)
- ・小さい頃から本が大好きで今も本を読む時間を確保して楽しみにしている
- ・本を読むには時間が必要
- ・親自身ももう少しゆとりを持った生活を子供と向き合う

◎学校に関すること

- ・朝読書等で楽しい本に出会えたらきっと興味が出てくるだろう(4)
- ・子どもたち同士で勧めあった方が読んでみようと思うかもしれない(3)
- ・新聞の社説を読んで感想などを提出する出題も活字や時事に接するので良い(2)

◎図書館(学校、公共)に関すること

- ・図書館を積極的に利用する(12)
- ・年齢別おすすめ本を毎日何冊か選定する

市内読書施設に関するアンケート調査(小学校)

問1. 朝の読書タイムなど全校一斉の読書活動を実施していますか？実施していれば、いつ・時間はどのくらいですか。

	ア. はい	いつ・時間	イ. いいえ
八田小	○	毎朝 8:25~8:35	
白根源小	○	毎週月・火曜日と読書週間(春・秋) 8:25~8:40 15分間	
白根飯野小	○	毎朝 8:25~8:35	
白根東小	○	毎週月曜日と読書週間で(6月・10月)の毎日 8:25~8:40	
白根百田小	○	毎週火・木曜日 8:25~8:40 15分間	
芦安小	○	毎週水曜日 業前15分間	
若草小	○	毎朝 8:25~8:35	
若草南小	○	毎週水・金 8:20~8:30	
小笠原小	○	毎週月~水 始業前 8:20~8:30	
楡形北小	○	月と金曜日の業前 8:30~8:40 10分	
楡形西小	○	月・火・木 業前 10分	
豊小	○	月 業前 10分(読書週間中は毎日)	
落合小	○	毎朝 8:20~8:30 始業前	
大明小	○	毎週火・木曜日と読書週間(春・秋) 8:25~8:35	
南湖小	○	水・木 業前 15分	
子どもの村小			○

問2. 全校一斉の読書活動を実施していない理由は何ですか。

子どもの村小	
--------	--

問3. 学校では読み聞かせをしていますか？実施していれば、いつ・時間・対象学年・実施者数を教えてください。

八田小	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる読み聞かせ 学期に各クラスや学年に1回(年間3回) 朝読書の時間 全学年クラス ボランティア1名 ・図書委員会による読み聞かせ 毎月1回朝読書の時間 1~4年各クラス 図書委員18名 ・縦割り読書による読み聞かせ 学期に1回 朝読書の時間 全校縦割り班ごと 6年生84名(3学期は5年生) ・教職員による読み聞かせ 校内秋の読書月間中 朝読書の時間 全クラス 全職員
白根源小	<p>[定期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生方の読み聞かせ」1・2学期朝の時間15分間、各学年教室、全職員(16名)が実施 ・「図書委員による読み聞かせ」1学期朝の時間15分間、1~3年教室、全図書委員(9名)が実施 ・「雨の日の読み聞かせ」6月梅雨の時期、中休み20分、全図書委員が実施(9名) ・「読書ボランティアききみみずきんさんのおはなし会」学期ごと一校時45分間、各学年、ききみみずきんさんが実施(2名) <p>[不定期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書の時間(国語)、5~15分程度、全学年、担任・司書(1名)が実施 ・道徳授業、45分、1、3年、ききみみずきんさん実施(2名) <p><27年度予定>「縦割り班読み聞かせ」中休み20分間、縦割り班6年班員に読み聞かせ</p>

白根飯野小	[定期]毎月1回(8月を除く)先生方の読み聞かせ各クラス 該当職員が実施 ・每学期 低・中で読み聞かせ(ききみみずきん)
白根東小	職員の読み聞かせ 読書週間中(6・10月)の朝読書の時間 全校 11人 図書委員会の読み聞かせ 読書週間中(6・10月)の中休み 全校 19人 司書の読み聞かせ 図書の時間
白根百田小	職員による読み聞かせ 火曜日の8:25~8:40 15分間 全学年 教務・学担の23人
芦安小	月1~2回、全職員が順番に全校児童に読み聞かせをしている。 司書が図書の時間に行っている
若草小	保護者:2年生10人・水曜日の朝読書時間、1年生は2学期から予定 ボランティアさん:各クラス年に1度(朝読書時間) 図書委員:1,2年生へ火曜日の朝読書時間
若草南小	読み聞かせボランティアに全学年を対象に朝の読書タイムに実施
小笠原小	低学年:朝の読書タイムに先生方が実施、図書委員等による読み聞かせも時々あり 高学年:読書週間等に先生方の読み聞かせを実施 1~4年生朗読ボランティアききみみずきんお話の会によるお話会
楡形北小	・業前の10分間 年13回位 対象は全クラス 読み聞かせボランティア10人と本校職員20人が行きます。 ・クラス担任による読み聞かせ ・図書の時間の司書の読み聞かせ
楡形西小	・6月と10月(2週間ずつ)朝読書の時間に全校児童を対象に教職員14人が実施。 ・週に1日朝読書の時間に、読書ボランティアさん2名が、全校対象に実施。 ・月に1回、読書ボランティアさんと司書がロング休み(30分)にお話会を実施。 ・年に1度、朝読書の時間を使い2・5・6年生が1年生とペアになり実施。 ・1・6年生担任が朝読書の時間、自分の学級に実施 ・2・3年生が国語の授業時間に自分の学級に実施 ・図書の時間に司書が実施
豊小	・6月(2日間)に朝の読書タイム10分間ずつ、全校児童を対象に教職員20人が実施。 ・月1度朝の読書タイム10分間、1~2年生を対象に図書委員10人が実施。 ・読書まつり中(6月4日間、11月4日間)朝の読書タイム10分間、1~4年生を対象に図書委員10人が実施。
落合小	・毎週水曜日 年間通して1,2年生対象によみきかせをしていただいている。(ボランティア) ・1,2学期 低・中・高で読み聞かせ(ききみみずきん) ・図書委員の6年生が週2回 朝の読書の時間に1年生へ ・図書委員の5年生が月2回 朝の読書の時間に2年生へ ・学期に1回 たてわり班ごと朝の読書の時間にペアになった学年へ ・読書月間の10月に3回 朝の読書の時間に各学級で担任でない先生から ・図書の時間の終わりに司書から
大明小	・図書委員会による読み聞かせ 毎週火曜日 1・2年生へ ・司書による読み聞かせ 図書の時間 ・教師による読み聞かせ 朝読書の時間 (読書週間中全クラスへ) ・読書ボランティアさんによる読み聞かせ 木曜日朝8時25分~8時35分(1年~5年) ・たてわり読書 6月に実施(たてわり班6年生による読みきかせ) ・ききみみずきんの方のお話会
南湖小	・図書委員が週1回 1・2年生へ ・6年生が週1回 3年生へ ・ボランティアが学期1~2回 全学年へ ・6年生が月1回 縦割り班で ・担任、司書が業前や授業時間を利用して
子どもの村小	各学年(主に低・中学年)の国語の授業に当たる時間に読み聞かせをおこなっています。実施者数は、各学年・クラスでまちまちですが、10人前後です。

問4. 図書館や校内などでは、読書をすすめるための広報活動を行っていますか？実施していれば、内容を教えてください。

八田小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だより ・縦割り読書(学期に1回) ・家庭読書推進(PTAとして推進) ・読書感想文に向けての課題図書紹介(司書) ・図書委員会がすすめる本を展示 ・図書委員製作のポスター掲示 ・本の紹介掲示(図書室内・廊下など) ・校内読書月間取り組み掲示
白根源小	<p><展示・掲示>図書館内・廊下・階段壁面等にポスター、資料、関連物を飾る。おすすめ本(図書委員・教職員)、教科書掲載本、児童会活動等を展示。</p> <p><紙面>としよだよりの発行</p> <p><校内放送>図書イベントを伝えるために、図書委員が給食時に放送。</p>
白根飯野小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だより(月1回) ・学年ごとの巡回親子読書 ・図書委員会がすすめる本を展示 ・図書委員製作のポスター掲示 ・図書室内での本の紹介掲示
白根東小	<p>図書館だよりの配布・掲示 図書委員会・先生のおすすめの本の掲示</p>
白根百田小	<p>全学年へ図書だよりの配布。 図書委員によるおすすめの本をポップで紹介。</p>
芦安小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行(月1回)・図書室内に本の紹介スペースをとって紹介している。 ・校内の廊下に本の紹介を掲示している。
若草小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だより発行(月1回) ・図書委員会のおすすめの本紹介(ポスターやポップ)
若草南小	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の図書だよりの発行・月ごとのテーマ別おすすめ本の展示・読書週間での児童、先生による本の紹介
小笠原小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行・図書委員、先生方、全校児童によるおすすめの本の紹介、先月人気の本の掲示、月ごとのテーマ別おすすめの本のコーナー作り、新刊をガラスケースにて展示
楡形北小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行(月1回) ・図書委員会のおすすめ本の紹介(年3回) ・図書館内での本の紹介(別置する・案内表示) ・先生方のおすすめ本の紹介(10月の読書週間) ・全校児童の「おすすめ本」の作成
楡形西小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だより ・図書室周辺掲示板への掲示 ・児童のおすすめの本の紹介 ・放送による新刊紹介
豊小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書便り ・図書室廊下の掲示 ・おすすめの本の紹介(教職員・児童)
落合小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だより ・「家読」のすすめを家庭に発行しうちどくを推進している。
大明小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行(月1回) ・図書委員会のおすすめ本の紹介 ・図書館内での本の紹介(別置する・案内表示) ・図書委員会で図書集会等活動を行う
南湖小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だより ・図書委員のおすすめの本 ・読書週間中に全児童、教職員が大好きな本を紹介 ・図書館前の廊下、児童玄関への掲示
子どもの村小	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊は見やすい様に表紙を見せておいています。

問5. 学校では、市立図書館をどのように活用していますか？

八田小	・調べ学習等で必要な資料が学校に足りないときに活用 ・レファレンスを活用
白根源小	・授業(教育課程、調べ学習)、児童会活動等の必要資料を借りる ・図書集会やイベント時、パネルシアターや機具、大型本、紙芝居等を借りる。 ・選書や読み聞かせ、イベント等情報収集、相談
白根飯野小	・調べ学習等で必要な資料が学校に不足しているときに活用
白根東小	家読の取組で使用するための図書資料の相互貸借 調べ学習で使用するための図書資料の相互貸借
白根百田小	調べ学習で使う、資料を借りる時。
芦安小	学校で不足している資料を借りる。
若草小	・調べ学習等で必要な資料が学校にない場合
若草南小	・授業で必要な本が学校の図書室に足りないときに借りに行く・おはなし会で使用するエプロンシアターなどを借りる
小笠原小	調べ学習での不足の資料や、教師の研究会用紙資料を貸し出してもらったり、読み聞かせようにビッグブックをお借りしたり、図書集会用に大型資料をお借りしている
楡形北小	・不足の資料を借り受ける
楡形西小	・使用したい本が学校の図書室にない時に借りに行く ・集会で使用する大型本や人形劇用の人形を借りに行く
豊小	・使用したい本が学校の図書室にない時に借りに行く
落合小	・調べ学習で使用する資料が図書室に不足している場合 ・大型絵本を授業に活用する場合 ・平行読書に利用する本を用意する場合
大明小	・調べ学習に必要な資料の貸借 ・司書の方へレファレンス等の相談 ・大型本を使用するときに活用 ・図書集会で使用するパネルや機材の借り入れ。 ・授業等で必要な資料を借りる
南湖小	資料の借り入れ
子どもの村小	修学旅行や各クラスのプロジェクト(活動内容)にあった調べ物をする為にその資料集めに活用させて頂いています。

問6. 日頃、学校図書館を利用してもらうためにどのような事を実施していますか？

八田小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行 ・図書の展示 ・図書委員による呼びかけや読み聞かせ ・一定数本をかりた子へのプラス1冊券配布
白根源小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりの発行・展示・掲示の工夫(児童・図書委員の掲載も心がける) ・イベント実施(春秋読書週間、特別日設定“ラッキーデー”“金曜日3冊貸し出し”) ・教職員・読書ボランティアによる読み聞かせ ・季節・イベント、学校行事にあわせた展示 ・予約リクエストの活用 ・図書の時間、展示本の紹介を行う。
白根飯野小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりの発行 ・図書館内の展示・掲示 ・年2回の読書週間 ・教職員・読書ボランティアによる読み聞かせ ・季節・イベント、学校行事にあわせた展示 ・予約リクエストの活用 ・おすすめの本リストをつかったプレゼントがもらえるスタンプラリー
白根東小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりで新刊情報を掲載 ・読書週間の取り組みで、プラス券やしおりを配布
白根百田小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの配布 ・図書の時間、司書による読み聞かせ、本の紹介 ・図書委員による読み聞かせ、本の紹介。 ・職員による読み聞かせ、本の紹介。
芦安小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行・図書集会・図書委員会の児童による呼びかけ ・図書委員会の児童による読み聞かせ
若草小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行 ・図書集会 ・一定数借りた子へのプラス1冊券配布 ・すいせん図書の取り組み
若草南小	<ul style="list-style-type: none"> ・読書ゆうびん・としょかんクイズ・学年別おすすめの本(全部読み終わるとパーフェクト賞として表彰)・多読賞(各クラスで借りた本が多かった上位3名を表彰)・新聞トップニュース(毎日小学生新聞の記事から図書委員がひとつ選び、その中から教師が問題を出してお昼に放送する)
小笠原小	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりの発行・図書集会・掲示展示・スタンプラリーなど楽しい企画、休み前の3冊貸し出し、時々手作りしおりの配布・各学年おすすめの本を読破すると賞状とごほうびチケット・年間100冊以上には冊数に応じたバッジと賞状
楡形北小	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん利用した児童にプラス1冊券やしおりをプレゼントする ・「じゃんけんデー」の実施(休み時間に本を借りた人が、図書委員とじゃんけんをして勝つとプラス1冊券がもらえる)
楡形西小	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動
豊小	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい本の紹介(図書便りで) ・プラス1冊券の配布 ・しおり作り
落合小	<ul style="list-style-type: none"> ・もう1冊借りられるプラスカードやしおりの配布 ・休み時間には借りられる冊数が増す
大明小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの発行 ・図書集会 ・縦割り読書 ・親子読書 ・おすすめ本の紹介 ・図書館環境の整備 ・授業中の読み聞かせ・ブックトーク・ビンゴカードの取り組み
南湖小	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動 ・図書だよりの発行 ・縦割り読書 ・親子読書 ・必読図書の設定 ・学年、個人で読書の目標の設定
子どもの村小	<ul style="list-style-type: none"> ・特にしていません。

問7. 「子ども読書の日」や「子ども読書週間」また「読書週間」に実施している取り組みがあったら教えてください。

八田小	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書週間 図書だよりで「子ども読書の日」について紹介。 家族で読んだ本の紹介をする「読書こいのぼり」等家庭でも一緒に取組を行う。 ・読書週間(校内読書月間) 貸出冊数を増やす 教職員による読み聞かせ 家庭読書への取組 図書委員からの読書クイズ しおり券やプラス券をプレゼント
白根源小	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間中3冊貸出 ・特別イベント(しおりプレゼント、図書クイズ、スタンプカード等) ・教職員による読み聞かせとその本のおすすめカード展示 図書集会
白根飯野小	<ul style="list-style-type: none"> 「こどもの日」の活動 図書だよりで「子ども読書の日」について紹介。 「読書週間」 ・図書集会 ・図書委員による本の紹介 ・6月の読書週間ではスタンプラリーの開始 ・6月の読書週間では親子読書の開始
白根東小	読書でビンゴ・読書すごろく・家読・職員や図書委員会の読み聞かせと本の紹介
白根百田小	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員によるパネルシアター、ブック・トーク、アニメーション、ペープサート、給食時の放送発表。 ・読書週間に休み時間に本を借りると、プラス1冊券やしおりがもらえる券などが引けるくじ引きを行う。 ・自分で本を探す読書ビンゴ
芦安小	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に読書週間を行う(図書集会 ・ポイントカード ・くじ引き・貸し出し冊数を増やす ・全校児童のオススメの本の展示
若草小	・10月に読書週間を行う(図書集会、読書ビンゴ、くじ引き等のイベント)
若草南小	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ(図書委員、ボランティア、教師) ・図書集会 ・3冊貸出(通常2冊) ・福引 ・しおりの配布
小笠原小	図書委員、先生方によるおすすめの本の紹介、読み聞かせ、全児童の友達にすすめたい本紹介、図書集会、スタンプラリー、親子読書の実施、3冊かしたし、しおり配布
櫛形北小	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間中は、毎日業前に朝読書をする ・本を借りた子には、冊数によってビンゴやくじなどをしてプラス1冊券がもらえる ・さし絵コンクール、シルエットクイズの実施 ・先生方や図書委員のおすすめ本の紹介
櫛形西小	・6月、10月に校内読書週間を実施(読書ビンゴ・おすすめの本・読書パズル・図書集会など) ・「子ども読書の日」にペア読書とプラス1冊貸し出しを実施
豊小	・6月、11月に読書まつりを実施
落合小	・こどもの読書週間と10月に読書月間を実施
大明小	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数の増冊 ・ビンゴカード ・図書委員による集会 ・たてわり読書 ・おすすめ本の紹介 ・全教師参加の読み聞かせ
南湖小	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書週間を設定し、貸出冊数を増やす、図書委員のテレビ放送、たくさん読んだ子へ プラス1冊券やしおりプレゼント
子どもの村小	

問8. 司書教諭の持時数は1週間にどれくらいですか？また、そのうち図書に関係する持時数も教えてください。()で記入。

八田小	26時間(1)
白根源小	12学級以下なので、司書教諭は発令されていない
白根飯野小	27時間 (0)
白根東小	25時間(0)
白根百田小	29時間(1)
芦安小	12学級以下なので、司書教諭は発令されていない
若草小	28時間(0)
若草南小	26時間(0)
小笠原小	25時間(1)
櫛形北小	27時間 (0)
櫛形西小	発令されていない
豊小	発令されていない
落合小	発令されていない
大明小	26時間(1)
南湖小	発令されていない
子どもの村小	

問9. 司書教諭の現状と課題などを教えてください。

八田小	学習に必要な資料検索の時間が現実、十分に確保できない中、学校司書の働きで学習が充実している。南アルプス市各校1名の学校司書が配置されていてとてもありがたく思う。
白根源小	
白根飯野小	担任をしていると他学級の授業に関わる時間が確保できない。司書がいることで授業に関わることができる。
白根東小	司書教諭が発令されているが、校務分掌上、図書館主任として配置されていないので、図書館活動に参加してもらうことが困難な状況にある。
白根百田小	担任をしているので、司書教諭としての時間を確保するのが非常に困難。また公務分掌上、図書館主任として配置されていないので、図書の活動に参加するのも難しい所がある。
芦安小	
若草小	
若草南小	
小笠原小	担任をしているので司書教諭としての仕事はできていない。
櫛形北小	
櫛形西小	
豊小	
落合小	
大明小	学級担任と司書教諭を兼務しているので、あまり関わる事ができない。司書がいることで図書館の運営ができる。
南湖小	
子どもの村小	

問10. 選書は、誰がどのように行っていますか？

八田小	・司書が教職員と児童の要望を聞いて選書する。
白根源小	・教職員・児童からのリクエストを随時受け、司書が図書館主任に相談し選書を行う。 ・教育課程の必要に応じて、または相互貸借で使い勝手のよい本、外部講師やおすすめ本を参考に選書を行う。
白根飯野小	・教職員・児童からのリクエストや、希望を受けて司書が図書館主任に相談し選書を行う。
白根東小	・教職員・児童の購入希望をとり、図書館主任と相談しながら、主に司書が行っている。
白根百田小	・先生方や児童から要望を聞いたり、希望アンケート出したり、調べ学習の様子を見ながら司書が選書を行っている。
芦安小	・司書が職員と児童の要望を聞いて選書する。
若草小	・司書が教職員の要望と児童の要望を聞いて選書する。
若草南小	・学校司書が教師と児童の希望を聞いて選書している
小笠原小	・教師や児童からのリクエストも聞きつつ、学校司書が選書をしている
櫛形北小	・先生方や児童から本のリクエストを聞き、主に司書が選書をしている
櫛形西小	・司書が教職員の要望と児童の要望を聞いて選書する。
豊小	・司書が教職員の要望と児童の要望を聞いて選書する。
落合小	・司書が教職員と児童の要望を聞いて選書している。
大明小	・教職員や児童の希望を受け司書が行う。
南湖小	・司書が教職員の要望と児童の要望を聞いて選書する。
子どもの村小	・教員全員で購入図書について検討し、選書している。

問11. 子どもの読書活動の推進について意見・要望をお聞かせください。

八田小	
白根源小	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭読書が推進されるためにおたよりなど保護者に向けても広報活動を行い、担任との連携を強める。 ・他の図書館との連携(県立・市内市外) ・図書・資料・道具類など貸し出し期間の延長を柔軟に対応していただけるとありがたい。
白根飯野小	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、司書教諭が学校の読書活動に対して活動を企画することなどで関わり、司書と連携して実施を行なっている。司書が配置されていてありがたく思う。 ・司書教諭がより読書活動に関われるよう、持ち時間数を減らすなど配慮があるといい。
白根東小	
白根百田小	
芦安小	
若草小	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達への読書推進は、学校や家庭、地域子どもに関わるすべての環境で、これからも行っていくのが良いと思います。身近に本を読む大人や環境が不可欠ですね。
若草南小	
小笠原小	専任の学校司書がこれからもぜひ必要である。司書教諭も持ち時数を減らし、学校全体の読書活動にもっとかかわれるようなことができるように配慮が欲しい
櫛形北小	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の身近に本があり、そして、子ども達のまわりには読み聞かせ等を行う大人がいるという今の環境をこれからも継続して行ってほしい。 ・子どもの読書には、ひとりひとりに大きな差がある。それは、保護者の意識によるものと思われる。保護者の読書に対する考え方を高めるための方策を考える必要があると思う。
櫛形西小	・これからもブックスタートなどご家庭への推進を続けていただきたいと思います。
豊小	・児童・生徒にわかりやすく、いろいろな本を紹介していくといいと思う。
落合小	・読書活動の推進には、学校図書館と教諭の果たす役割が大きいと感ずる。本の楽しさを広げ、知ってもらう為に学校図書館へ通うきっかけを作る努力をお互いにしていく必要があると思う。
大明小	
南湖小	・本校では、様々な活動をとおして読書の推進を行っている。今後も継続していきたい。
子どもの村小	

市内読書施設に関するアンケート調査(中学校)

問1. 朝の読書タイムなど全校一斉の読書活動を実施していますか？実施していれば、いつ・時間はどのくらいですか。

	ア. はい	いつ・時間	イ. いいえ
八田中	○	年に2回(1学期、2学期に、2週間程度) 朝8時25分から10分間	
白根巨摩中	○	通年 10分間	
白根御勅使中	○	通年 10分間	
芦安中	○	通年 10分間	
若草中	○	通年 8時25分から10分間	
櫛形中	○	通年 10分間	
甲西中	○	通年 10分間(火～水)	
子どもの村中			○

問2. 全校一斉の読書活動を実施していない理由は何ですか。

子どもの村中	特になし
--------	------

問3. 学校では読み聞かせをしていますか？実施していれば、いつ・時間・対象学年・実施者数を教えてください。

八田中	
白根巨摩中	・朗読会 年2回20分 自由参加 ・読書集会 年1回50分 全校
白根御勅使中	特に実施していないが、1年生オリエンテーション時や、一斉読書時に必要に応じて行っている。
芦安中	特に実施していない
若草中	校内読書週間(11月・朝読書の時間)時、全クラスに教師(15名)による読み聞かせを実施
櫛形中	各教科担当や、担任の判断で授業等で行っている。
甲西中	一斉読書時に、担任の判断で実施
子どもの村中	

問4. 図書館や校内などでは、読書をすすめるための広報活動を行っていますか？実施していれば、内容を教えてください。

八田中	司書、図書委員会で発行している図書だよりの中で紹介している
白根巨摩中	・図書だよりの発行 ・読書集会の実施 ・図書委員会(朝読チェック・朗読会運営・おすすめ本紹介など) ・読書文芸美術部(本の紹介カードの作成・展示) ・新着図書ポスターの掲示 ・放送等で図書館イベントの呼びかけ
白根御勅使中	・図書館だよりの発行 ・学期ごとの一斉読書の実施 ・夏／冬休み前の特別貸出 ・図書委員会と教師による本の紹介(学園祭で展示) ・新刊やジャンルごとのおすすめの本の紹介掲示
芦安中	・図書館内の掲示物・図書だよりの発行
若草中	・図書だよりの発行 ・図書委員会(おすすめ本紹介、ポスター作り)・先生や部長のおすすめの本紹介
櫛形中	・図書便りの発行・新刊本の紹介コーナー・特設展示コーナーで話題本など展示・読書週間企画・図書委員によるおすすめの本の掲示物。
甲西中	学習・資料センターからたよりとして注日本や受験に関する本を紹介している。また、図書委員会の活動として、「おすすめの一冊」を紹介している。
子どもの村中	・本のリクエストの募集 ・おすすめの本の掲示

問5. 学校では、市立図書館をどのように活用していますか？

八田中	各教科の授業内容に応じて、主に調べ学習の資料などを、随時かりる対応をしている
白根巨摩中	・授業で使用する資料や自校に所蔵のない資料の借受 ・職場体験
白根御勅使中	・授業などで必要とする資料の貸出を依頼して活用 ・職場体験
芦安中	特に活用していない
若草中	・授業で使用する資料や自校に所蔵のない資料の借受 ・職場体験
櫛形中	・授業や、学校の活動に必要な本を借りる・職場体験
甲西中	・調べ学習で必要な資料が不足している時など、司書が借り入れてくれている。
子どもの村中	・調べ物のため ・教材研究のため

問6. 日頃、学校図書館を利用してもらうためにどのような事を実施していますか？

八田中	図書だよりや展示の工夫、図書委員会の活動を通しての呼びかけ
白根巨摩中	・テーマ展示 ・季節の展示 ・総合・調べ学習などで使用する資料の収集や利用時の支援
白根御勅使中	・テーマ、季節に合った資料の展示、紹介、広報・学級文庫の設置(毎月入替)
芦安中	国語の授業でおすすめの本について話をしたりする。
若草中	・テーマや季節の展示 ・総合や調べ学習などで使用する資料の収集や利用時の支援・図書だよりの発行・学級文庫の設置・図書委員からの呼び掛け
櫛形中	司書による図書館の本の展示の工夫や、広報
甲西中	生徒にはたよりや授業等ですすめているが、教師に対してはなかなかできていない。
子どもの村中	・本のリクエストの募集 ・おすすめの本の掲示

問7. 「子ども読書の日」や「子ども読書週間」また「読書週間」に実施している取り組みがあったら教えてください。

八田中	朝読書を中心とした読書週間を年に2回実施(1学期、2学期にそれぞれ2週間程度)
白根巨摩中	・読書マラソン ・おすすめ本の紹介 ・オリジナルしおりのプレゼント ・貸出+1冊券プレゼント ・読書集会(読書週間中に全校集会として実施)
白根御勅使中	・貸出冊数を増やす ・学校独自のおすすめの本の紹介 ・しおりのプレゼント
芦安中	特に実施していません
若草中	貸出冊数を増やす・教師の読み聞かせ・しおりやブックカバーの配布・多読賞表彰
櫛形中	個人への貸し出し冊数を増やす
甲西中	・貸出冊数を増やす ・しおりやブックカバーのプレゼント
子どもの村中	

問8. 司書教諭の持時数は1週間にどれくらいですか？また、そのうち図書に関する持時数も教えてください。()で記入。

八田中	
白根巨摩中	10時間 (0)
白根御勅使中	司書教諭の配置なし
芦安中	司書教諭の配置なし
若草中	20時間 (0)
櫛形中	23、4時間(0)
甲西中	20時間 (0)
子どもの村中	

問9. 司書教諭の現状と課題などを教えてください。

八田中	
白根巨摩中	今年度は司書教諭が不登校担当になり、持時数が少ないが例年は20時間以上入る為司書教諭としての仕事時間が確保しにくい。
白根御勅使中	司書教諭の配置なし
芦安中	司書教諭の配置なし
若草中	現状としては司書がいるので時間数の減はない。司書と協力して運営することが出来ている。
櫛形中	学級・教科・部活動で手一杯で司書教諭としての役割を果たすことができない。図書館運営ができるのは学校司書のおかげであり、非常にありがたい
甲西中	実際には、一斉読書の選書に関わるくらいが精一杯である。
子どもの村中	

問10. 選書は、誰がどのように行っていますか？

八田中	教職員や生徒からの要望に応じながら、司書が行う
白根巨摩中	教職員、生徒へ購入希望調査をとった上で司書が行う
白根御勅使中	教職員、生徒の要望に沿って司書が行っている
芦安中	職員や生徒の要望に応じながら司書が行う
若草中	教職員、生徒の要望に沿って司書が行っている
橿形中	教職員や生徒からの希望を受け、司書が行う
甲西中	教職員や生徒からの希望を受け、司書が行っている
子どもの村中	全教員が授業に必要なもの、中学生におすすめの本を選書している

問11. 子どもの読書活動の推進について意見・要望をお聞かせください。

八田中	「家読」などの家庭での読書、家族を巻き込んだ読書活動を行っていただけるとよいのではないかと思います
白根巨摩中	司書の先生が様々な活動を企画してくださるのとてもありがたいです。一方で、全ての教員が読書活動に対して(朝読書など)高い意識をもてるように管理職への働きかけなどをしていただけると助かります。
白根御勅使中	子ども達や大人にとっても、本や図書館が身近な存在として感じてもらえるようにしていくことが大切。また、市内の子ども達に、よる充実した資料提供ができるように、これからは公共図書館と学校図書館との連携を密接にしてほしい。
芦安中	中学生というひとくりにしてしまうのではなく、中学1年生だからこそ読んでもらいたい本というふうに、学年ごとに読んでもらいたい本をまとめれば、学校としても生徒に本をすすめやすくなると思う。
若草中	
橿形中	公共図書館と学校が連携するとともに、学校や家庭で大人が本に親しむ姿を、子どもたちに見せていきたい。
甲西中	読書離れが叫ばれる中、難しい時代であると思う。しかし、環境を整えば(一斉読書・朝読書等)子どもたちは少なくとも活字にふれることができる。家庭での読書の推進が課題であると考えます。
子どもの村中	

市内読書施設に関するアンケート調査(高等学校)

問1. 朝の読書タイムなど全校一斉の読書活動を実施していますか？実施していれば、いつ・時間はどのくらいですか。

	ア. はい	いつ・時間	イ. いいえ
巨摩高等学校	○	朝 10分	
白根高等学校	○	月～金 10分	

問2. 全校一斉の読書活動を実施していない理由は何ですか。

(2校とも行っている)

問3. 学校では読み聞かせをしていますか？実施していれば、いつ・時間・対象学年・実施者数を教えてください。

巨摩高等学校	実施していない
白根高等学校	

問4. 図書館や校内などでは、読書をすすめるための広報活動を行っていますか？実施していれば、内容を教えてください。

巨摩高等学校	・図書館報の発行 ・新着図書案内の発行 ・図書委員会通信の発行
白根高等学校	・月刊図書だより(新着図書、話題本、展示資料の紹介)

問5. 学校では、市立図書館をどのように活用していますか？

巨摩高等学校	・資料の貸借
白根高等学校	・相互貸借(主に貸借)

問6. 日頃、学校図書館を利用してもらうためにどのような事を実施していますか？

巨摩高等学校	・新入生オリエンテーションの実施 ・時宜に応じた展示
白根高等学校	・広報活動 ・展示(毎月) ・オリエンテーション

問7. 「子ども読書の日」や「子ども読書週間」また「読書週間」に実施している取り組みがあったら教えてください。

巨摩高等学校	読書週間にちなみ「読書月間」を実施。(図書委員会の活動、ポスター・ポップの作成)
白根高等学校	「私の一冊」・・・おすすめのPOPを作成、全生徒、全職員の作品を一斉に展示する。

問8. 司書教諭の持時数は1週間にどれくらいですか？また、そのうち図書に関係する持時数も教えてください。()で記入。

巨摩高等学校	18時間(1)
白根高等学校	

問9. 司書教諭の現状と課題などを教えてください。

巨摩高等学校	ルーティンワークがあるわけではないので、存在意識を示すのがむずかしい。現状では、リファレンスの部分にかかわろうと心がけている。
白根高等学校	

問10. 選書は、誰がどのように行っていますか？

巨摩高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館資料選定基準」に基づき、司書が選書。 ・生徒や教員への購入希望調査を実施し、選定に反映。
白根高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・司書、図書館主任 ・先生方(『新刊全点案内』(TRC)を回覧)

問11. 子どもの読書活動の推進について意見・要望をお聞かせください。

巨摩高等学校	
白根高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中・高の学校図書館の連携、公共図書館との連携を図るような取組ができたと思っています。今後ともよろしく願い致します。

施設を対象とした今回のアンケート調査では、小・中学校に市内の高校も加えて実施した。アンケートの結果をしてみると、全校一斉読書は、小学校15校・中学校7校・高等学校2校とほとんどの学校で行われている。市内の子ども達は、小学校1年生から高等学校3年生までの期間において、継続して一斉読書を行なってきたことになる。また、5年前のアンケート時にもすでに一斉読書が実施されており、それぞれの学校で取り組みが定着していることがわかる。朝の読書は、「静かな環境で落ち着いた1日がスタートできる」と教師や児童生徒に好評である。また、全ての小学校で読み聞かせを行っており、中学校でも実施しているところがある。さらに司書や図書館主任・司書教諭を中心に読書週間等にさまざまな催しを行っており、学校ごとの工夫が見られる。学校図書館と公共図書館、また、家庭との連携をしながら南アルプス市の子ども達に読書を推進していきたい。

市内読書施設に関するアンケート調査(保育所・各園)

問1. お話の時間(読み聞かせ)を実施していますか? 実施していれば、だれが・いつ・時間はどのくらいですか?

※市内全ての各園・保育所でお話の時間を実施している。(100%)

	いつ	だれが	時間
八田保育所	一斉保育中・午睡時 室内遊び中 等	①保育士 ②おはなしの会講師 (齊藤順子先生)	①5～15分 ②各年令 30分
巨摩保育所	活動のあい間・お昼寝の前	担任の保育士	10～15分
白根東保育所	毎日(食事前・午睡前・降所時など)	保育士	5～10分(1冊につき)
百田保育所	午睡前・早遅番時・行事の時 等	保育士	10～15分
白根保育所	午睡前	担任	10分程度
若草保育所	午睡前	保育士(担任)	10～15分
たちばな保育園	午睡前・降園前	各クラス担任	年齢により異なるが計20～30分程度
十日市場保育園	お昼寝前・お帰りの時間	担任	15分
櫛形中央保育所	数年前から	石田先生	10:00～11:00
櫛形北保育所	毎日	担任	午前中活動前 食事の前 など
櫛形西保育所	昼寝前・おやつ後	保育士	10～15分
豊保育所	午睡前	保育士	15～20分
さくらんぼ保育園	保育時間中の様々な場面で	クラス担任	10分以内くらい
落合保育所	①お昼寝前 ②月に1度	①各クラス担任 ②ボランティアの方	①年齢に合わせた時間 ②30分～1時間
大明保育所	午睡前・遅番の時間・ 他、保育中いつでも	保育士・看護師・主任	15分～30分
ポップの家	午睡前・朝や夕方・ 子ども達が希望した時	保育士	15～20分位
南湖保育所	毎月1回	元小学校校長で 一坪文庫の館長	AM10:00～10:40
小笠原幼稚園	帰前 又は 預かり	担任の先生	3～5分
みだい幼稚園	朝・帰りの前など	担任	10分位
バンビバイリンガル 幼稚園	朝の会・帰りの会	担任	各10分位
マコト愛児園	午睡の前	保育教諭	10分

問2. 図書室や図書コーナーはありますか。あれば、名称、広さ、蔵書数、児童への貸出等記入してください。

※市内ほとんどの各園・保育所で図書コーナーを設けている。(95%)

	ある○ ない×	名称	広さ	蔵書数	児童への貸出	
					ある	ない
八田保育所	○	ワクワクおはなし文庫	11㎡	433冊	○	
巨摩保育所	○	わくわくおはなし文庫	16㎡	383冊	○	
白根東保育所	○	わくわくお話文庫	約2mほどの本棚のみ	550冊	○	
百田保育所	○	わくわくとしょぶんこ	20畳	600冊	○	
白根保育所	○	わくわく文庫	4㎡		○	
若草保育所	○	絵本コーナー	5㎡	300冊	○	
たちばな保育園	○	なし	本棚 横3m×1列、 横2m×2段	400冊	○	
十日市場保育園	○	絵本コーナー				○
楡形中央保育所	○	ワクワク文庫		200冊	○	
楡形北保育所	○	絵本コーナー	4㎡	330冊	○	
楡形西保育所	○	図書コーナー	3.2㎡	約700冊	○	
豊保育所	○	わくわく文庫		50冊		○
さくらんぼ保育園	○	図書コーナー	約6㎡	173冊	○	
落合保育所	○	ワクワク文庫	1.8㎡	約327冊	○	
大明保育所	○	ワクワク文庫	大体6畳くらい	1,053冊		○
ポッポの家	○			1,600冊		○
南湖保育所	○	ワクワク文庫	64.43㎡	418冊	○	
小笠原幼稚園	○	各教室の本棚	三段ボックス	50~100冊		○
みだい幼稚園	×					
バンビバイリンガル 幼稚園	○	Library	10.5㎡	1,200冊	○	
マコト愛児園	○	各教室・職員室に設置 (移動できる本棚あり)		200冊		○

67% 29%

問3. 市立図書館をどのように活用していますか？

八田保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の貸出サービス(毎月入れ替えをしてくれます) ・出前おはなし会(おはなし広場) ・散歩で行って絵本を読んでいただいたり、おはなし会に参加
巨摩保育所	桃源図書館から毎月本の貸し出しをして受けています。季節に合った本や紙芝居を持ってきてくれるので助かっています。先生が読み聞かせに使っています。
白根東保育所	毎月絵本の入れ替えをしてもらい、利用させてもらっている。時期や行事に合った絵本を探したい時など、借りに行っている。
百田保育所	園の行事に使用したいときに保育士が借りに行く。遠足で雨天の場合等に利用させていただいています。
白根保育所	読み聞かせ(年1回) 絵本貸し出し(毎月)
若草保育所	時々、行事や集会の際に大型紙芝居をお借りしています
たちばな保育園	毎月30冊ずつ貸し出しをもらい、児童への読み聞かせや家庭への貸し出しをしている。
十日市場保育園	毎月、図書館からお借りしている本や、担任が図書館からお借りした本等を各クラスのブックスタンドに入れて、子ども達が自由に読んでいます。
楡形中央保育所	ペーパーサートやエプロンシアターなど借用し、誕生会などで活用しています。大型絵本や紙芝居も借用しています。
楡形北保育所	毎月1回 図書の入れ替えあり
楡形西保育所	月1回 楡形図書館で本の入れ替えをしてくれます。
豊保育所	1ヶ月ごと保育所への貸し出しを利用 子ども達も楽しみにしています
さくらんぼ保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が絵本を借りたり(読み聞かせのために)以上児クラスでの昆虫、ザリガニ等の飼育のための知識を得るため。 ・5才児クラスでは、散歩先の目的地を図書館にして、本を借りにいっている。
落合保育所	毎月 何冊かお借りしている。
大明保育所	甲西へはクラスでそれぞれおじゃまして、たくさん借りています。ありがたいです。木曜日のおはなし会にも、おじゃましています。
ポッポの家	行事の時など本や紙芝居を借りたり、甲西図書館の方が2週間に一度本を届けてくださったり、とてもありがたいです。4. 5歳児は甲西図書館に散歩で出掛け、好きな本を読み、ゆったりとした時間を過ごして帰ってくることもあり、どの子も図書館が好きなようで嬉しそうです。
南湖保育所	毎月30冊くらい、絵本や紙芝居を借りてきて、保育士が午睡前や降所前などに読んであげたり、年長児は自分で見たり、読んだりしている。
小笠原幼稚園	家庭での利用
みだい幼稚園	園行事(お誕生会など)の時に大型紙芝居を借りたり、普段の保育での読み聞かせをする図書を借りたりしている。
パンピバイリンガル幼稚園	公共の場でのふるまい、マナーを学ぶ場
マコト愛児園	本を月ごとに借りている。本の読み聞かせをお願いしている。

問4. 「子ども読書の日」や「子ども読書週間」また「読書週間」に実施している取り組みがあったら教えてください。

八田保育所	パンフレットや案内の掲示、おすすめ絵本の紹介 等
巨摩保育所	わくわく文庫の本をクラスごと順番に貸し出しを行い、家に持って帰って家族で見る。年3回「わくわく文庫通信」を発行し、保護者に配布したり、園内に貼り出したりして読書の楽しさを伝えている。
白根東保育所	読書の日や読書週間は特に行っていない
百田保育所	ききみみずきんおはなしの会(年3回)・図書館出前講座
白根保育所	誕生日や行事に合わせ、パネルシアター・ペープサート等、実施している。
若草保育所	年間を通し、各年齢、月1回程のペースで絵本の貸し出し(1人2冊)を実施している。
たちばな保育園	ポスター掲示 その日その週間の特別な取組はしていない
十日市場保育園	
櫛形中央保育所	チラシを保護者向けに配布したり、掲示をする。子ども達におすすめの本を紹介する。
櫛形北保育所	特になし
櫛形西保育所	給食を食べ終わった後に待っている時は、絵本タイムを取っています。
豊保育所	特になし
さくらんぼ保育園	特になし
落合保育所	特になし
大明保育所	
ポッポの家	
南湖保育所	なし
小笠原幼稚園	特になし
みだい幼稚園	
バンビバイリンガル幼稚園	
マコト愛児園	特になし

問5. 子どもの読書活動の推進について意見・要望をお聞かせください。

八田保育所	子ども達は絵本が大好きです。できるだけたくさんの良い本に出会ってほしいと願っています。保育所と図書館の連携を深めていく事は、とても良い事だと思います。親子で図書館を利用している家庭も多いようで嬉しく思います。また、保育所に毎月絵本を届けて頂けるのはとても有り難い事で、絵本の世界が広がっています。これからもよろしく願い致します。
巨摩保育所	最近学生の読書時間が短くなっていることをニュース等で聞いています。小さい頃から本に親しみ、読書の楽しさを体験できる環境が必要だと思います。保育所の蔵書は限られているので、図書館の本を定期的に利用できるのは、とてもありがたいので継続してほしいです。
白根東保育所	・親がもっと読書への関心を深め、未満児の小さい時期から読み聞かせ等をする事がとても大切だと思う。絵本を読む習慣や環境をもっと親がつくってあげると良いのですが…。
百田保育所	絵本は子どもにとって、とても良い教材だということをわかってもらえるよう、保育所の図書や図書だよりを通じ知らせるようにしていますが、なかなか周知できないのが現実です。いろいろな場面で絵本が大切であることを知らせていくことが大事だと思います。絵本の絵がとてもきれいに印刷されているので、値段が高いのはわかりますが、もう少し手頃だと保護者も手にしやすくなるのではないかと思います。
白根保育所	

若草保育所	
たちばな保育園	
十日市場保育園	
櫛形中央保育所	出前のおはなし会の実施などがあつたら利用してみたいです。
櫛形北保育所	子どもが好みそうな本を職員が読み聞かせすると、その本を帰りに借りていき、お母さんに読んでもらう・・・そんな会話・光景がよく見られます。今以上に「良い本」「読んで欲しい本」等が、保護者にもよく伝わる方法(本紹介の印刷物等)があればと思います。
櫛形西保育所	毎日読み聞かせることで習慣付いて、お話を聞く時間は集中して聞く、というのは身につけてきたように思います。
豊保育所	図書の貸し出しのおかげで子ども達に色々な本を紹介できて嬉しく思います。今後も続けてよろしくお願いします。
さくらんぼ保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所同士でよい絵本を紹介あつたり、子どもにどんな絵本を見せたいか職員会議等で意見を出し合う機会を大切にしている。まずは大人が子どもと絵本をつなぐ役目を持つので、子どもにとってどんな本が良いのか、どんな作品と出会わせたいのかを十分に学び、“大人がよい絵本に出会える機会”をつくるのが大切だと思う。保護者にも良い絵本を紹介し貸し出している。 ・いつでも気軽に絵本を手にとれる環境を大切にしつつ、本の扱い方も知らせていけるように、保育者と保護者とで、子どもの身近に絵本があるよう心がけている。 ・クラス便り等でクラスからおすすめの絵本紹介をして、保護者に関心を持ってもらえる工夫をしている。
落合保育所	子ども達は、みんな絵本が好きで保育士と一緒に読んだり見たりすることを楽しんでいます。また、月に一度きてくださるボランティアの方にも年齢やその季節に合った絵本を読んでもらう、おだやかなゆったりとした時間を過ごせていることを感じます。
大明保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が絵本について興味関心をもつ。→絵本作家の講演など研修に出向く。 ・将来の学校の勉強のために絵本をみる・・・という保護者の考え方を少しずつ変えていく取り組みをしていく。子どもをとおして。 ・保育所の所蔵だけでなく、保育士が自分で好きな作家の作品を購入し、子ども達に紹介する。 ・絵本屋さんのブッククラブの年間購読などを通して、いろいろなジャンルの作品にふれる。→子ども達に紹介していく。
ポッポの家	園に出向いて貸し出しをしてくださり、とてもありがたいです。いつも季節や行事に合ったセレクトをしていただき、子ども達も新しく本が届くと新鮮でうれしそうです。ありがとうございます。
南湖保育所	落ち着きのない子が多くなっているの、なるべく集中できる機会を作っています。騒いでいた子ども達も、お話や紙芝居が始まると静に見たり聞いたりしています。家への持ち帰りも、そういう時間を親子で作ってもらっていると思っています。良い本をたくさん揃えてほしいです。
小笠原幼稚園	絵本や紙芝居での読み聞かせは大切だと思います。その為、幼稚園でもできる限り時間を作るようにしています。また、家庭でも読めるよう、毎月1冊絵本を持ち帰っています。
みだい幼稚園	読書を通して、様々な興味につながったり、イメージが広がったりするので、とても大切なことだと思う。自分で読むことによって、文字への興味へもつながっている。保育所だけでなく、外部の方(専門の方など)が読み聞かせをしてくれる機会があつたら、良い経験になると思う。
バンビバイリンガル幼稚園	
マコト愛児園	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から文字に興味を持てるような働きかけを行っている。 ・毎日読み聞かせを行い、本に興味を持つ子どもが増えている。 ・職員以外の方が「本の読み聞かせ」を行うのは新鮮で、この活動を継続して行ってほしい。 ・毎月の本の貸し出しもとてもありがたく思っています。今後もよろしくお願いします。

市内読書施設に関するアンケート調査(児童館)

問1. お話の時間(読み聞かせ)を実施していますか? 実施していれば、だれが・いつ・時間はどのくらいですか?

施設名	いつ	だれが	時間
青少年児童センター	おはなし会・幼児教室・カフェ	児童厚生員	平日の午前中(11:00~11:15)
若草なかよし児童館	毎月2~3回 (幼児教室、なかよしカフェ)	児童厚生員	15~20分程度
おおケヤキ児童館	毎月2~3回	児童館職員	15~30分程度
八田児童館	ひだまりサロン	児童館職員	10~15分
白根児童館	幼児教室(2歳児クラス)	児童館職員	5分程度(絵本1~2冊)
甲西児童館	幼児教室・カフェお話し会	児童館職員	10~15分程度

問2. 図書室や図書コーナーはありますか。あれば、名称、広さ、蔵書数、児童への貸出等記入してください。

	名称	広さ	蔵書数	児童への貸出
青少年児童センター	図書コーナー (幼児室の一角)			ない
若草なかよし館	図書コーナー	54㎡	200冊	ない
おおケヤキ児童館	図書室	約25㎡	約350冊	ない
八田児童館	図書室	56㎡	966冊	ない
白根児童館	①図書コーナー ②乳児室		①約1,000冊 ②約120冊	ない
甲西児童館	図書コーナー	39.47㎡	353冊	ない

問3. 市立図書館をどのように活用していますか?

青少年児童センター	・毎月 定期的な団体貸し出し ・幼児教室での出前講座(読み聞かせ)
若草なかよし館	・児童館での工作の調べ物
おおケヤキ児童館	・行事内での出前講座 ・月1度 団体貸し出し利用(20冊)
八田児童館	・毎月定期的に本の入れ替えをしていただいている。 ・年に数回幼児教室の時に絵本の読み聞かせ、手遊び、手袋人形などの出し物。
白根児童館	・毎月50冊の団体貸出 ・月1回「おはなし会012」を児童館の一室で実施している
甲西児童館	・年1回幼児教室で図書館出前講座(お話会)の実施 ・毎月 図書館からの本の貸し出し (乳幼児用絵本・育児に関する冊子など 20冊 …児童館) (小学低学年児童向け絵本、児童図書など 30冊 …学童)

問4. 「子ども読書の日」や「子ども読書週間」また「読書週間」に実施している取り組みがあったら教えてください。

青少年児童センター	特になし
若草なかよし館	特になし
おおケヤキ児童館	特になし
八田児童館	特になし
白根児童館	特になし
甲西児童館	特になし

問5. 子どもの読書活動の推進について意見・要望をお聞かせください。

青少年児童センター	<p>・子ども達が本を読むことはとても良いことだと思う。保護者も子どもに本とふれあってもらいたい等の意見をお持ちのようなので、児童館では楽しく、身近な内容の本や紙芝居等をおはなし会という形で提供しています。(幼児向け)今後も続けていこうと思っております。図書館からも多くの本や紙芝居を貸していただき感謝しております。季節の本や紙芝居等が多くあると嬉しいです。これからもよろしくお願い致します。</p>
若草なかよし館	
おおケヤキ児童館	<p>・平日、学校から児童館までの距離が遠く、小学生が帰ってきてもゆっくり本を読む時間・機会がない。 ・幼児親子に向けた絵本読み聞かせなどの時間を増やしていきたい。</p>
八田児童館	
白根児童館	
甲西児童館	<p>・児童館に来館する乳幼児親子は、図書館からの貸し出し絵本や育児書などを読む機会が多いです。絵本を通して親子のふれあいも生まれ、また子ども達を遊ばせながら育児書や子どもに関する本を読むことは、母親たちのリフレッシュにもつながっているようです。身近な場所で、本にふれる環境を整えることは、子ども達の読書活動につながり、成長する過程でも、とても大切だと感じます。</p>

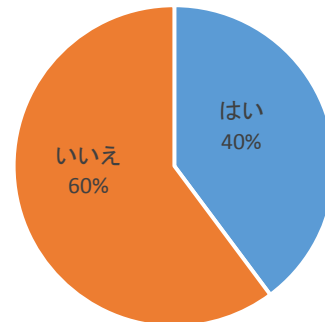
施設を対象としたアンケート調査では、学校関係のほかに保育所・各園と児童館も対象に実施した。5年前の集計結果と比べてみると、図書コーナーを設けている保育所・各園が73%であったが、その後の子育て創生事業での図書の充実等により、ほとんどの保育所・各園で図書コーナーを設けるようになっている。読み聞かせに関しては、全ての保育所・各園、児童館でそれぞれ継続した取り組みが行なわれている。家庭への図書貸し出しを行なっている保育所・各園が、5年前に比べ23%から67%と大きく増えており、読書に関しても家庭との連携が見られようになってきている。

また、市立図書館からの団体貸出も、毎月定期的に市内全ての児童館と保育所に行うようになり、更に充実してきている。子ども達が身近な場所で、本にふれることのできる環境が整ってきているといえる。

ブックスタートアンケート集計結果 4か月

Q1. 説明を受ける以前にブックスタート事業を知っていましたか

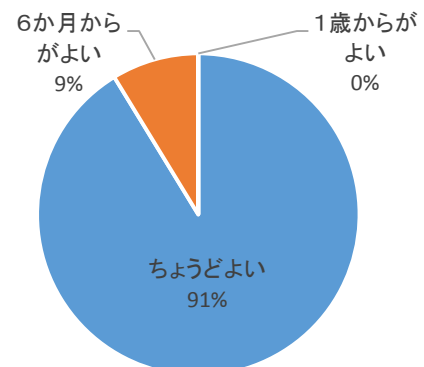
1.	はい	41人
2.	いいえ	62人
合計		103人



- ・この事業を知っている保護者が前回と比べ7%増えた。しかし、まだ知らない保護者が多い。今後も引き続き、市のホームページや広報などさまざまな方法で、この事業について情報発信をしていく必要があると考える。

Q2. ブックスタートセットを受け取る時期はいかがですか

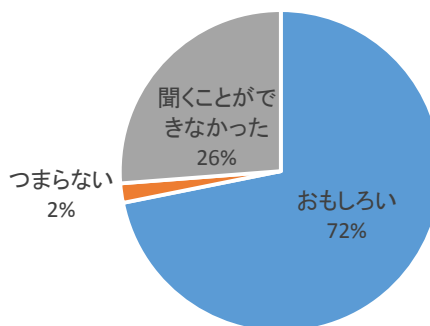
1.	ちょうどよい	94人
2.	6か月からがよい	9人
3.	1歳からがよい	0人
合計		103人



- ・「ちょうどよい」と答えた保護者が91%で、前回より9%多かった。子育てのステップの一つとして、4か月ごろから子どもに本を読んであげようと考えているお母さんが多いので、この時期に本を手渡すことがよいと思われる。
- ・いつから本を読んであげればよいか迷っている保護者にとって、4か月健診時の絵本のプレゼントは、赤ちゃんに本を読んであげるきっかけになっていることがうかがえる。
- ・小さいときから本にふれ、読書を楽しむことを目指している市の子どもの読書活動推進計画と照らし合わせても、ちょうど良い時期だと思われる。

Q 3. ミニおはなし会の内容はいかがでしたか

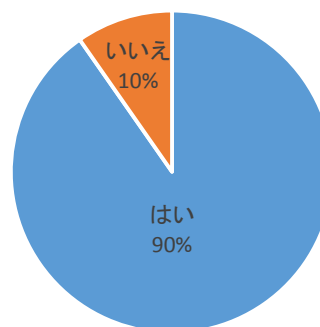
1. おもしろい	74 人
2. つまらない	2 人
3. 聞くことができなかった	27 人
合計	103 人



- ・ほとんどの保護者が「おもしろい」と回答している。読み聞かせやわらべうたを子どもたちと一緒に楽しんで見ていてくれる様子が見える。
- ・ごく少数であるが「つまらない」という回答があったので、実演する司書の反省を含めスキルアップが必要である。
- ・「聞くことができなかった」は、平成26年度から、ミニおはなし会実施内容の変更（健診待ち時間での開催）があったためと思われる。今後、健康増進課との連絡会議の中で、実演方法や時間等についても検討していく必要があると考える。

Q 4. 図書館のおはなし会に参加したいと思いましたか

1. はい	93 人
2. いいえ	10 人
合計	103 人



- ・多くの保護者がおはなし会に参加したいと回答してくれたが、「仕事をしているため参加できない」との回答もあった。おはなし会への参加の呼びかけだけでなく、家庭生活の中で少しの時間でもいいので、親子で本とふれあうことの大切さを伝えていくことが必要だと考える。

Q 5. その他感想等ありましたらご記入ください

- ・どんな本がいいかわからないので参考になり助かりました。
- ・わらべ歌はあまり知らないなので、もっと知りたい。
- ・わらべうたを知る機会が少ないので楽しかった。（2）
- ・4ヶ月でも本を読んであげると反応があるので、これからも読んであげたいです。

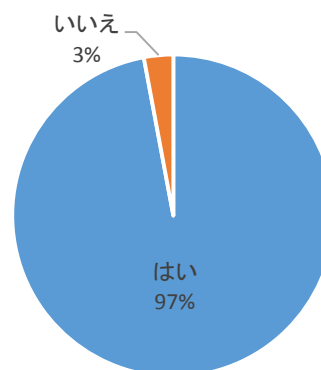
- ・上の子のときも本をいただきとてもよかったです。
- ・子どもを連れて図書館に行ってみたいと思います。
- ・周りがにぎやかだったので少し聞こえづらかったけど、一緒に楽しめるのはとても良いと思いました。
- ・イベントなど知りたい。
- ・細かく説明してもらいわかりやすく、ありがたいです。
- ・絵本とてもうれしいです。ありがとうございました。
- ・人の声で絵本に触れるステキな時間だと思います。
- ・自分の持っていない本をいただけてありがたいです。
- ・上の子の時とは違う本をいただけたので、また一緒に絵本タイムが楽しめそうです。
- ・ありがとうございました。
- ・仕事をしているため参加できず残念です。
- ・すでに持っている本があるので、出生届を出すときにどんな本をいただけるか知ることができたらよいかと思いました。(2)

- ・時期、内容については、ほぼ満足していると考え。「参考になった」と感想にあるように、いつ頃から、どんなふうに絵本を子どもに読んであげたらよいのかなど、具体的に知らない保護者も多いと思われる。そんな時期のブックスタートは、小さいころから親子で本に親しむきっかけのひとつとして、とても有効であると考えられる。
- ・わらべうたは、スキンシップをしながら親子のふれあいを深めることができるので、この時期にわらべうたを知ることとはとてもよいことだと考える。わらべうたを知らない保護者にとっても遊び方を学ぶよい機会となり、育児のサポートにもつながっているのではないかと思われる。
- ・「すでに持っている本があるので、どんな本をいただけるか知ることができたら」という意見については、平成26年度より第1子、第2子以降と毎年絵本の変更を行っている。プレゼントの絵本については、今後も定期的に検討をし、ブックスタート事業のPRを含め、どんな絵本をプレゼントするのかを保護者に伝えていく必要があると考える。

ブックスタートアンケート集計結果 1歳6か月

Q1. プレゼントの本2冊は読みましたか

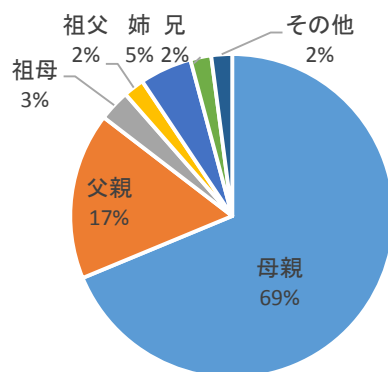
1.	はい	66人
2.	いいえ	2人
	合計	68人



・多くの保護者が、プレゼントされた本2冊とも読んでくれたことがわかる。「いいえ」の回答のひとは、ブックスタート以後に転入された方である。ごくわずかだが、絵本を読んでいない家庭があったことはとても残念である。どのような理由だったのかを課題としてとらえ、配布時に、この事業の趣旨をきちんと伝えていかなければならないと考える。

Q2. はいと答えた方におたずねします、主に誰が読んであげていましたか (複数回答可)

1.	母親	66人
2.	父親	16人
3.	祖母	3人
4.	祖父	2人
5.	姉	5人
6.	兄	2人
7.	その他	2人
	合計	96人



・本を読んであげるのは、69%が母親で最も多く、次いで父親が17%であった。前回と比べると、3%とわずかながらだ父親が多くなっている。しかし、母親に比べると時間が少ない。父親による読み聞かせをすすめながら、家族で楽しめるおはなし会やイベントなどを計画していきたい。

・両親以外の家族に読んでもらったことは、とても喜ばしいことである。家族がブックスタートの本をきっかけに、確実に赤ちゃんにふれあう時間を持つことができたのではないだろうか。

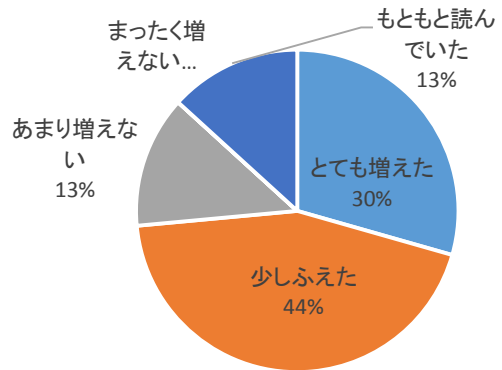
Q2. また、その時のお子さんの様子はいかがでしたか

- ・笑顔で喜んで聞いている。
- ・読んで欲しい本を持ってくる。
- ・最初はよく見ていた。
- ・最初はあまり聞いていなかったが、次第に興味を示すようになった。
- ・だんだん自分でも本を持ってきて、「ばあ」と言うようになった。
- ・嬉しそうに自分でページをめくっていました。(2人)
- ・最初はそばで聞いていたが、他のおもちゃで遊ぶことが多い。
- ・話を聞くというより、すぐにページをめくりたがる。どンドンめくる。
- ・「いないいないばあ」は喜んでいた。
- ・指をさしたり楽しそうに声を出す。
- ・最初は聞いてくれるけど、すぐにあきてしまった。(2人)
- ・興味津々
- ・興味を示し、何度も繰り返し読んで欲しいと要求していました。
- ・じっと見ている。じっと聞いている。(3人)
- ・最初は聞いていられなかったが、繰り返す中で、膝に座って聞いていられるようになった。
- ・「いないいないばあ」はすごくくいつきがよかったです。
- ・少しぐずっていても喜んだりして、お気に入りの本になりました。
- ・楽しそうだった。よく「読んでほしい」とねだる。
- ・うれしそうに開いていましたが、最近では取り上げて自分で読むまねをします。
- ・本をめくりまくった。2回目はまだ絵本に興味を持てず離れていった。
- ・指をさしたりページをめくったりする。
- ・真剣に見て、年齢を重ねて楽しそうに見てくれるようになった。
- ・やぶってしまった。
- ・にこにこしながら、開いたりまねをしている。
- ・4ヶ月健診のとき、「いないいないばあ」は笑顔になり、とても喜んでくれました。今は歌いながら読んでいます。
- ・指をさしておしゃべりしたり、笑ったりしていた。(2人)
- ・4ヶ月の時はじっと聞いていました。1歳過ぎからは指さしたり、自分でページをめくったりしていました。
- ・楽しそう。
- ・よく聞いていた。
- ・もらえなかった

・「喜んで聞いてくれた」「興味を持ってくれた」という回答が多い一方で、「まだ興味を示さない」「あまり聞いていなかった」という回答もあった。ブックスタートで行っている「ミニおはなし会」でもそうだが、同じ年齢でも子どもによって反応に差がある。最初のうちは興味がなさそうでも、成長していくにつれて興味をもつことが多い。くりかえし読むことや一緒に楽しむことが大切であるということを保護者に伝えながら、家庭での読み聞かせを継続してもらえよう、今後も働きかけていきたい。

Q3. ブックスタートをきっかけに、お子さんに本を読んであげる機会が増えましたか

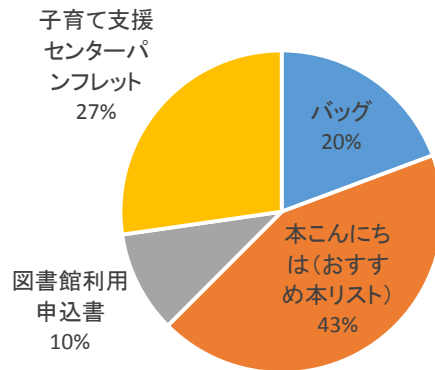
1.	とても増えた	20人
2.	少しふえた	30人
3.	あまり増えない	9人
4.	まったく増えない	0人
5.	もともと読んでいた	9人
合計		68人



- ・「とても増えた」「少し増えた」をあわせると73%の家庭で本にふれる機会が増えている。ブックスタートが、本をとおして赤ちゃんにふれあう時間が増えるきっかけになったのだと考えられる。
- ・「もともと読んでいた」という家庭では、ブックスタートも親子で本を読む機会のひとつであったと思われる。
- ・「あまり増えない」「まったく増えない」という家庭が13%ある。赤ちゃんのときから身近な場所で本にふれて育つことが、子どもの読書活動を推進していく第一歩である。読み聞かせの楽しさや、読み聞かせをとおした親子のふれあいの大切さなどを伝えていきたい。

Q4. ブックスタート配布物のうち、活用できたものはありますか（複数回答可）

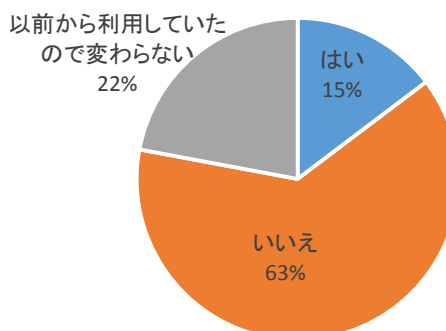
1.	バッグ	17人
2.	本こんにちは(おすすめ本リスト)	38人
3.	図書館利用申込書	9人
4.	子育て支援センターパンフレット	24人
合計		88人



- ・最も活用されたのは「本こんにちは」で、図書館で本を利用するときや書店で本を購入するときの参考にしてもらっているのではないと思われる。
- ・「バッグ」は赤ちゃん向けの絵本を入れるのにちょうどよい大きさなので、実際に図書館で本を借りるときに図書袋としてよく利用されている。また「子育て支援センターパンフレット」も母親たちの生活の情報源として役立っていることがわかる。
- ・新しい本も出版されているので、リストについては定期的に検討が必要である。また、長く読み継がれ、質の高い絵本も同時に紹介していきたい。

Q5. ブックスタート後、図書館を利用する機会が増えましたか

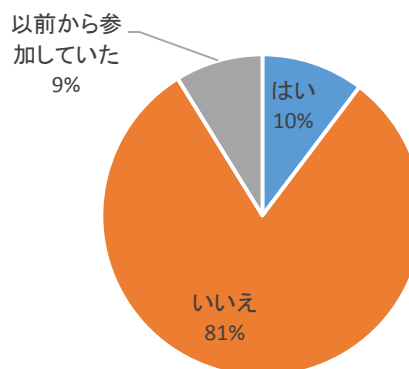
1.	はい	10 人
2.	いいえ	43 人
3.	以前から利用していたので変わらない	15 人
合計		68 人



- ・「はい」と「以前から利用していた」をあわせた14%に対して、「いいえ」が63%という状況だった。この結果は、前回と同じで、残念ながらブックスタートが図書館を利用する機会を増やすことにはあまりつながっていないと読み取れる。また、忙しい日々を送っている保護者の家庭生活も記述からうかがえた。

Q6. ブックスタート後、図書館のおはなし会に参加するようになりましたか

1.	はい	7 人
2.	いいえ	55 人
3.	以前から参加していた	6 人
合計		68 人



- ・80%の保護者が「いいえ」と答えた。おはなし会の開催日時や両親が勤めているなどの家庭の事情、その日の赤ちゃんの体調など様々な要因で参加できないことも多いのではないかとと思われる。
- ・少数ではあるが、参加のきっかけになった保護者がいることや、毎週楽しみで参加してくれる保護者がいることを大切に、参加者を増やす努力をしていきたい。
- ・おはなし会の内容充実やPRも検討課題である。職員のスキルアップとともに、子育てサークルなどと連携するなど、何らかの手立てをしていく必要がある。

Q7. その他感想等がありましたらご記入ください

- ・ブックスタートをきっかけに、いろいろな本を買い読み聞かせるきっかけが増えて、自分で

進んでお気に入りの本を「読んで！」と持ってきてくれるようになった。

- ・自分で上手に本をめくって自分なりに真似して本を読んでいる。
- ・子どもが絵本に興味をもったり楽しそうに見ていることも増えたので、少しでもいろいろな本を読んであげたいと思いました。
- ・親子で本を読む機会を増やし、コミュニケーションを図りたい。
- ・本をとっても大好きな子なので、もらってよかったです。
- ・いろいろな絵本の中からお気に入りを見つけたり、やりとりを楽しめるので、ブックスタートは嬉しい1冊でした。
- ・いい本というのは嬉しいのだが、有名すぎてもらっていたので、新作とかにしてほしい。そして赤ちゃんにはペラペラなので、もっと固い五感（厚い本）を楽しむような本の方が嬉しいと思います。
- ・もっとたくさんおすすめの本が分かると借りやすいです。
- ・上の子もブックスタートのおかげで本が大好きになり、学ぶことが好きでいてくれます。本当にありがとうございます。
- ・もう少ししっかりした本が良かったと思います。
- ・4ヶ月という月齢での本の読み聞かせは反応があまりなく、すすんで読んであげることがなかったですが、7ヶ月頃から読んで頂いた本を活用できました。今は毎日読んでいます。
- ・もっと種類を多くしてもらって、その中から選べるといいと思います。有名な本なのですでに持っているものだったし、うちは双子だったので同じ本を2冊いただきました。
- ・共働きなので、なかなか時間が取れないけれど、絵本をとおして親子のふれあいを大切にしていきたいと思っている。

- ・ブックスタートをきっかけに本が好きになり、読み聞かせる機会が増えたとの感想も寄せられこの事業を喜んでもらえていることがうかがえる。
- ・ブックスタート事業によって、2冊ではあるが、市内すべての4ヶ月児に絵本のある環境を与えられるということはとても意義があると思う。読み聞かせは親子のふれあいにつながると思う。
- ・配布の絵本については、平成26年度より第1子、第2子以降と毎年絵本の変更を行っている。赤ちゃん一人ひとりへのプレゼントだということをPRしながら、今後も定期的に内容の検討をしていきたい。
- ・装丁がしっかりした本の希望もあったが、赤ちゃんに長く読み継がれ、質の高い絵本を選んでいる。そのことを含め伝えていく必要があると考える。
Q5やQ6の結果にあるように、実際にはブックスタートが図書館利用やおはなし会への参加につながっていないことが見受けられる。事業の継続と推進をとおして図書館の利用につながるような対策を講じていきたい。
- ・この事業は、絵本をとおして、親子であたかなふれあいのひとときを過ごすきっかけ作りを目的とした子育て支援事業の一つである。そのこととともに図書館の利用も促していきたい。図書館にはたくさん本が用意されている。その中で特別な1冊に会えるよう、今後もさまざまな方法で情報発信をしていく必要がある。